

迫り来る

地球の危機Ⅱ

ストップ・ザ・スカラー兵器！
— 地球崩壊の阻止に向けて —

スカラー波のもたらす

地球大異変への警鐘！！

科学時代の啓蒙書

JI 第22巻 特別増刊号

JI

昭和五十四年七月二十二日第三種郵便物認可
平成十一年七月五日発行

第一十二巻特別増刊号

J I
=正法の集い=
第22巻 特別増刊号
インターネット公開版

発行日 平成11年 1月15日
電子書籍作成 平成17年 5月 3日
最終更新日 平成18年 1月 3日
作成者 エルアール出版
(旧ジェイアイ出版)

迫り来る地球の危機Ⅱ

ストップ・ザ・スカラー兵器！

地球崩壊の阻止に向けて

科学時代の啓蒙書

Ⅱ 第二十二卷特別増刊号

ジェイアイ出版社

はじめに

ニューヨーク州では、幼児癌の二〇％は、わずか三ミリガウスの電磁波を（高圧線）鉄塔の送電線から受けたためと正式に認めております。又、一九九二年、スウェーデン・カロリンスカ研究所により、（高圧線）鉄塔の送電線から三百メートル以内に住んでいる住民五十三万人を対象にした疫学調査の結果が発表されました。この調査によると、（高圧線）鉄塔の近くに住む子供の小児白血病の発生率は、（高圧線）鉄塔の無い所よりも三・八倍も高いことが明らかになりました。この調査結果は、欧米諸国や、アジア諸国も含め、スウェーデンなどでは、我が国のような家庭用配線の違法工事は行われていないからです。他にも、電磁波の悪影響に関する疫学調査は多数存在しますが、我が国政府は依然として、電磁波と健康の関連性を明確にすることについて及び腰で、慎重な態度を崩していません。

しかし、極低周波、超低周波の変動磁場が生物学的パラメータに変調を及ぼし、人体内の磁気に敏感なあらゆる物質（脳内の磁鉄鉱結晶、生体全体の結晶、 Fe_3O_4 、赤血球）に

対して磁気誘導を進展させることは生物物理学の分野で確認されています。

我が国における送配電線工事の安全性のガイドラインは、エネルギー政策を管轄する通産省所管の電気事業法及びそれに基づく電気設備技術基準（通産省令）等により、又、有線、CATV、電話線等に関しては通信事業を担う郵政省所管の電気通信事業法等に定められています。しかし、その基準は、いかに電気を供給するか、いかに停電数を減らすかといった目的等により設置されており、残念ながら電気事業法においては、送配電線からの漏洩電磁波を、人体に対して有害であるとは定義されておらず、「電気工作物の工事、維持および運用を規制することによって、公共の安全を確保し、あわせて公害の防止を図ることを目的」（第一条）——この中でうたわれている「公共の安全」「公害の防止」——は、現在の送配電線の多面的な違法工事に関しては、全く空文化されていると言っても過言ではなく、こ

の語句の定義そのものの見直しが必要であると考えます。電気事業法では、全く規制されていない「送配電線からの漏洩磁界」に関し、私達は独自の調査を行いました。その詳細が本書に記載されております。

六〇年代の経済成長期より、我が国においては、公害の大量な発生がみられるようになり、それに伴い、良き環境を享受し、これを支配する権利として「環境権」が提唱され始めました。これは、環境の破壊により個人や地域住民に被害が現実に生じ、或いは生じる前に、被害の原因を除去または減少させ得る（妨害排除または予防請求権）というものです。私達が送配電線、通信線等工事の違法性を指摘する場合、もとより関連法規への抵触のみならず、法の目的たる公共の安全性確保から甚だしく逸脱している設置基準（省令等）の違法性と共に、電磁波等の被曝値の高さ故に、憲法十三条（幸福追求権）及び二十五条（生存権保障）を根拠とする「環境権」という国民の法益の重大なる侵害として捉えているものです。（この環境権は社会権としての具体的権利性に欠けるといふ批判はあるものの、裁

判手続きを通しては民法七〇九条の損害賠償請求権、差止請求権を主張する際の重要な一判断基準として斟酌されるべきものであると考えます。）

現在、日本では、電磁波が生体に有害であるとの認識が高まりつつあり、またそれに押される形で政府も重い腰をあげておりますが、まだまだ電磁波の被曝が公害として法規化されるには程遠く、困難な問題を先送りするお役所的体質はまったく変わってはおりません。この困難な問題を先送りする人類の姿勢は、例えばコンピューター二〇〇〇年問題にみられるように、十数年まえからこの問題を指摘し、本まで出していた人がいたにもかかわらず、誰も相手にしなかった。二〇〇〇年を目前にして、大騒ぎし、無駄な資金と労力を消費する、それどころかコンピューターの誤作動により、核ミサイル、衛星などが誤作動し、最悪の結果を迎えるといったことも考えられております。

これと同じ運命を電磁波問題がたどらないとも限らないわけです。そしてさらに、特殊電磁波である、兵器としてのスカラー波の脅威が真の問題として控えております。そ

の為私達は、スカラー波を研究して参りました。その成果が本書に反映されております（弊社既刊『神々の憂いと悲しみ』、J-I第二十卷特別増刊号『迫り来る地球の危機』、第二十一卷特別増刊号『環境問題の本質を問う！』等も併せて御参照賜れば、地球の危機的現状について、より深い御理解を頂けるものと存じます）。この左翼系列によるスカラー波乱用の問題は電磁波との密接なつながりをもちつつ、惑星系規模での影響も考慮される問題です。冒頭から送配

電線の電磁波漏洩問題にふれて参りましたのは、私達の研究により、現在の送配電線における電力供給形態が、スカラー波を増幅させていると判明したからです。その点において、私達は原発や送電線建設反対の草の根運動を展開する左傾市民団体とは一線を画しており、そのオリジナリティと、問題の深刻さを本書から読み取っていただければ幸いです。

（J-I編集部）

目次

はじめに	1
神々の怒り	6
違法工事写真・スケッチ	46
けつたいな広島、島根、山口の虫たち	89
王手！ 人工スカラー波の存在証明	96
科学トピックス・電磁兵器最先端	100
身近に迫ったスカラー波、電磁波による環境破壊	116
一、ポケモン被害は計画的な犯行!／二、スカラー波攪拌機見つけた！ピルの谷間の観覧車／	
三、オゾンホールは、地球磁場の異常が原因／四、富士山の雪が消えてしまった 誰が犯人だ？	
一やっぱり左翼ゲリラが下手人ですか 納得!／五、毒物だけではない、不審爆発がもたらす、	
大きな危険!／六、人工スカラー波が地球に蔓延すれば、地球は窒息死する／七、諸悪の根源は、	
人工スカラー波による地球規模の汚染!／八、「諸悪の根源は、人工スカラー波による地球規模の	
汚染!」の補足	
原子力発電の撤廃について	158
滝由起也	

スカラー波と人体について	大岡 広	162
スカラー波の实在の証明（理論と体験から）	森田正俊	198
わかりやすいスカラー波の説明		232
スカラー波についての補足説明	仲田順一	247
スカラー波技術の理論と応用	中江 中	253
アンテナから推測したスカラー攻撃方法の説明	小泉万馬	263
スカラー波はDNAの働きに直接関与している	一条和輝	267
人工スカラー波が及ぼす生体高分子への悪影響	萩本祐子	273
スカラー電磁気と気象コントロール	池岡克致	279
反ダイオキシシン・環境ホルモン運動が招く危機	萩本祐子	286
マックスウエルの方程式について	山田 修	299
偽物（ギブズ）に注意！		
「グッチ」と「ロレックス」と「マックスウエル方程式」	水谷俊夫	301
学校教育は地方にまかせるな	赤嫌疑全	307
「父性の教育がモラルをつくる」より抜粋		318

違法工事写真・スケッチ

ガウスメーターで実際測定される電磁場は、電線そのものが発生する電磁場だけなのかどうか、立地条件による差はあるのか、あるとしたらどのような場合により強く測定されるのかを調査するために、(1) 高台で周囲に建物などがない場所と(2) そばに山があり比較的建物が密集している場所と比較検討してみました。(1) として多治見市脇の島町を、(2) として各務原市鶴沼羽場町を選びました。

(1) 多治見市脇の島町

この場所は標高二〇〇メートルほどの高台で、特に大きい建造物がありません。比較的風通しが良い環境です。写真に示すように二本の電線を平行に束ねたり、何重にも巻いた電線工作がされており、その電柱の下では○・四ミリガウス(②)でした。同じ地区で場所を変えて測定しましたが、ほぼ同じ様な値でした。

(2) 各務原市鶴沼羽場町

この場所はそばに標高二五〇メートル程度の山があり、この場所は標高七〇メートル程度です。山からの風が吹き下ろす環境で、住宅地で風の流れが妨げられるようです。この地区で約三箇所測定しました。電線工作は(1)と似ていますが、いずれも七〜一〇ミリ

ガウスでした。また、同じ電柱でも、電柱の下では七ミリガウス、電柱に青の棒に赤の布でできた宣伝用の旗の横では八・八ミリガウスと差が出ました(④)。この近所で木がある場所では一〇・七ミリガウスでした(⑤)。

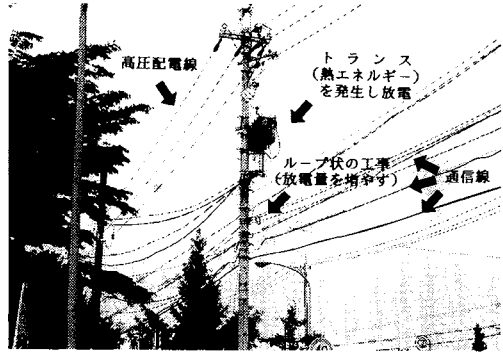
(1) (2) を比べ考えてみると、風が吹き込み、滞る環境の方がより高い電磁場であったこと、電磁場の数値が高く出た環境では宣伝用の旗、木々がある場所ほど強く出るようです。以上のことは、単に電線から出る電磁場のみでは説明がつきません。電線工作により生成されたスカラーポテンシャルが風の渦によって、より強い電磁場を作り出すと考えられ、意図的にアンテナ工作をし、通り掛かりの人々に悪影響を及ぼしているのではないのでしょうか。また、木によつては電磁場を強くできることも明記する必要があります。

(2) が住宅地であることを考えると背筋が寒くなります。この調査は岐阜の集いメンバーの御尽力があつて始めてできたことを報告すると共に感謝いたします。

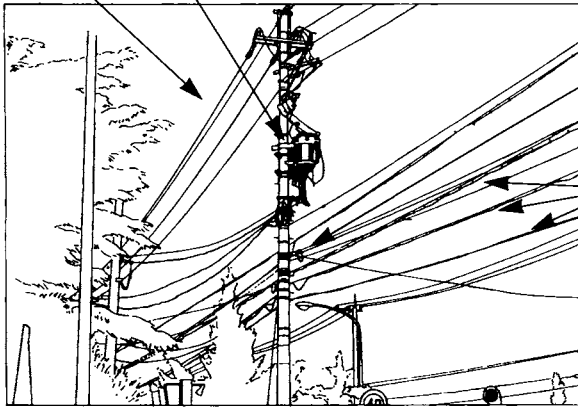
大岡 広

(1) 多治見市脇の島町

①



トランス
(熱エネルギー
を発生し放電)
高圧配電線



ループ状の工事
(放電量を増やす)
通信線

②



街路樹の並木
(S波の吸収・放電
を繰り返す)

ガードレール
(S波搬送・放電に
利用されやすい)

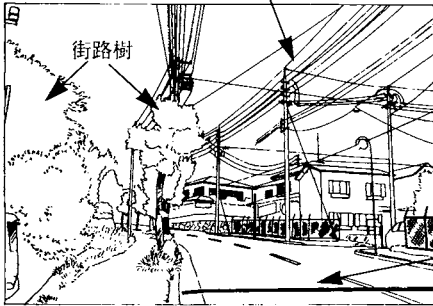
ガードレール
(S波搬送・放電に
利用されやすい)

電磁場測定値……0.4ミリガウス

(2) 各務原市鷺沼羽場町

③

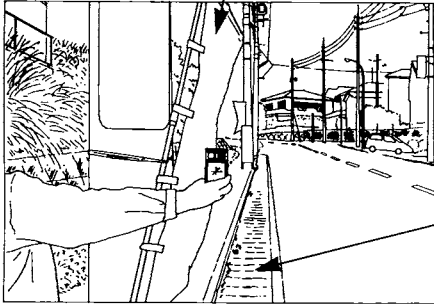
ダブルの高圧配電線
(強い電磁波が出やすい)



鉄製の溝蓋
(S波搬送・放電に利用されやすい)

④

斜めに取り付けた広告旗
(S波の吸収・放電工作)

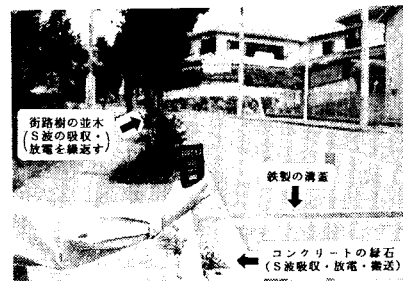
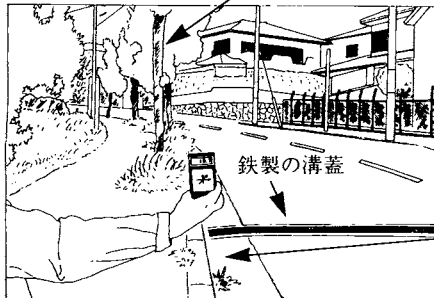


コンクリート溝
(S波吸収・放電・搬送)

電磁場測定値……8.8ミリガウス

⑤

街路樹の並木
(S波吸収・放電を繰り返す)

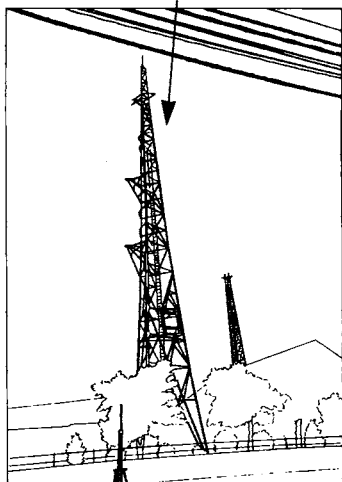


コンクリートの緑石
(S波吸収・放電・搬送)

電磁場測定値……10.7ミリガウス

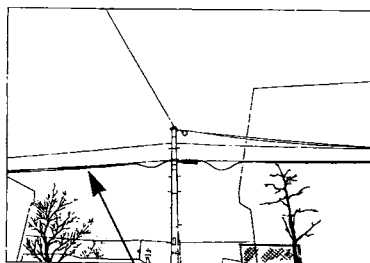
北海道札幌市
陸上自衛隊札幌駐屯地

レーダー用鉄塔？
(S波用アンテナとして利用される)



レーダー用鉄塔？
(S波用アンテナとして利用される)

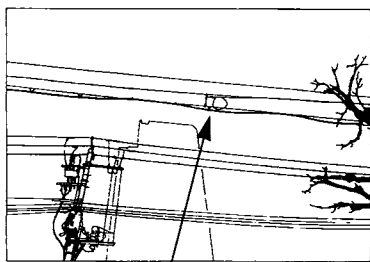
電磁場測定値
(鉄塔の横)
地上1m……0.3ミリガウス
1.5m……0.3
〃
(道路の向かい側、配電線下)
地上1m……1.8ミリガウス
1.5m……1.8
〃



工作用に取付けた？カバー
(放電を容易にする目的か)

工作用に取付けた？カバー
(放電を容易にする目的か)

札幌北区民センター



途中でループ状になった通信線
(放電箇所を設ける)

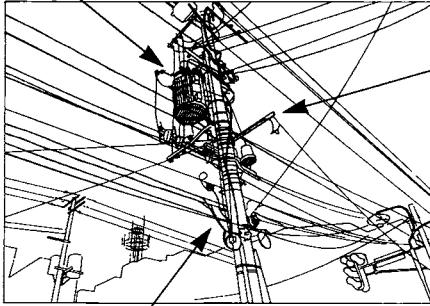
電磁場測定値
地上0m……0.3ミリガウス
0.5m……0.3
〃
1m……0.4
〃
1.5m……0.4
〃

地下鉄二十四条駅近くの飲食店前



トランス
(中身は鉄心とコイル → 強い電磁波を発生)

遮断器
(有害な電磁波を発生しやすい)



不要な腕木が多い
(放電箇所を増やす)

電磁場測定値

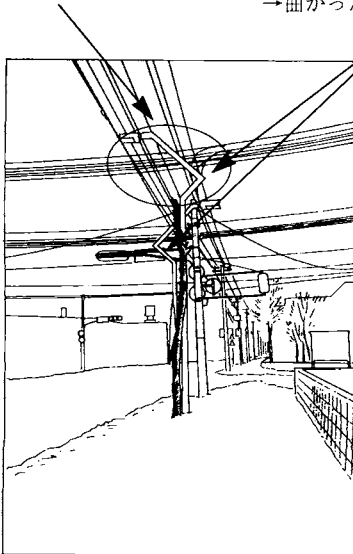
地上0m	0.6	ミリガウス
0.5m	0.6	〃
1m	0.8	〃
1.5m	0.9	〃

弛んだ電線 (電磁場を発生)

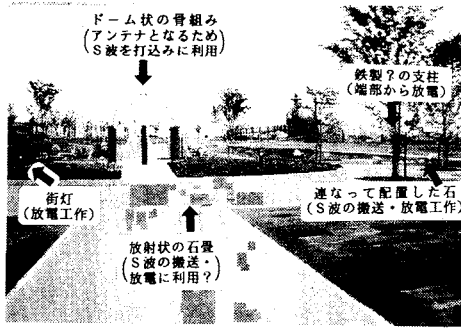
北海道名寄市
市内街灯

配電線の交差箇所
(磁場が溜まりやすい)

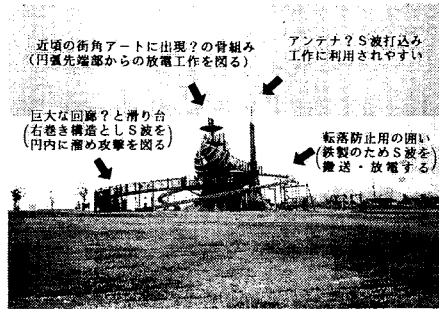
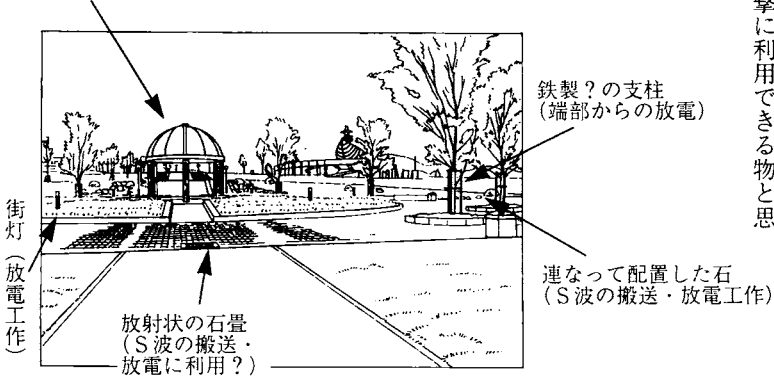
折れ曲がった形の街灯
(車道と歩道用あるのはめずらしい
→ 曲がった箇所から放電しやすい)



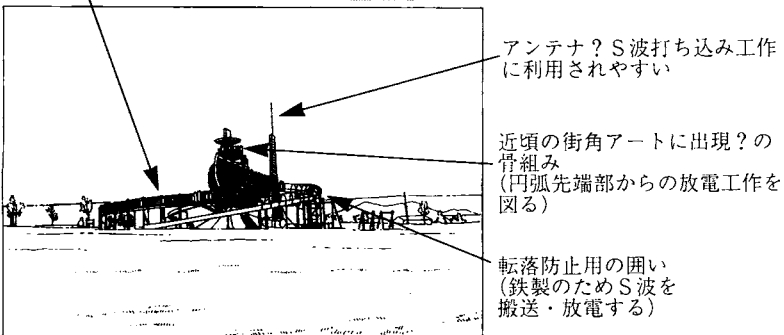
産経新聞に紹介された岡山県浦安の「子供夢が島」です。電磁場測定値は0・000ミリガウスでしたが、形状として、いつでもS波攻撃に利用できる物と思われましたので、報告致します。



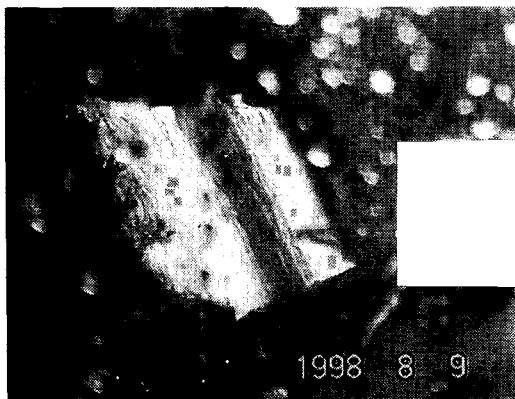
ドーム状の骨組み
(アンテナとなるため
S波打ち込みに利用)



巨大な回廊?と滑り台
(右巻き構造とし、S波を円内
に溜め攻撃を図る)



ループが右巻きだと外へ放電します(放電工作)。但し、このすべり台?は最初の昇りが左巻きで溜め込み、次に右にループ形状で下り坂。ねじり型——つまり溜めて放電の巧妙なアンテナです!
(千乃)



大雨のため擁壁から流れ出る雨水
(S波が流れ込み?)



(擁壁にワイヤー・フェンスが張っており、雨水にS波が多く流れ込み、
周辺にたまったものを流し出さないよう工夫がしてあります。 千乃)

◆警察署へのアンテナ工作

広島県東城交番

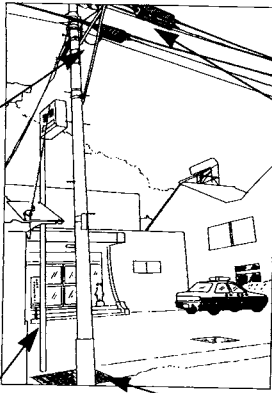


電磁場測定値 (電柱No本町12)

地上0cm	1.5	ミリガウス
50cm	1.7	〃
1m	2.0	〃
1.5m	2.0	〃

通信線の接続箱
(接続箇所を多くし放電を図る)

ループ状の工事 (放電工作)



鉄柱は磁性体の為 S波を吸収しやすい
鉄製の溝蓋 (溝を伝搬した S波の放出箇所)

(数値が案外低いのはG測定をしている時はS波を射ち込まないようにしているのでは?? 千乃)

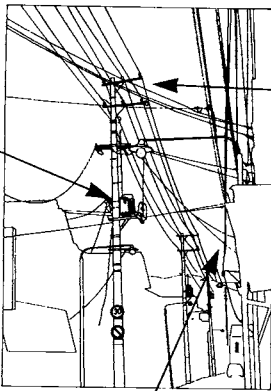


電磁場測定値 (電柱No東城幹18、交番向かい側)

地上0cm	2.1	ミリガウス
50cm	2.2	〃
1m	2.4	〃
1.5m	2.5	〃

ダブルの配電線
(民家数に対し多い?)

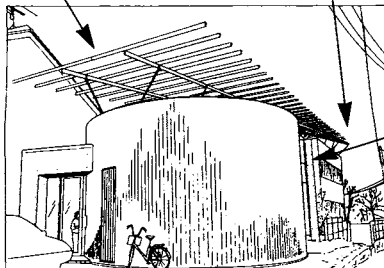
各電柱にトランス設置
(放出箇所を増やす工作)



道路中央分へ張り出した通信線

屋根に取り付けた奇妙な骨構造物

先端が合わさっている

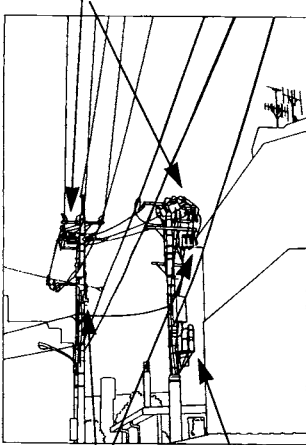


鉄筋コンクリート製のため S波を吸収・放電しやすい

交番に向かって右側にある歯科医院



遮断器
(分岐箇所を設け放電箇所を増す)



トランス 鉄製の足場



電磁場測定値

地上0cm	0.1	ミリガウス
50cm	0.1	ク
1m	0.2	ク
1.5m	0.2	ク

広島県西条警察署

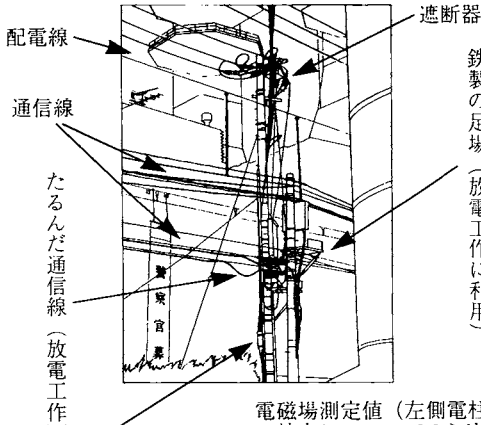
トランス
(熱エネルギーを発生し放電)



ループ工事

通信アンテナ
(S波打込みに利用される)
左巻きの反射板
(S波を溜め込む)

広島県尾道警察署



電磁場測定値 (左側電柱)

地上0cm	0.3	ミリガウス
50cm	0.3	ク
1m	0.5	ク
1.5m	0.5	ク

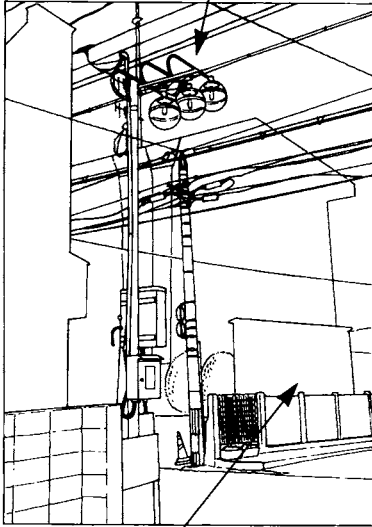


電磁場測定値 (右側電柱)

地上0cm	0.3	ミリガウス
50cm	0.5	ク
1m	0.7	ク
1.5m	0.8	ク

(ズームアップ)

奇妙な形の街灯
(放電箇所を増設)



看板用の鉄柱
(鉄鋼は磁性体のためS波を
吸収)



広島県庄原警察署

奇妙な形の街灯
(放電箇所を増設)

看板用の鉄柱
(鉄鋼は磁性体の
ためS波を吸収)

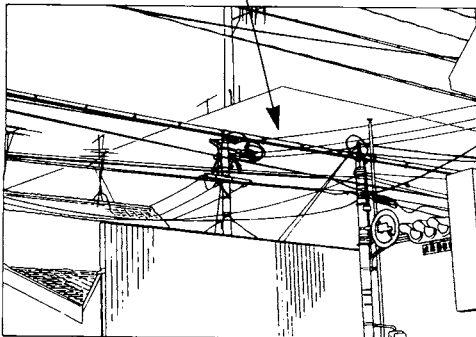
電磁場測定値

地上0m	0.7	ミリガウス
0.5m	0.8	〃
1m	1.4	〃
1.5m	1.5	〃

高圧配電線
(強い電磁波放出)



高圧配電線
(強い電磁波放出)



電磁場測定値

地上0m	0.5	ミリガウス
0.5m	1.3	〃
1m	1.6	〃
1.5m	4.5	〃

高圧配電線

コンビニ看板用鉄柱
(S波用アンテナとなる)

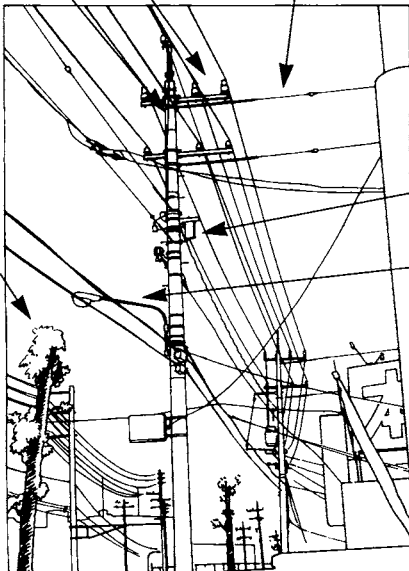
奇妙な形の街路樹



上下に高圧配電線
(強い電磁波放出する)

不要支線?
(放電工作)

奇妙に剪定した街路樹



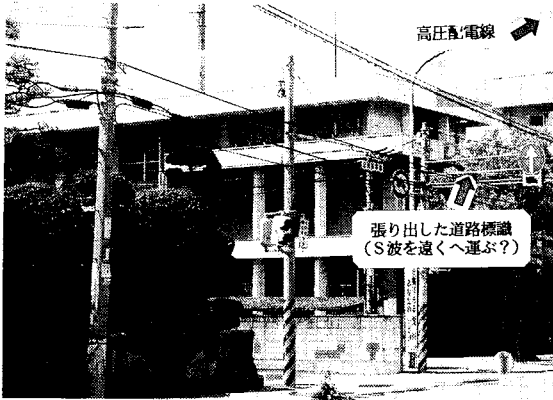
街灯用トランス
(放電しやすい構造)

街灯

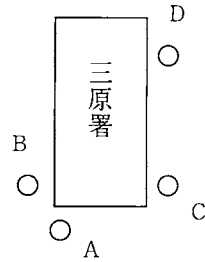
電磁場測定値

地上1m…6.6ミリガウス
1.5m…7.0 ヶ

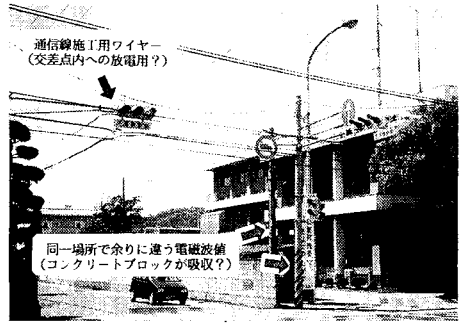
(警察署は控え目の安全圏内において、派出所は依然高測定値!!
何という陰険な電劣!! 千乃)



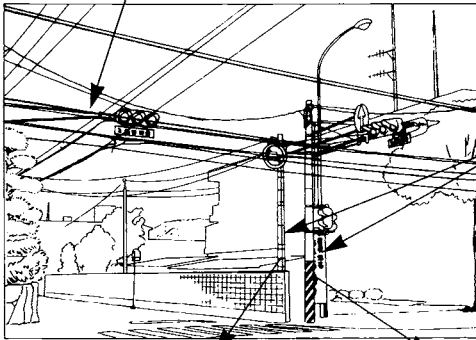
高圧配電線



張り出した道路標識
(S波を遠くへ運ぶ?)



通信線施工用ワイヤー
(交差点内への放電用?)



同一場所で余りに違う電磁波値
(コンクリートブロックが吸収?)

電磁場測定値 (B地点電柱)

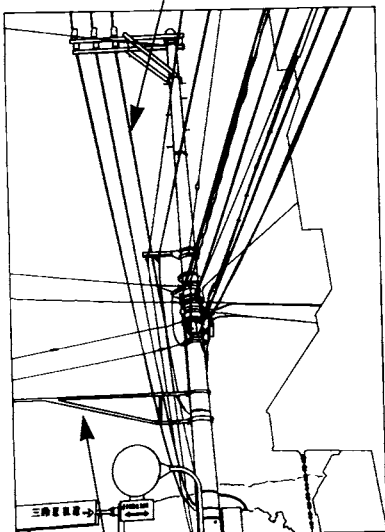
地上0m	0.8	ミリガウス
0.5m	0.9	〃
1m	0.9	〃
1.5m	0.9	〃

電磁場測定値 (A地点電柱)

地上0m	4.3	ミリガウス
0.5m	5.3	〃
1m	14.1	〃
1.5m	17.4	〃

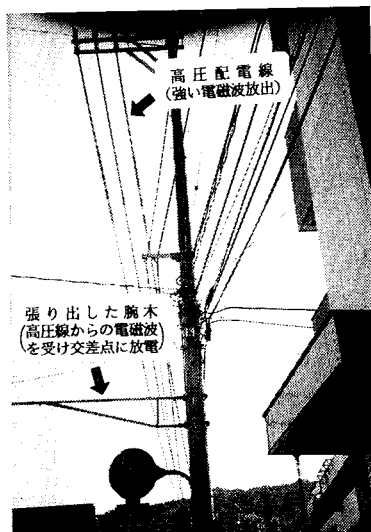
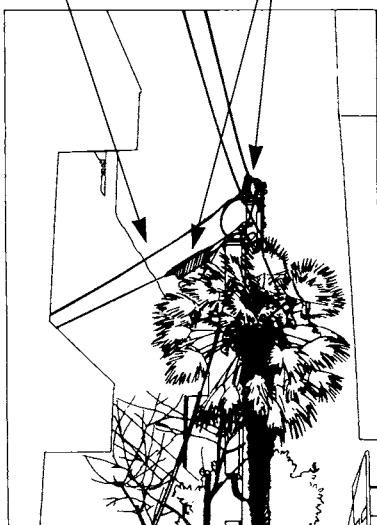
(何という事!! 腹黒い電労は交差点を理由にするでしょうねえ。三原署は狙われていますねー。 千乃)

高圧配電線
(強い電磁波放出)



張り出した腕木
(高圧線からの電磁波を受け交差点に放電)

通信線
通信線分岐箱
(放電箇所)



電磁場測定値 (C地点電柱)

地上0m	2.2	ミリガウス
0.5m	2.4	〃
1m	2.5	〃
1.5m	2.7	〃



電磁場測定値 (D地点電柱)

地上0m	0.9	ミリガウス
0.5m	0.9	〃
1m	0.9	〃
1.5m	0.9	〃

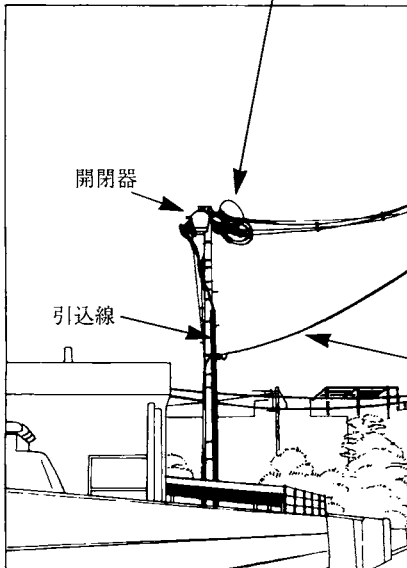
引留工事
 (山なり形状は電磁波を
 放出しやすい。)

ループ状の工作



道路標識用構造物
 (全て鉄材のため、電磁波を吸収し
 →増幅→周囲を汚染)

高圧架空電線引留工事
 (曲がり形状を設けると、電
 磁波が出やすくなる)

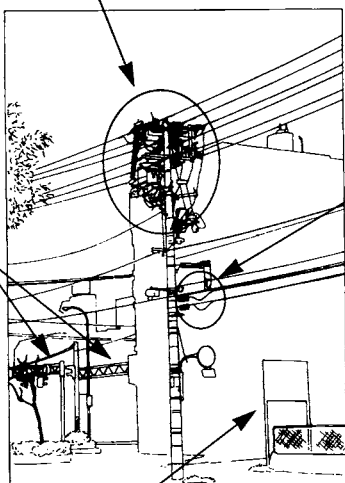


電磁場測定値 (警察に引き込まれて
 いる電柱)

地上0m	0.4ミリガウス	
0.5m	0.4	〃
1m	0.5	〃
1.5m	0.5	〃

高圧架空電線引留工事
(放電しやすい箇所)

道路標識用構造物
(前後に設置)

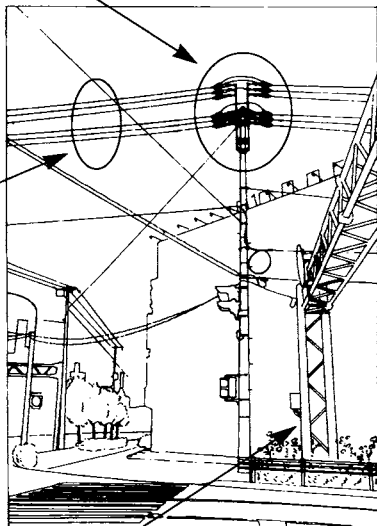


電話線のたわみ
(たわみ形状から電磁波を標識に放出し増幅する)

建物、看板が多量の電磁波を吸収か？

配電用工作物
(多数の放電箇所)

高圧架空電線
(一回線)



道路標識用構造物 (電磁波、S波を多量に吸収し、放出する)

高圧架空電線引留工事
(放電しやすい箇所)



電話線のたわみ
(たわみ形状から電磁波を標識に放出し増幅する)

道路標識用構造物
(前後に設置)

建物、看板が多量の電磁波を吸収か？

電磁場測定値 (警察向かい側建物、電柱No. 三東支15)

地上0m	2.6	ミリガウス
0.5m	2.7	〃
1m	3.0	〃
1.5m	3.5	〃

(このビルの周辺歩道は7ミリガウス前後を示した。)

(歩道が7ミリガウス！ 電柱は低く抑えて、人が考え付かない所にどんどん溜まるような仕掛け！ これでは心臓病の人は歩道で発作を起こしますよ!! 千乃)

配電用工作物
(多数の放電箇所)

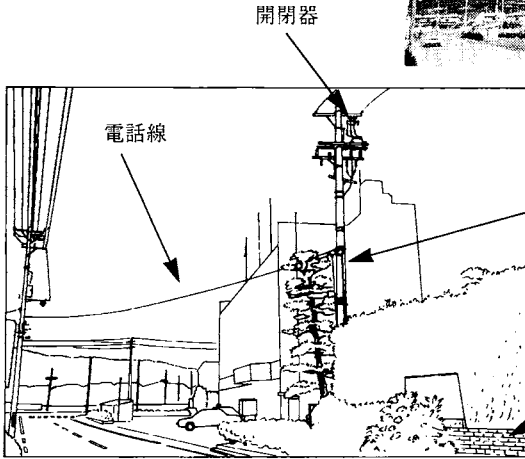
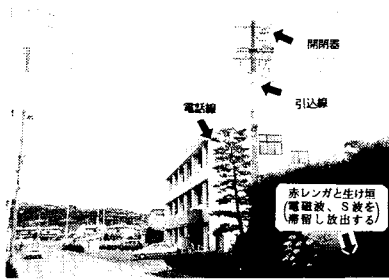
高圧架空電線
(2回線)



道路標識用構造物
(電磁波、S波を多量に吸収し、放出する)

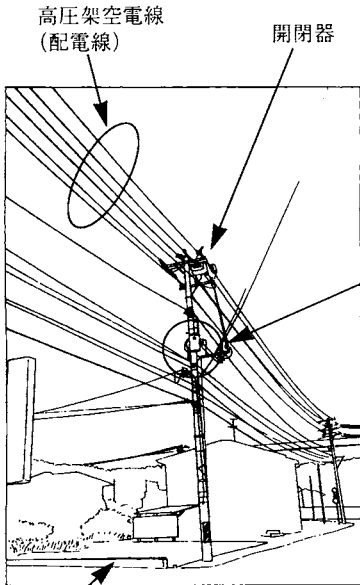
電磁場測定値 (警察向かい側建物・自民党支部、自民党議員事務所がある。電柱No.三東支14)

地上0m	1.3	ミリガウス
0.5m	1.4	〃
1m	1.5	〃
1.5m	1.8	〃



電磁場測定値 (警察署横電柱)
地上1m …… 3.0ミリガウス

赤レンガと生け垣
(電磁波、S波を
滞留し放出する)



柱上変圧器「トランス」
(中心は鉄心とコイル、電
磁波を発生しやすい)

電磁場測定値 (警察向かい側電柱)
地上0.5m …… 4.3ミリガウス
1m …… 6.0 〃
1.5m … 6.6 〃

(周辺歩道は5ミリガウス前後を示した。)
(この川には魚は棲めないですね！ 千乃)

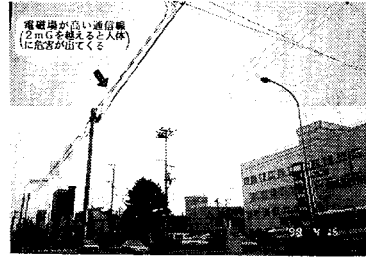
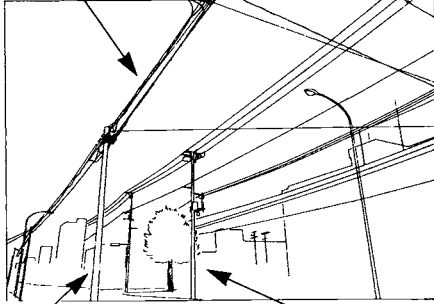
川と護岸コンクリート
(多量のS波を吸収し放出する)

札幌東警察署

複雑な支線の施工
(放電箇所を増やす工作)



電磁場が高い通信線
(2mGを越えると人体に
危害が出てくる)

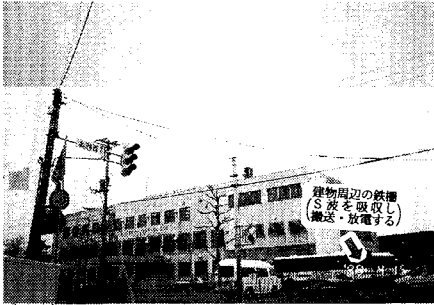


電磁場測定値

地上0m	……	2.7	ミリガウス
0.5m	……	2.9	〃
1m	……	3.0	〃
1.5m	……	3.2	〃
(3.2ミリガウス!!)			

電磁場測定値

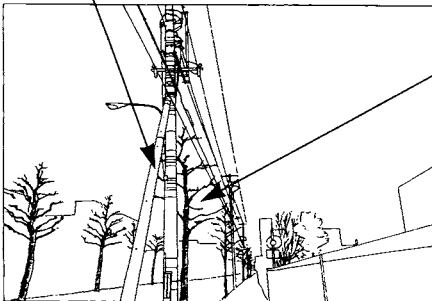
地上0m	……	2.4	ミリガウス
0.5m	……	2.6	〃
1m	……	2.7	〃
1.5m	……	2.9	〃



建物周辺の鉄柵
(S波を吸収し搬
送・放電する)

札幌北警察署

市街地では珍しい支柱
(電磁波の放出を容易にする)



枝だけの街路樹
(S波を吸収・放電し搬送の役
割を果たす)

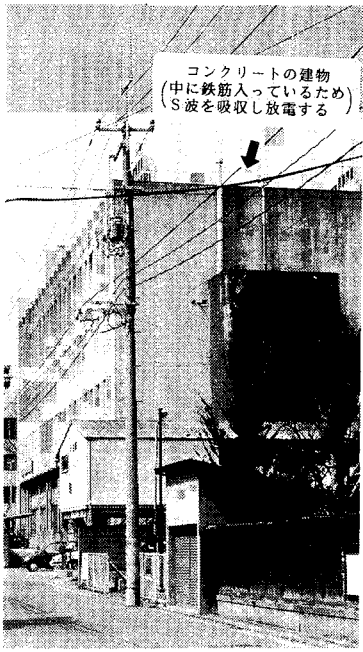
電磁場測定値

地上0m	……	0.1	ミリガウス
0.5m	……	0.1	〃
1m	……	0.1	〃
1.5m	……	0.2	〃

(警察署だけは電労の犯罪を気付かれない
為に、測定値が低くなっています！ 千円)

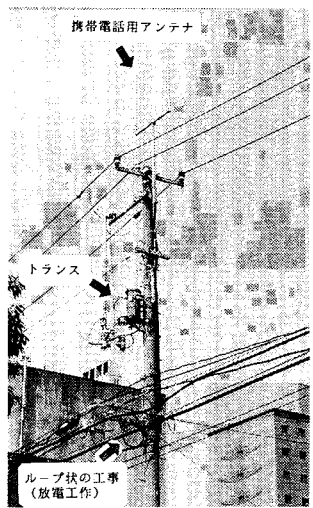
福島警察署裏の電柱
 警察の敷地から一〇メートルほど離れた所の電柱の先端に、アンテナのようなものが設置されていましたので測定しました。写真の奥のコンクリートの建物が警察署です。

コンクリートの建物
 (中に鉄筋入っている為
 S波を吸収し放電する)

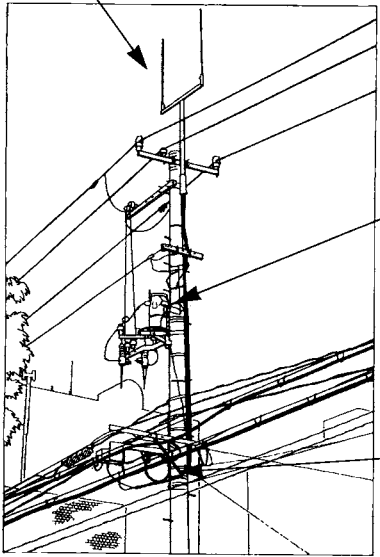


(福島の集い有志)

ズームアップ



携帯用アンテナ



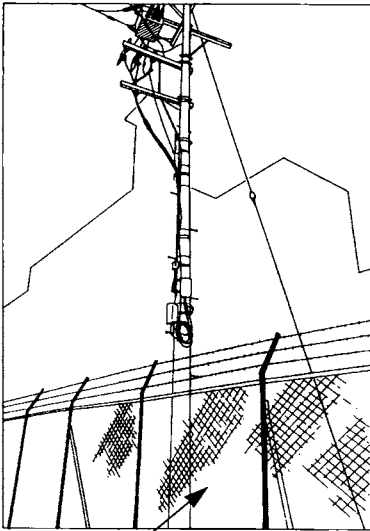
トランス
 ループ状の工事
 (放電工作)

電磁場測定値

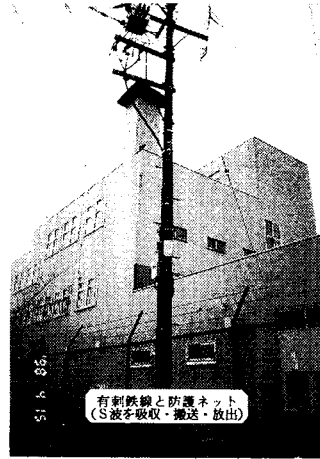
地上 0m	0.2	ミリガウス
0.5m	0.2	〃
1m	0.2	〃
1.5m	0.22	〃

◆病院へのアンテナ工作

天使病院（札幌東区）



有刺鉄線と防護ネット
(S波を吸収・搬送・放出)

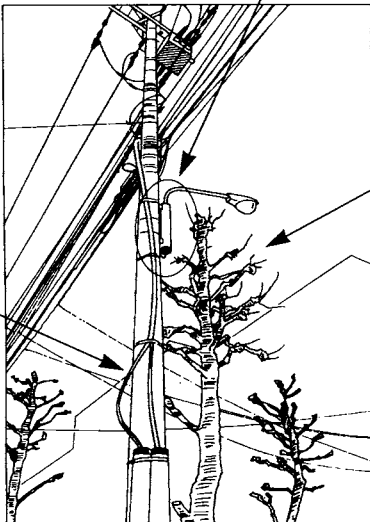


電磁場測定値

地上0m0.5	ミリガウス
0.5m0.6	〃
1m0.6	〃
1.5m0.6	〃

街灯用のトランス
(高い電磁場を発生)

弛ませた電線
(電磁波を発生しやすい形状)



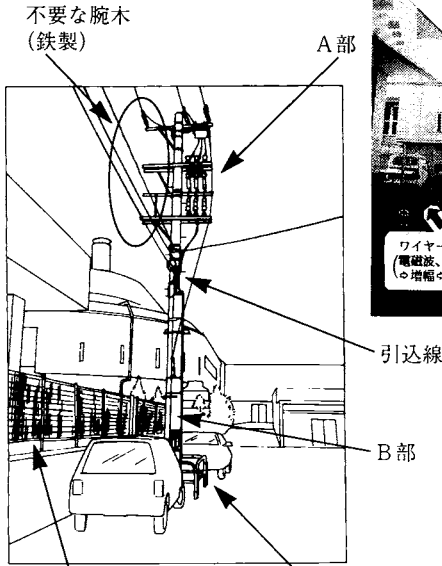
枝だけの街路樹
(先端から放電)



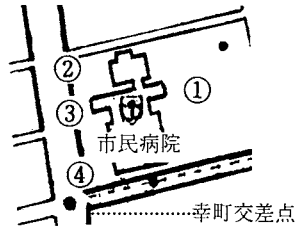
電磁場測定値

地上0m1.0	ミリガウス
0.5m1.1	〃
1m1.2	〃
1.5m1.3	〃

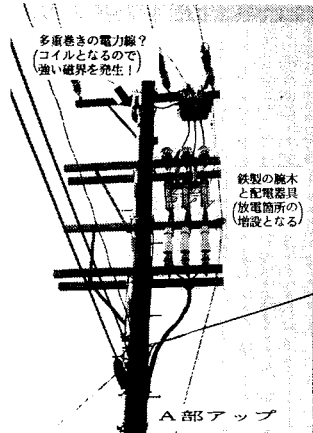
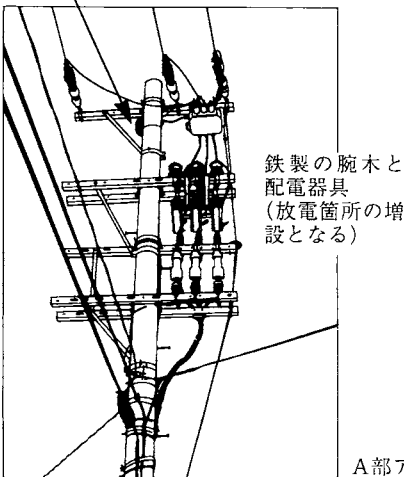
富山県水見市市民病院

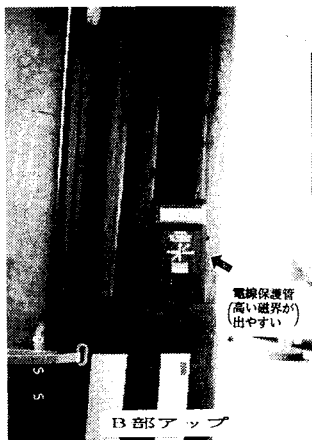


ワイヤー・フェンス (電磁波、S波を吸収 →増幅→周囲を汚染)
 ガードパイプ (S波を吸収し、周囲を汚染)



多重巻きの電力線?
 (コイルとなるので強い磁界を発生!)





B部アップ 電線保護管 (高い磁界が出やすい)

①病院駐車場内
電磁場測定値 (電線保護管より)

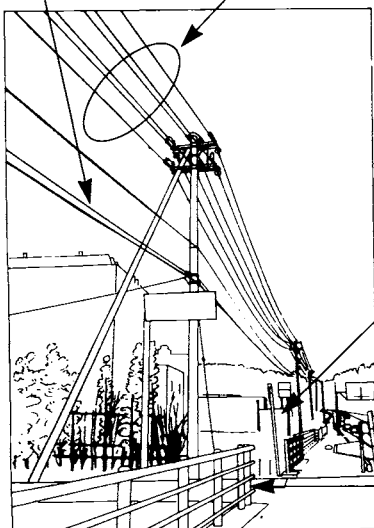
地上0m	40	ミリガウス
0.5m	55	〃
1m	65	〃
1.5m	121	〃

(信じがたい数値です！ 病院は物療器具などアースするので、思っ切りアンテナ工作をしているのでしょうか！ 2ミリガウスで小児白血病やガンが発症するというのに、電場規制はあるが、磁場の規制はない。だからいくら強い磁場を発生させても構わないという電力会社!! これは明らかに犯罪ですよ!! 千乃)



高圧架空電線
(2回線のため強い電磁波を発生する)

電話線

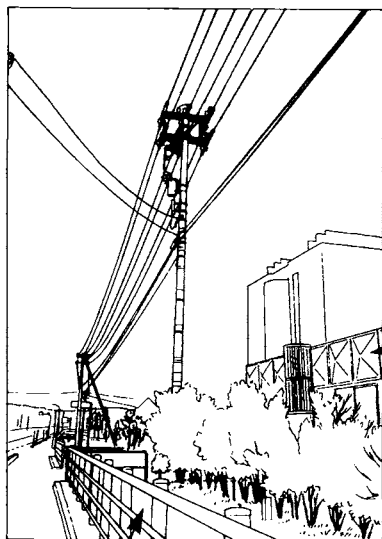


受水槽

②病院付近国道160号線沿い
電磁場測定値

地上0m	5.1	ミリガウス
0.5m	5.7	〃
1m	6.1	〃
1.5m	6.7	〃

パイプ型ガードレール
(電磁波、S波を吸収→増幅
→周囲を汚染)



川と護岸工事
(コンクリートはS波を吸収
→増幅→放出)



③病院付近国道160号線沿い
電磁場測定値

地上0m	……	4.6	ミリガウス
0.5m	……	5.2	〃
1m	……	5.5	〃
1.5m	……	6.6	〃



受水槽 (表面はステンレス)



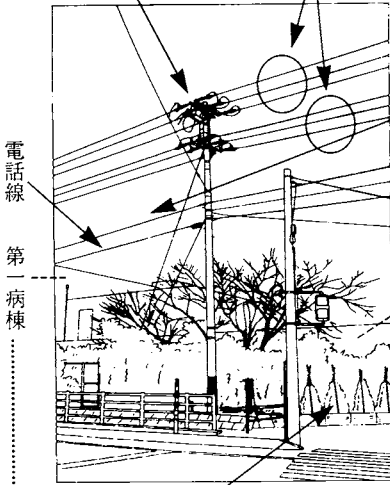
受水槽の鉄鋼製受台と
コンクリートブロック
(電磁波を吸収し、増幅、
放出している箇所)

電磁場測定値 地上50cm……12.7ミリガウス
(受水槽の周囲は磁場が強い)

(電柱以外の建物や設備でこれだけの磁場の強さとは一!! 磁石じゃないんですよ! 単なる受水槽なのに。日本以外にこんな国はありません!! 千乃)

遮断器
(分岐箇所を設け放電箇所を増す)

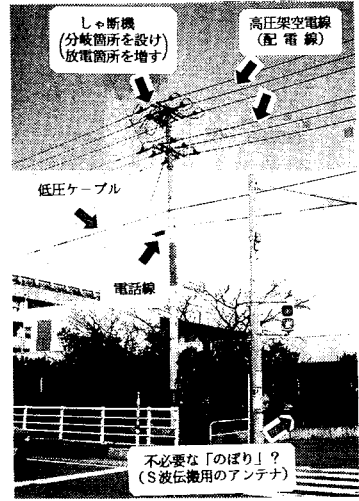
高圧架空電線
(配電線)



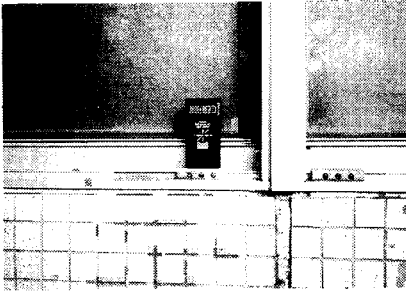
不必要な「のぼり」?
(S波伝搬用のアンテナ)

第一病棟三階国道側病室
電磁場測定値……0.8ミリガウス

病院外来診療棟内電磁場測定値
内科受付前……1.1ミリガウス
小児科受付前……0.7



④病院沿い幸町交差点
電磁場測定値
地上0m……3.8ミリガウス
0.5m……4.2 /
1m ……4.5 /
1.5m……4.7 /



内科診察室窗外
電磁場測定値……1.8ミリガウス

内科診察室窓から5m離れた地点
電磁場測定値……3.0ミリガウス
(窓から5mも離れた地点の数値!! 千乃)



高圧架空電線

受水槽

アンテナとなる生け垣

病院屋上
電磁場測定値……3.4ミリガウス
(屋上!! 千乃)

◆自然環境破壊

香々美川流域のS波影響調査について

野鳥や野生動物のための給餌の場所となっている辺りに送配電線違法工事がなされているとことで、広島の有志と調査に行っていました。

鏡野町岩屋地区に入ると、空気が淀んだような感じを受けました。特に有志の女性は息苦しさ、頭重感、目の乾き、重りをつけて歩く感じがする、又岩屋地区を離れると体が軽くなると言われます。私の場合は頭痛が主ですが、その方と同様の感じを受けました。特にトンネルを抜けダム上流の越畑地区に入ると非常に清々しく感じました。

次に、植物の状態ですが、香々美発電所から上流約・・・キロの間の道路両側の草が枯れていました(1)。香々美川の左岸には所々杉の木が枯れ掛かっていました(2)。松の木は一本ですが完全に枯れていました(3)。岩屋地区下流の右岸では竹が枯れていました(4)。電磁場測定値は市街地に比べると低い値となりました。

鏡野町は香々美川をはさんで両側を山で取り囲まれた地形で、高圧送電線のルートからはずれた環境の良い所ですが今は無惨な状況に陥っていました。香々美川中流の大町地区では電話線の増設工事が始まりました。

(広島集い有志)

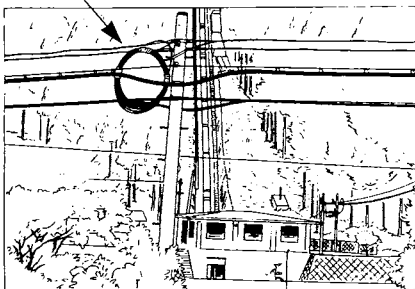


岡山県鏡野町岩屋



鏡野町岩屋
香々美支394付近
の電信柱
対岸は香々美発電所

多重巻きのループ工事
(放電量を増やす工事)



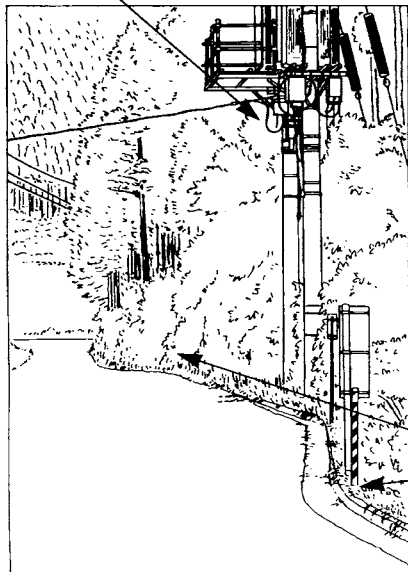
香々美発電所横の杉林
杉の木が枯れかかっている

写真中央部に杉枯れが集中
(付近にS波吸収する物がある?)



① 香々美発電所付近……これより上流
1キロに亙り道路の両側の草が枯れ
ている

郊外に不釣り合?な大型
のトランス
(放電を増やす工作)



道路両端の草枯れの状況

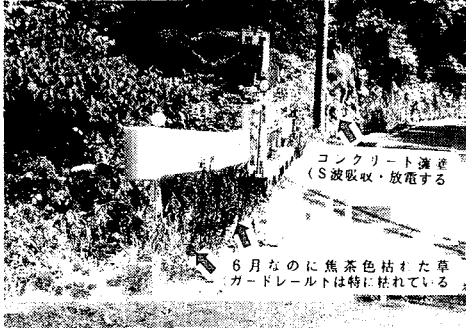
縁石に沿って草が枯れている
(S波を放電し搬送している証拠)



縁石に沿って草が枯れている
(S波を放電し搬送している証拠)

コンクリート擁壁
(S波吸収・放電する)

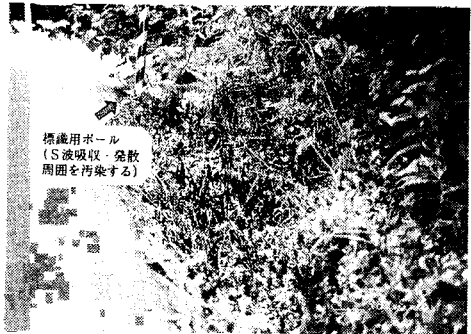
6月なのに焦茶色枯れた草
(ガードレール下は特に枯れている)



コンクリート擁壁
(S波吸収・放電する)

6月なのに焦茶色枯れた草
ガードレール下は特に枯れている

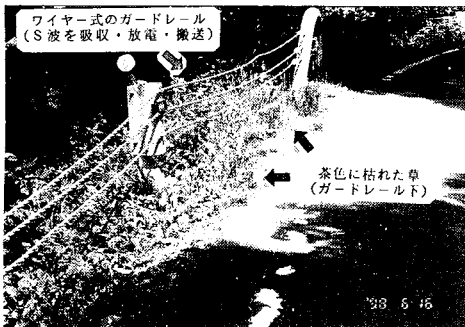
標識用ポール
(S波吸収・発散周囲を汚染する)



標識用ポール
(S波吸収・発散
周囲を汚染する)

茶色に枯れた草
(ガードレール下)

ワイヤー式のガードレール
(S波を吸収・放電・搬送)



ワイヤー式のガードレール
(S波を吸収・放電・搬送)

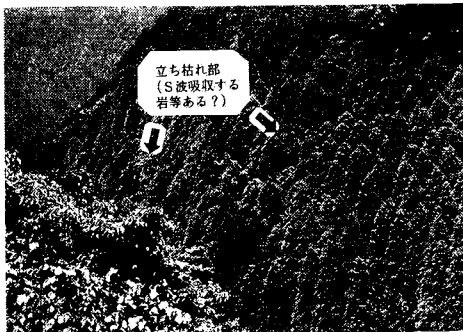
茶色に枯れた草
(ガードレール下)

(アンテナ工作の目立つ箇所や縁石部分や標識ポールを計るべきだと思います！ワイヤーはむしろ流してしまうので、0.0ミリガウスなのでしょう！千乃)

ガードワイヤーの電磁場測定値……0.0ミリガウス

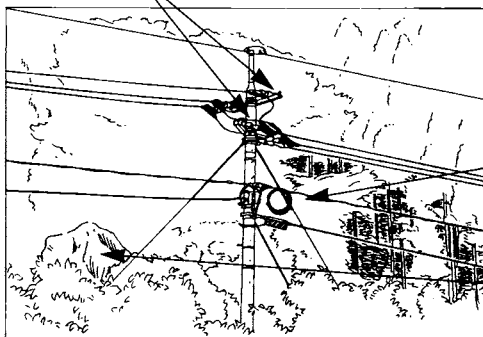
(2) 鏡野町岩屋
東側対岸の杉林の
立ち枯れ状況

立ち枯れ部
(S波吸収する岩等がある?)



(3) 鏡野町岩屋
香々美支426

段差を設けた引き留め工事
(曲げ部を設けた放電工作)



ループ状の工事
(放電を増す工作)

大きな岩
(S波吸収) 放電する)

香々美支426の対岸松枯れ

松のみ枯れている
(樹皮、松葉の形状がS波
を吸収・放電しやすいため
か?)

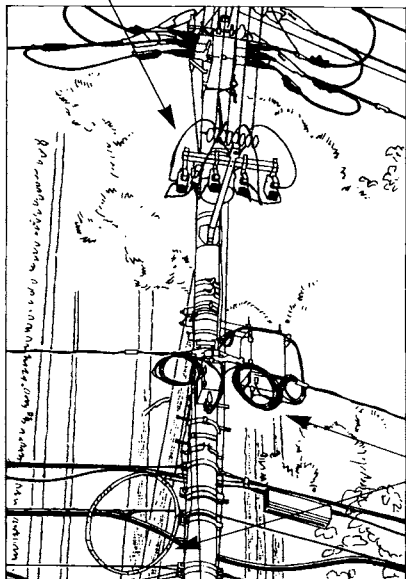


(恐らく年間を通じて杉、竹、
松の枯れ方がひどいのは、そう
いう事で、S波の被害がひどい
のですよ! CO₂過多では枯
れないし、酸性雨なら他の木も
枯れます! 千万)

4

香々美支335

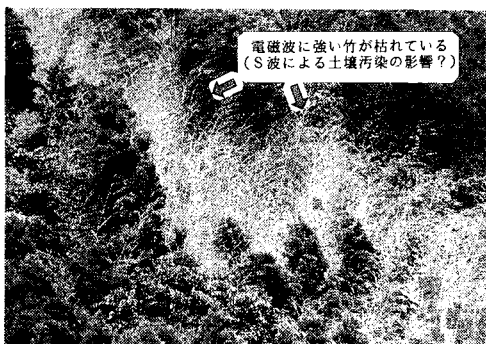
トランス
(熱エネルギーを発生し放電)



トランス
(熱エネルギーを発生し放電)

多重のループ工事
(S波の放電工作)

多重のループ工事
(S波の放電工作)



電磁波に強い竹が枯れている
(S波による土壤汚染の影響?)

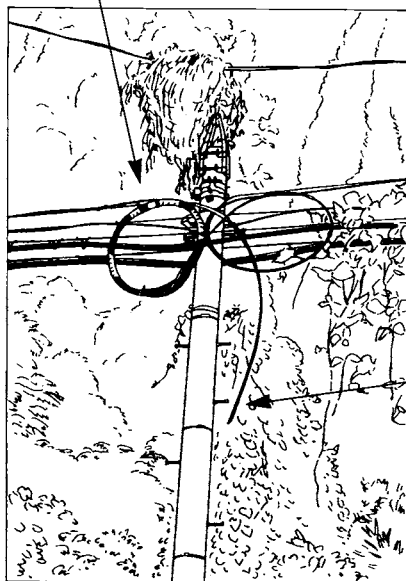
電磁波に強い竹が枯れている
(S波による土壤汚染の影響?)

香々美支335上流側斜面
竹藪が枯れている写真

(工作した電柱よりも枯れた竹や杉、松の辺りのG測定で、漏電するS波の流れが判るのでは? 千乃)

N T T 電信柱越畑A91
ループ工作

∞状のループ工事
(S波発生の工作?)



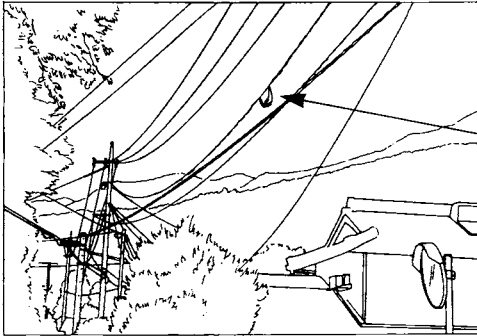
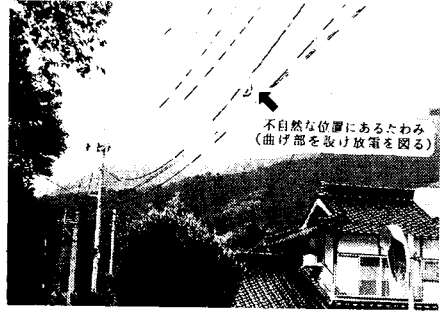
垂れた通信線
(先端から放電)



不必要なバンド
(放電しやすくなる)

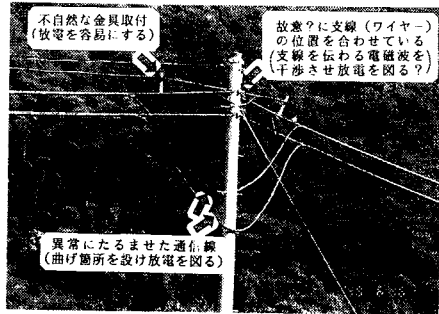
鏡野町香々美川沿い
 NTT香北C67付近より下流
 コンピューター地図座標入力
 の為の工作か？

(可能性もあると天上界で仰言って
 られました！ 千乃)

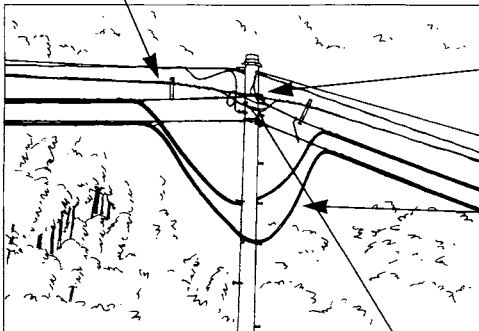


不自然な位置にあるたわみ
 (曲げ部を設け放電を図る)

鏡野町香々美川沿い大町近辺
 か
 電柱No香々梓272下流
 通信線の過剰なたわみ



不自然な金具取付
 (放電を容易にする)



故意?に支線(ワイヤー)
 の位置を合わせている
 (支線を伝わる電磁波を干渉させ放電を図る?)

異常にたるませた通信線
 (曲げ箇所を設け放電を図る)

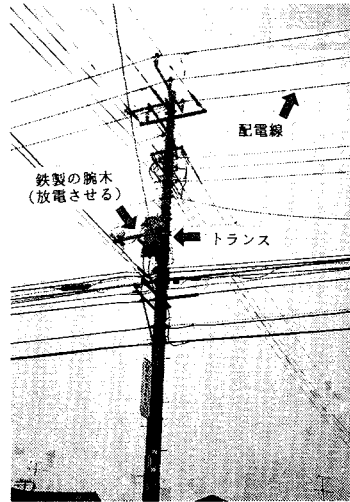
静岡新聞に魚大量死の記事があり、早速現場へ行ってみました。金網に囲まれた川に小さなフナがたくさん、ウナギが所々に死んでいました。川にかかる県道の電柱を電磁場測定致しました。

(静岡の集い有志)

「魚が大量死」沼津の池田川

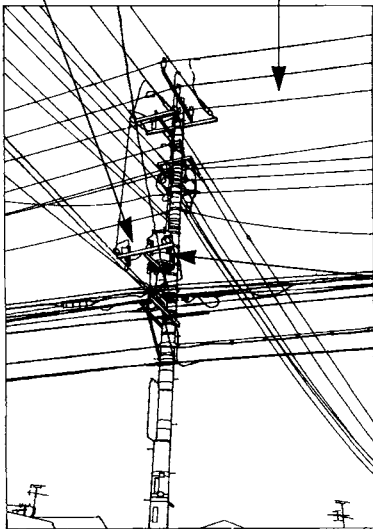
二十九日午前十時ごろ、沼津市青野の池田川で魚が大量に死んでいるのが見つかった。沼津署と市の調べによると、体長五十三センチのドジョウ、ウナギ、フナなどが約八十メートルにわたって、数百匹浮いていた。簡易測定器で水の毒物の検査をしたが、異常はなかった。回署と市が原因を調べている。現場の川幅は約三メートル、水深は十三センチ。

静岡新聞(平成十年七月三十日)



鉄製の腕木
(放電させる)

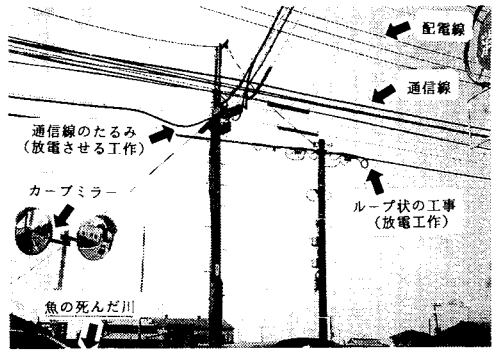
配電線



トランス

電磁場測定値

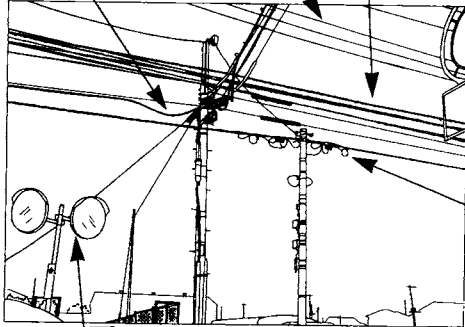
地上0cm	1.0	ミリガウス
50cm	1.1	〃
1m	1.1	〃
1.5m	1.3	〃



通信線のたるみ
(放電させる工作)

配電線

通信線



ループ状の工事 (放電工作)

カーブミラー

魚の死んだ川

測定値がめまぐるしく変わり、10ミリガウス以下で上下し、測定できませんでした。(やはりねえ!! 千乃)

カーブミラー



防護ネット
(S波を吸収し
搬送する)

S波による酸欠
で魚達が死亡か?

コンクリートの構造物
(鉄筋が入っている為、S波を吸収し放電する)

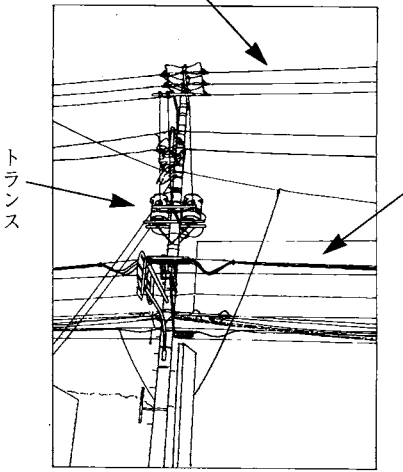
可哀そうに一。コンクリート川をワイヤー・フェンスで嚴重に閉った、どぶ川にも近い狭い川では、今にこんな事が起こるだろうと思っていました。(千乃)

九八年五月ボラの稚魚大量死のあつた静岡県沼津市江戸川橋へ行きました。報道で原因は、酸欠死とされていましたが、今尚魚は息苦しいのか水面近くまで息をするため上がってきており、川面には雨の波紋のようなものがかいくつもありました（人為的に酸素供給が出来ればねえ）。可哀そうに。何故川魚だけがそんなにひどい目に遭わされなければならぬのか……。しかも静岡県沼津の江戸川橋の周辺だけが、一・五メートルの高さで六・一ミリガウス!! 江戸川橋の起点付近で一・五メートルの高さは四・六ミリガウス!! ひどいものです!! 天上来ではこの魚達は後一年位で全員この川から消えて無くなると仰言います! 千乃)。

付近を電磁場測定しましたので報告いたします。

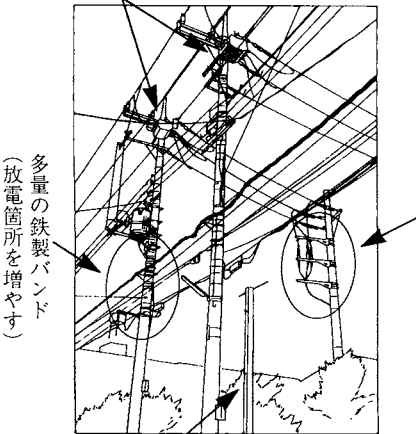
(静岡の集い有志)

高圧配電線 (架空線タイプ)



高圧配電線
(より線タイプは高い電磁波を放射しやすい)

遮断器 (分岐箇所を設け放電箇所を増す)



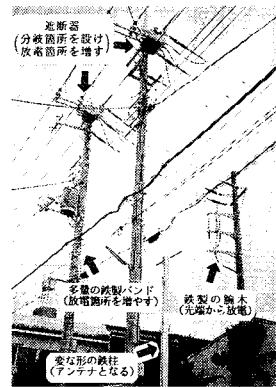
変な形の鉄柱 (アンテナとなる)

鉄製の腕木 (先端から放電)



電磁場測定値 (江戸川橋起点付近)

地上0m	3.6	ミリガウス
0.5m	3.8	〃
1m	4.2	〃
1.5m	4.6	〃

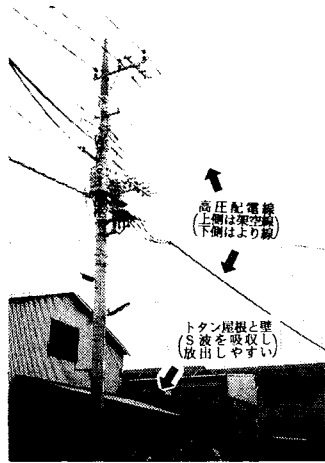
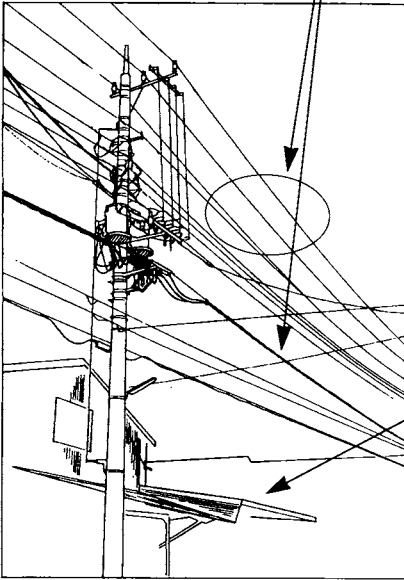


電磁場測定値 (江戸川橋付近道路)

地上0m	4.8	ミリガウス
0.5m	5.1	〃
1m	5.7	〃
1.5m	6.1	〃

二ミリガウス以上だと人体に害が出るというのに……。千乃)

高圧配電線
(上側は架空線、
下側はより線)

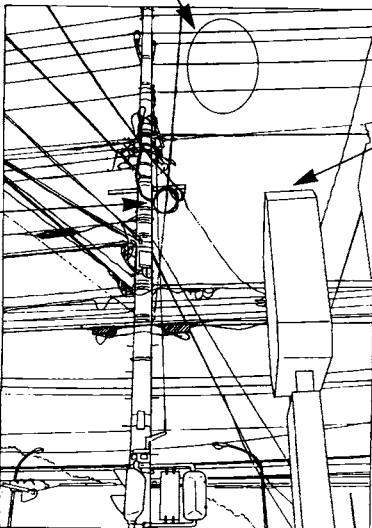


トタンの屋根と壁
(S波を吸収し放出しやすい)

電磁場測定値 (江戸川橋付近水産工場)

地上0m	4.8	ミリガウス
0.5m	5.3	〃
1m	6.0	〃
1.5m	6.0	〃

電線の太さに対し高い
電磁場を示す



ループ状の工作
(放電工作)

大きな看板
(S波を吸収し放電する箇所)



電磁場測定値 (川より150m離れた交差点)

地上0m	6.8	ミリガウス
0.5m	7.0	〃
1m	7.8	〃
1.5m	9.2	〃

(9.2ミリガウス! 驚くべき数値です!
年がら年中これだけのものを放出している
とは一。電労による川魚絶滅作戦です
ね、これは一。千乃)

九八年九月十七日から十八日にかけて、静岡県の浜名湖にて魚が数万匹酸欠死したという新聞記事を読んで調査致しました（静岡の共産ゲリラやシンパは多いんでしょうねえ。いつも魚ばかり殺していますが、きつと魚が嫌いなのかも）。電労メンバ―も!! 千乃。

（静岡の集い有志）

浜名湖で魚酸欠死—セイゴ・ウナギなど数万匹

浜名湖で大量の魚が酸欠死し、浜松市から三ヶ日町の護岸に漂着していることが十八日、分かった。湖を管理する県浜松土木事務所と市、町の職員、住民が回収を急ぎ、焼却処分することになっている。

土木事務所によると、魚が浮き出したのは十七日午後。浜松市館山寺町の浜名湖・内浦湾から細江町、三ヶ日町の浜名湖北側一帯にボラ、コノシロ、セイゴ、ウナギなどが流れ着いた。数センチの稚魚から数十センチの大型まで、その数は数万匹になりそうだという。猪鼻湖に被害は出ていない。

県水産試験場浜名湖分場の話によると、十六日未明に上陸した台風五号の影響で湖の底にある酸素の少ない水や泥が上部を覆い、無酸素状態になって窒息死したらしい。

赤潮、苦潮と呼ばれ、浜名湖ではこれまでも強い西風が吹く十月ごろに酸欠死した魚が浮くことがあったが、「これほど大量なのは初めて」と地元の人たちは驚いている（日頃から溶存酸素が少ない

状態にされているからです!! これだけのアンテナ工作であれば、数万匹というのは無理もない数。アサリも恐らく駄目だろうと天上昇が言われます!! 千乃。

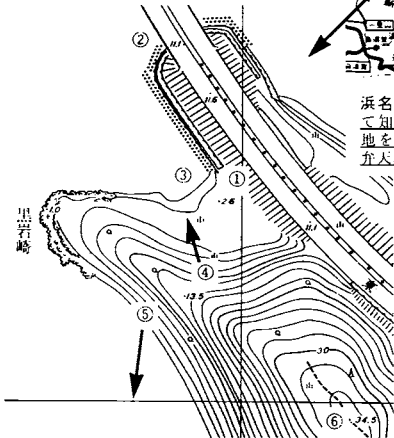
養殖しているアサリに被害があるかは数日たたいと分からない。

（産経新聞九月十九日）

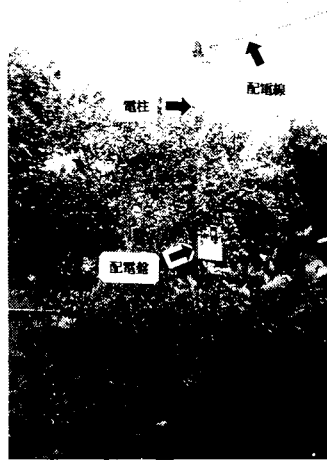
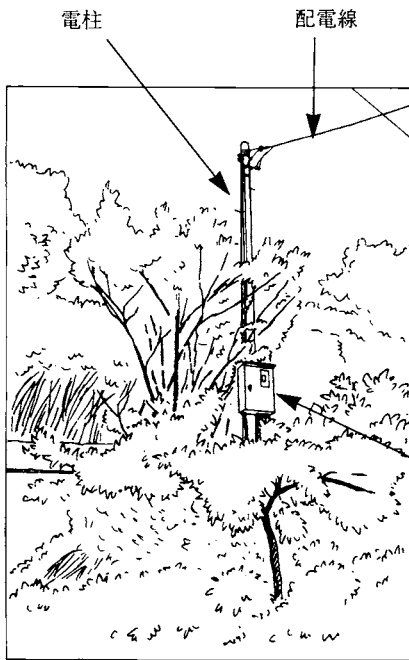
台風の大雨により、川から大量のS波が流入し魚達が酸欠死したのではないのでしょうか？



浜名湖「ウナギの養殖地として知られ、湖北は多くの景勝地を持ち、周辺には館山寺、芥犬島、温泉など見所も多い。



（おやまあ、ウナギ養殖地ですか!? 養殖物は日本で本全国駄目というこ。魚介類はアキラメた方が良いかもねえ。観光地も果物、野菜、お菓子をメインに、遠洋漁業に美味しい輸入物の魚と一。 千乃）



配電盤

合成樹脂製電線管

強い電磁波
(周辺を汚染)

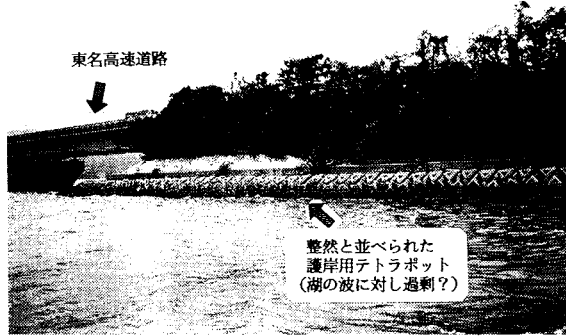
①地点

東名高速の電光掲示板とつながっている配電盤

電磁場測定値……27.2～27.4ミリガウス!!

東名高速道路

整然と並べられた護岸用テトラポット (潮の波に対し過剰?)



東名高速道路の鉄橋 (S波を吸収、搬送し放出)

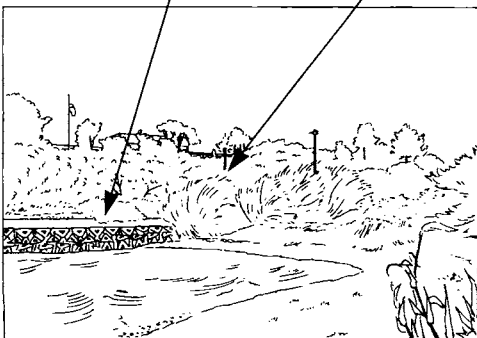


護岸用テトラポット (中に鉄筋があるためS波を吸収し放出)

②地点 東名橋下付近・魚の大量死が発見された場所 (無理もないです! これだけ揃えばー。可哀そうにー。千乃)

配電盤から放出したS波をテトラポットが吸収、蓄積し、放出しながら伝搬する。

配電盤



③地点 東名高速側、配電盤と電柱

東名高速道路

配電盤
(放電箇所)

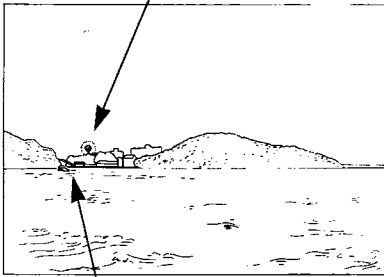
電柱

護岸用テトラポット (S
波を吸収し伝搬する)



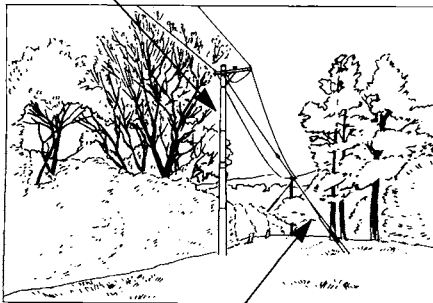
④地点より矢印方面
東名浜名湖橋と電柱を含む全景

遊園地の観覧車
(S波を吸収し、大気中に放射?)

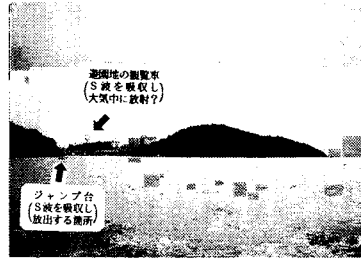


ジャンプ台
(S波を吸収し放出する箇所)

電柱



不要な支線?
(放電工作用)



⑤地点より矢印方面
浜名湖より箱山寺温泉街
水面に鉄板でできた水上スキーのジャンプ台が見える (この付近、魚が大量死していた)。(大量死があったのなら、水面近くのポイントになる部分の電磁場測定を！ 千乃)



⑥地点
電磁場測定値
地上1.5m……0.2ミリガウス (単純な配線にしては高い電磁場!)

身近に迫った

スカラー波、電磁波による環境破壊

森 耕作

一、ポケモン被害は計画的な犯行!?

平成九年十二月十七日の朝刊と夕刊の産経新聞に、ポケモンの被害についての記事が掲載されており、スカラー波による実験ではないかと思われれます。素人なりに以下のよう
に考察しました。

この記事を見た時、マインド・コントロールの次はこれかと思いました。おそらく、日ごろ小規模の二、三人程度の実験を積み重ね、今回出血しやすい満月の日を選んで実行したものと思われれます（スカラー波が人体に蓄積される

と、出血しやすくなります。左翼ゲリラは送配電線からの攻撃で定期的にスカラー波を蓄積させ、その上でポケモン放映の時、送電線を経由させテレビ画面からスカラー波を放射させたと思われれます。関連する事柄としては、英国で光刺激による拷問兵器が実用化されており、※ポケモンを
作成したアニメ技術にも応用されているように推測されま
す（※これは左翼勢力の関与で、テレビ会社は知らないと思
います。千乃）。他にも、テレビから放射される電磁波

はもちろん、光刺激もまた電磁波の一種であるため、このテレビから放射された15、16ヘルツの電磁波を人体が吸収すると神経細胞からカルシウムが放出されるため、カルシウム不足状態になり、ひきつけや痙攣など様々な身体的な症状が現われます。また、安いICにはマインド・コントロールの回路が組み込まれているという情報などが頭の中に浮かんできて、真実味を帯びてきます。

米国からの情報では、既に精神医学会ではビデオゲーム、テレビゲームのやりすぎにより起こるこの症状は「任天堂癩癪」として有名とのこと。おそらく、禁止されているので、左翼勢力が、米国ではこれ以上生体実験が出来ないので、何の制限も無い日本で思う存分に実験を行なったのでしよう。

また、今後このような精神医学的な知識や精神分析的な知識をもちいた犯罪に対する戦いのために、日本の警察にもFBIのプロファイリング並の対抗措置を行なうよう訴えていく必要があります。

〔補足一〕金大中氏が韓国大統領に当選しましたが、金日正／金正日／クリントンの表情に酷似しているように思わ

れます。つまり、米国のクリントン氏、日本の村山氏に続き、韓国もまたマインド・コントロールにより間違った方向に走り出したように思われます。

〔補足二〕集いなどで聞いた所によると、いろいろな病気が集団で発生しており、病院は病人でいっぱいとか。そのうち、医者や看護婦の方々が疲れ果て、元気なのは共産党系の病院のみという事にもなり兼ねません。

—産経新聞概要—

テレビ東京系で十六日夕放映された人気アニメ「ポケッタモンスター」を見ていた全国の子供等が相次いでひきつけなどの発作を起こした。十七日午前までの自治消防庁の集計で二七都道府県で、六〇〇人以上に上り、入院者も約一二〇人となった。愛知県内では子供が血を吐いたケースもあった。被害を受けた多くの子供は、テレビを1m以内で見ていたという。

この日の「ポケモン」は「電のうせんしポリゴン」というタイトルで放映された。番組中に光が繰り返しちらつく場面があり、その後「気分が悪くなった」などと訴える例が多かったという。今の所、原因は特定されていないが、

光過敏症が有力視されている。

(光過敏症) 光による刺激で発作を誘発しやすい視覚刺激として15ヘルツ程度の赤色点滅や幾何学図形の点滅がある。

— 米国での反応 —

「オレンジ・カウンティ・レジスター紙 97.12.17」

日本の健康関係の権威は、テレビ漫画「ポケットモンスター」の赤い閃光の爆発が子供の発作を引き起こし、子供たちが痙攣、嘔吐、目の炎症その外の症状を呈したと報道された。

「ロイター」

火曜の夜、人気ビデオゲーム「ポケットモンスター」の中で「まぶしく赤い爆発」が画面の中で五秒間閃光を放ち、日本の子供たちの間で痙攣を引き起こした。(以下省略)

追記 ついに出了！ スカラー精神障害!?

九七年十二月の第一週の産経新聞に、パニック障害の記事が掲載されており、読んでみるとまさしくスカラー波による精神障害ではないかと思われまますので紹介いたします。

八十年代に米国で診断基準が確立されたが、現在でも原

因は確定できていない。しかし、最近の研究では、何らかの原因で脳の「青斑核」という部分が興奮し、自律神経が活発化することで病気を引き起こすという見方が有力視されている。

パニック障害の症状は、脳の機能障害から、激しい胸の鼓動や呼吸困難、手足のふるえなどが、突如として不安感と共に一気に襲ってくる神経症状のことです。発作を繰り返すことのプレッシャーから、外出への恐怖症へと症状は段階的に進み、正常な日常生活を営めなくなる。そこで、病院を回ってもどこも異常がないと言われたり、鬱病や自律神経失調症などと症状が似ているために誤診されたり、心理面に原因があるとして、怠け者扱いされることも多いという。患者さんには実際、「目的志向型」ともいふべき仕事熱心な二十代～三十代の人が多い傾向があるとのことです。

つまり、全国に張り巡らされた電線などにより、職場や地域に常にスカラー波を溜めておくことで、目的志向の強い人は常に仕事へのストレスがあるため、左翼ゲリラに狙われ直接攻撃されたり、何かの原因でスカラー波を放出できなくなると、萎縮してスカラー波をため込むだけため込

んで、ますます正常な活発な感情を無くしてしまふ。それとともに、不安感が高まり、心理的にもスカラー波的にも更に心臓に負担がかかる。年を取った人なら、この状態でもう動けなくなったりするのだが、二十代、三十代だと心臓も強くまだまだ体力があるため、無理をしてしまふ。このような仕事熱心で、左翼志向でない人をめがけて、左翼ゲリラが方々で狙い撃ちをしているのではないかと思うのです。彼らは若いのでしばらく攻撃を止めると、せっかくな精神病にしたのに、また元のように元気になつてしまひ、時間も体力もある彼らは反共的な活動をまたもや開始する。そこで、困つた左翼ゲリラは、これら正常な人々を、合法的に精神病院に入院させ、もう二度と逃げ出せなくしてしまおうとしているのではないかと思うのです。左翼ゲリラの精神科医のたくさん居る精神病院で。

そういえば、サハロフ博士や良心の囚人たちは、左翼政権の元で精神病院に送られて拷問されています。今でもそれは続いており、ゲリラの精神科医達は、このような拷問をしたくて仕方がないのでしょ。

それにしても、ゲリラの精神科医達は、数が多いのもありますが、暇な時間が多いと思います。どの病院でも、長

時間のストレスが多い勤務に耐えながら、正常な精神を維持しています。普通はそんな暇な時間はないはずですよ。すると、ゲリラの精神科医は、公務員のように九時から五時で終わるような国立系の精神病院／研究所のような職場か、仕事を辞めていると思われまふ。

〔補足〕例えば、不安を感じたときと同じ心臓のリズムを起こさせると、原因は分からないが何か不安を感じる。気の強い人ならすぐに忘れてしまふが、気の弱い人や神経の細かい人や几帳面な人だと、不安がある可能性の内一番悪い可能性を想定してしまふ。ある人は子供が交通事故だと思つたり、別の人は自分の病気が悪化する前ぶれだと思つたり、また他の人は仕事で失敗するかもしれないと不安になつてしまふ。そうすると、各人はこの不安を解消するようになら各人各様の対策を考え別々の行動を行う。このように、不安を起こさせる攻撃により、それを受けた人が全く別々の行動をとり、お互いに不安の原因を理解し合うことなく分裂してしまふのです。もし、誰かが「俺、今急に不安になつたんだ。」と言ひ出さない限り。

(傍線は千乃による。)

二、スカラー波攪拌機見つけた！

ビルの谷間の観覧車

九八年二月二十六日の産経新聞夕刊に「ビルの谷間に観覧車」の見出し付きで記事が掲載されていました。何故ビルの屋上に観覧車を建設しなければならないのでしょうか。その訳を考えてみました。

一、ビル群は、スカラー波の生産工場

都会のビル街の壁には、電磁波吸収剤が塗布されていて、テレビや他の様々な電磁波を吸収するように設計されています（電磁波吸収剤については、会員の方から情報を頂いており、「補足」で報告いたします）。それというのも、様々な電磁波がビルに当たり、反射されると、周囲のラジオやテレビをはじめとする種々の電磁波を利用した受信機器に悪影響を与えてしまいます。

この電磁波吸収剤は、ビルに当たった電磁波の多くを熱として吸収してしましますが、残りの分の電磁波はスカラー波に変換してしまいます。つまり、ビル群は電磁波を反射しない代わりに、スカラー波を二十四時間生産している

のです。一方、ビルでは、PCやコピー機等の事務機器や、エアコン等のビル設備機器により多大の電力を消費しながら、その中で毎日仕事をしている。また、送配電線からのスカラー波攻撃も重なって、更に悪影響を及ぼすことになります。

二、スカラー漬けで、健全な肉体と心が失われ、ストレスが蔓延！

こんな環境だからだと思うのですが、ストレスを感じる人がますます増えていることが、九八年三月一日の産経新聞朝刊の総理府の調査で判明しています。ビルのオフィスの中で一日中作業する「管理職」「専門技術職」「事務職」に多く、特に注目すべきは「労務職」の人がストレスを強烈に感じていることが明らかになった。

送電線の多い工事現場やビル街の工事現場で働く労務者は、汗で発散する量よりも多くのスカラー波を体内に蓄積してしまつたためだと推測されます。また、ストレスは、副

腎皮質を疲れさせ、視床や脳下垂体をも疲れさせるため、免疫を弱らせてしまう。このようにして、ストレスが蓄積され、厚生省で調査しても原因不明の病氣や死因へと発展するのでしよう。

そういえば、本年の風邪は昨年と同じものとのこと。今までだと前年流行した風邪には免疫があり、二年続けて流行することはなかった。しかも、気温が低い日に大陸から冷たい風が吹いている日に風邪にかかる人が多く、この冷たい風が原因だといっているが、本年はエルニーニョのために例年よりも暖かい冬。やはり、免疫が非常に弱っているのです。

三、危険！ 観覧車はスカラー波を生き返らせる

このような環境で、ビル街に蓄積されたスカラー波を、アースせず再度大気中に放射するような観覧車が、完成したらどうなるのでしょうか。観覧車はスカラー波を吸収し、観覧車の回転に合わせてスカラー波も回転し磁化する。そして、大気中に再放射されるので、現状の分量に、磁気を帯びたスカラー波が加算されてしまいます。この磁気を帯びたスカラー波は、J-I誌で各所に説明されているように、

磁気の分量だけ人体や動植物や大気の浄化に大きく影響する。この観覧車が建てられたビルは大阪の梅田とのことですが、近隣ではストレスの増加に伴う様々な犯罪や原因不明の病氣が蔓延することになると思われます。今から病院の予約、護身術を身につけるよりも、引越した方が賢明かもしれません!!

四、まとめ

良識的には、来店者のアンケートで遊園地が欲しいとの要望に対して、経費のかかる観覧車でなくて他にもアイデアはあったと思いますが、ジェットコースターと観覧車が最後まで残ったとのこと。ジェットコースターの方がまだスカラー波に対しては安全なので、本能的に観覧車に恐怖を覚えて建設を避けても良いはずですが（しかし、ビルの屋上のジェット・コースターは、一般人の感覚では恐いですよ！ 千乃）。もしくは、観覧車の形状を違ったものに（たしかに!! 宝塚ドリームランドの観覧車は全然違う形状です！ 千乃）しても良いはずですが。日本人の良識的な感情が中曽根元首相を三選させた時のように。九八年一月号でラファエル様から説明があり、大岡様の指摘されるように、

スカラー波により網様体から視床が麻痺させられ、前頭葉の活動が鈍くなる。そうすると、前頭葉からの指令が無くなったその他の皮質は、本能を剥き出しにしてしまう。同時に副腎の機能が低下しストレスにも弱くなる。このような状態に置かれた時、ストレスの鬱積を観覧車に打ち付けることで解消しようとしたり、もしくは本能を剥き出しにできる観覧車(?)の方を選んだものと推測されます。このようにして、町中にスカラー波を放射する建設物が増えたのだと思います。このことは、宇宙人の教師を殺害したこと、イエス様を石や鞭で打ったこと、先生の防御を手抜きすることと同じ事なのかもしれません。

最後に、日本人がこのスカラー波蔓延により、ストレスが蓄積され、良識的な感情を麻痺させてしまったらどうなるのでしょうか。今の日本では、凶悪犯罪の低年齢化／凶悪犯罪の増加／原因不明の病氣や死亡／自然界の破壊が進み、他にも村山氏が首相になったくらいですから、総選挙でもあれば大変な事態も予想されます。つまり、日本を左翼化させることも、サタンダビデの計略の一つなのかもしれません。



(記事概要・九八年二月二十六日の産経新聞夕刊)

大阪のビル街の屋上に、巨大な観覧車が建設されている。本計画のきっかけは来店者にアンケートした結果で、遊園地が欲しいとのことでした。そこで、ジェットコースターの家もあったが、最終的に観覧車に落ち着いたとのこと。

(記事概要・九八年三月一日の産経新聞朝刊の総理府の調査)

64・7%がストレスを感じており、平成六年の調査と比較すると約4・5%上昇した。職業別にみると「管理職」「専門技術職」「事務職」「労務職」が多く、特に肉体労働者で62・4%が「ストレスを感じる」とし、前回調査と比較すると12%も増加している。

〔補足〕

高層ビル等に使用される電磁波吸収剤
によるスカラー波発生原理について

J I 会員の方より、高層ビルや巨大橋に使用されている特殊な電磁波吸収材の資料を頂いて話し合っているうちに、これは巨大なスカラー波発生装置ではないかとの結論となりました。また、巨大橋が建設されてから、様々な異常現象が発生したのではないかと推測しましたので、お知らせいたします。

一、電磁波障害コースト (図1)

現在高層ビルなどには、電磁波吸収材が使用されていません。その理由を左記に説明します。

現実に行き起きていることなのですが、東京タワーから放射された電磁波を高層ビルが反射してしまいます。すると、近隣のテレビアンテナには、東京タワーから直接飛び込んでくる電磁波 (以後 直接波) と高層ビルから反射して飛び込んでくる電磁波 (以後 反射波) が混じり合います。ところが、直接波と反射波を比較すると、電磁波が飛んで

いる距離では反射波の方が長距離のため、少し遅れて近隣のアンテナに到着してしまいます。このため、テレビの画像が変な感じでダブってしまいます。この現象が頻発した当時はゴースト現象といって、大問題になりました。このゴースト現象を無くすために、高層ビルに電磁波吸収材を塗ってできるだけ電磁波を反射させないようにしています。

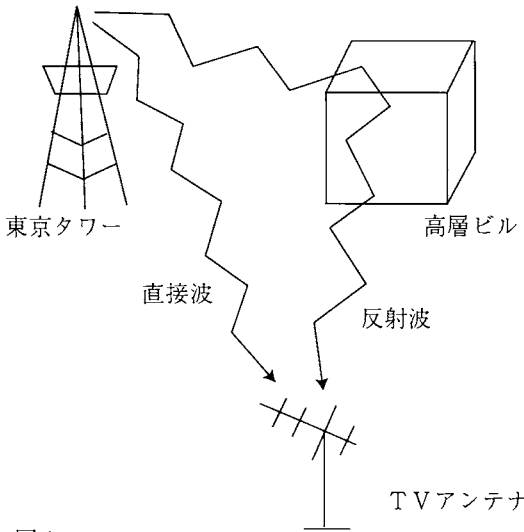


図1

以上で説明したことが、海上でも発生していたのです。船舶等の海上通信のための電磁波が、巨大な鉄橋により反射され、正常に通信できなくなってしまう。他には、航空機などにも応用されています。

二、ゴーストバスター（電磁波吸収材）の説明（図2）

そこで、発明されたのがゴーストバスターならぬ電磁波吸収材です。電磁波吸収材により、電磁波を99%削除できている。

電磁波吸収材は、左記のA、Bの原理を利用しています。特にBの方法ではまぎれもなく、電磁波の障害を無くすために積極的にスカラー波を発生させてしまっています。この電磁波吸収材のメーカーは、スカラー波を発生しているにもかかわらず、ゴースト現象が消えることを強調しているにもかかわらず、ゴースト現象が貢献していることがパンフレットに記載されていました。

A、フェライトによる電磁波吸収

フェライトは小さな磁石結晶の集まりのことで、電磁波を吸収してしまう性質があります。吸収された電磁波のエネルギーは、フェライトの小さな磁石結晶を振動させ、電

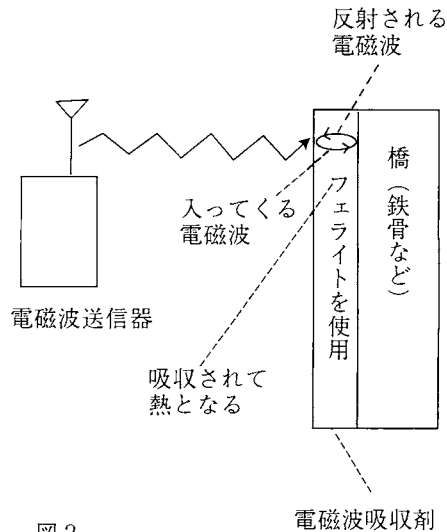


図2

子レンジと同じ原理で熱になって放射されてしまいます。B、フェライトで吸収できなかった電磁波は、反射されてしまいます。ところが、入ってくる電磁波と反射される電磁波の位相を180度違わせるように設計されているため、電磁波は放射されなくなるが、代わりにスカラー波が発生してしまいます。

おそらく、これを開発した企業の研究者は、このスカラー波が自然を破壊していることに気づいていないのでしょう。

う（例えば、現在、瀬戸内海には巨大な鉄橋が一八基建設されており、鉄橋で挟みうちにされています。このため、海外との流れが少ない瀬戸内海を渡して巨大な鉄橋がゴーストバスターの原理でドンドンスカラー波を発生し、蓄積してきた。つまり、巨大鉄橋が瀬戸内海に掛けられたときから、本格的な自然破壊が起ったのだと推測できます。

三、オゾンホールは、地球磁場の異常が原因

最近、理由は不明だが地球のオゾンが減少し、有害な紫外線が地上に降り注ぐようになり、これが原因で免疫が弱まったために、AIDS等の病気が広まったというような解説が多々見受けられます。そこでこのような解説は正しいのかどうかについて、オゾンに焦点を当てて考察することにしました。結果として、雑誌等で言われているような紫外線説は正しくなく、根本原因はスカラーの大量蓄積なのだと思えます。

おそらく、三年くらい前から瀬戸内海の貝がおかしくなった（大半が死亡）（バクテリアまで死滅！）のと呼応するのだと思います。（瀬戸大橋・船舶用9GHzの電磁波吸収材を使用。昭和六三年四月岡山と香川間に大橋完成。平成十一年四月神戸と鳴門市間に赤石海峡大橋開通予定）。

（傍線と書き込みは千乃による。）

一、オゾン説についての簡単な疑問

オゾン層の破壊について一般的な解説によると、フロン化合物によるフロンや超音速ジェット機／大気圏での核爆発による窒素化合物が原因だと言われている。九六年には、南極上空のオゾンホールが南極大陸の二倍になったことが報道されました。その結果、ここ数年でフロンの使用は禁止され、核実験も行われていないはずです。

それならば、単純にフロンをたくさん使用した地域の上空にオゾンホールが拡大し、そこから有害な紫外線が地上に降り注いで免疫が弱まったために、日本にAIDSやO

—157等の病気が広まったというような解説なら理解できません。

しかし、理科年表から分かるように、日本上空やAID Sが大量発生した米国の上空でもオゾンの量は減少していません。この報道にもあるように、南極上空のオゾンが減少し、南極上空のオゾンホールが拡大しているのですから、この地域に免疫性の病気が大量発生すべきです。仮に地球全体のオゾン層が均等に減少しているのなら、オゾン層の元々薄い赤道上空とか、南極や北極の上空が更に薄くなるので、日本ではなくこれらの地域に免疫性の病気が大量発生すべきですが、そのような報道は聞いたことがありません。やはり、オゾン量の低下にともなう有害紫外線による免疫低下説には無理があり、おかしいのです。確かに、有害な紫外線により、免疫が弱まること以外にも、DNAが破壊されたり、皮膚癌の原因になったり、赤血球の活動を活発にしたりというような効果もあります。

二、オゾンの仕組み

○オゾンと紫外線

酸素原子二個が結合すると、大気中では安定な酸素分子

になり、動物はこれを呼吸して体内に取り入れています。ところが、オゾンは、酸素原子三個が結合した物で、真ん中の酸素原子の両脇に二個の酸素原子が結合した形です。約120度の角度で結合されています。このオゾンは、人体に有害な紫外線を吸収する働きがあります。さらに、人工的に生成されたオゾンは、様々なところで殺菌に使用されています。

○オゾン層の分布（季節）

オゾン層は、地上約20 km～30 kmの所にも存在しています。通常、赤道上空と北極南極上空のオゾン層は薄くなっていて、季節によっても濃さが変わってきます。例えば、南極のオゾン層は、九月から十月には50%も減少してしまふことが、現在では分かっています（オゾン層の上には、電離層が広がっています）。

尚、オゾン層では、酸素原子と酸素分子とオゾンが共存しており、オゾンは酸素原子と酸素分子に分解したり、逆に酸素原子と酸素分子からオゾンが合成されたりを常に繰り返しながら、季節や地域による差はありますが、太陽からのエネルギーを元にして、オゾンは一定量に保存される

仕組みになっています。ですから、オゾン層といつても、他に酸素や酸素分子も存在していて、オゾン層を形成しています。

○酸素は小さな磁石

注目すべきことは、酸素原子と酸素分子は非常に磁気的性質が大きくて、酸素原子は磁石（常磁性体）だということです。

空気が対流している対流層（地上0 km～約20 km）のすぐ上空にオゾン層があるため、空気の対流の影響を受けていないと考えると、オゾン層は静かだと想定します。地球は一種の磁石なので、砂鉄が磁石に集められるように、酸素も地球磁石に集められてしまう。つまり、南極（N）と北極（S）及び赤道付近の上空では少なくなってしまうことが、理解できます。

結論としては、オゾン層の分布が変化するのは、地磁気の影響だと結論できます。

三、スカラー波と地磁気

南極のオゾン層は、九月から十月には50%も減少して

しまうという現象をもう少し追求してみましよう。

状況を簡単にするため地球を磁石だと見なすと、北極がSで、南極がNなので、一種の棒磁石だと見なすことができます。そこで、この磁気と同じ磁気を発生させるために、地球の赤道面に平行に北極から南極まで、等間隔に同じ大きさのループ（例えば、直線状の針金の両端をくっつけて、円状にした物）を並べて、このすべてのループに同じ強さの電流が東（北海道）から西（九州）の方向に流れているとします。以後の説明で、ループと書く場合には、この地磁気を発生させるために考えだしたループのことで、コイルと書く場合も同じく、赤道面に平行に北極から南極まで、等間隔に同じ大きさのループを並べた物のことです。このコイルの電流の状態を、十一月～八月までの地磁気とおゾンの状態と考えましよう。

南極のオゾン層は、九月から十月には50%も減少してしまうのは、一つには九月から十月は、南極地方は冬なので、冬だと太陽光が少なくなり、オゾンが発生しにくくなる為です。

しかし、今後五年くらいはオゾンは減少すると予測されており、フロンによる影響などが原因だと推測されていま

すが、確実なことは解明されていません。それでは、このことを考察するために地磁気の発生原理について考えてみます。

太古、地球が固まる以前、今の地球の公転軌道にスカラーが集中する場所があり、これが公転しながら地球に成長する。柔らかい地球の中心に向かつて、スカラーが流れ込み現在の地磁気と同じ方向に太陽系の磁気が発生している場合、Maxwellの削除された項目 $E = -u \times B$ (u がスカラーの運動方向で、今の場合、地球の中心方向です。Bは磁場で、今の場合、太陽系の磁気。Eは u とBにより発生する電界です)を利用すると、電界は先ほど考えたループに流れる電流と同じものを発生させます。つまり、地球中心に流れ込んでいるスカラーと太陽系の磁場により、地球の地磁気が発生していたということになります。(さらに、中心に集中したスカラー波は、プラズマを生成し、金属のような固い物質を形成した。そして、地球の自転にともなうスカラー波の回転と太陽系の磁場によりマイナスイオン電荷が地表に引っ張られてしまう。——この考え方は、太古の太陽系や地球が固まる以前から現在の太陽系ができあがるまでの過程の発見に、これまでとはまったく異なった新しい視

点を与えるものです——)。

これらのことを踏まえて、現在のスカラー波攻撃による影響について、地磁気の乱れという視点に立って、想定1と2を中心に考えて行きましょう。

想定1…南極に地磁気と逆向きの磁場が発生しているため、南極の地磁気が弱くなった。このため、オゾンが減少した。

想定2…南極のループの大きさが倍ほどに大きくなったが、流れる電流は同じ為、南極の地磁気が弱くなった。(電流が同じ大きさなら、ループの半径が小さいほどループ内部に発生する磁場は強くなる。反対に、ループの半径が大きくなると、弱くなる。)

四、想定についての解釈

例えば、局所的に日本のある地域に大量のスカラー波を発生させると、地球の中心に流れ込んでいるスカラー波と同じように、地下に吸収されるが、地球の自転により上空から見て反時計回りに渦を巻きながら吸収される。このスカラーの局所的な流れと地磁気とにより、またスカラー波

の増加により、ループに流れる電流が増加し、地磁気方向に余分の強い磁場を発生することになります（左巻きコイルはテストラコイルであり、電流やスカラー波の反時計廻りは左巻きコイルと同じ原理なので、更に強いスカラー波を発生。千乃）。さらに、この電流による強い磁場により、隣にあるループが発生する地磁気と同じ方向のため、これまでよりも強い引力がループ間に発生する。この引力により他のループが引き寄せられ、日本を中心にループが密に集まるので、コイルが縮んでしまう格好になってしまいません。

このため、AとBの状態が発生すると予想されます。

A. 地球に入り込むスカラー波の中心の位置がわずかに日本よりずれてしまうので、地球の自転が少し不安定になり独楽がふらつくようにふらついてしまう。地球や太陽系全体から見るとこの地球のふらつきは、異常なので自浄作用として元の状態に戻そうとする力が働く。

つまり、一つには、日本の余分なスカラー波を日本の上空に向けて、雷や地震として放電してしまふ。二つ目には、

スカラー波の中心を元の位置に戻すような力が働き、余分なスカラーが地球の中心に移動する。しかし、二十四時間生成され続けている大量のスカラー（日本のスカラー波大量発生装置（違法送配電工事）やその増幅を計るアンテナ工作により発生されるS波の状態。千乃）が中心に蓄積されると、地球に電磁気的な偏りが生まれ、耐えきれなくなり、自転軸の変化／地磁気の変化／地震／地核変化／気象変化、さらには逆噴射によりブラジルから放出される（想定1の状態）。

通常の雷は大地と雷雲の間での電気の放電現象なのですが、J1会員の方からの情報によると、雷雲から更に上方に向けて雷が発生していることが検証されています。この現象は地球に余分に蓄積されたスカラーが、これまで説明したような地球の作用により余分の電気エネルギーとして、地球外に放射されている姿なのかもしれません。まるで、地球が太古に逆戻りしたようにも思えてきます（若い銀河がそのジェットとして電子や原子を放射するように）。

地上だとオゾン存在できないくらい酸素分子と酸素原子の結合力が弱いのに、さらにオゾン層にスカラーが蓄積

されていれば、電子による結合力が弱まり、オゾンが発生できにくくなってしまふ。

他にもスカラーの影響で、地磁気が弱まった、もしくは地磁気が乱れているため、酸素原子や分子が磁気の方向に整列しにくくなった。このため、太陽光線を受けてオゾンを生成できる環境になったとしても、酸素原子と分子の並びに乱れがあるので、酸素分子と原子が接触しても、以前ほど結合してオゾンにならなくなってしまった可能性もあります（あらゆる化学変化が、S波の過剰発生及び放出の為、不可能もしくは阻害され減少していることが主原因です。千乃）。

一度、オゾン層での地磁気の影響と酸素原子や酸素分子の量の変化を調査すれば実証できると思います。

B. コイルの縮みにより、日本と反対側のブラジルでの地磁気が弱くなる。また、日本の他にもシベリアなどでも地磁気が強まっているので、シベリアの反対側でも地磁気が弱くなる。これらのために、さらにコイルが縮んで、想定2のような状態となると推測されます。（傍線と書き込みは千乃による。）

（参考文献）

- 理科年表 平成六年版 丸善
- 理科年表 平成十年版 丸善
- 改訂版 物理学辞典 培風館
- 新・科学用語小辞典 BLUE BACKS
- 他物理学辞典

四、富士山の雪が消えてしまった 誰が犯人だ？

—— やっぱり左翼ゲリラが下手人ですか 納得！

九八年六月二日付の産経新聞に、例年よりも平均気温が高く富士山の雪が消えたという記事が掲載されていて、その理由としてエルニーニョ現象を指摘していた。このエルニーニョ現象は、日本近海の高気圧が安定しており、太平洋をまたいで、日本から南北米大陸に向かって風が吹き、風に引きつれて暖かい海流が南北米大陸におつかることで発生している。原因としてはインドネシアの森林伐採だともいわれているが、未だに原因は不明とのこと。通常だと、夏になると、夏の気温上昇と共に、日本ではおなじみの台風（低気圧）が発生する。低気圧が発生すると、今まで日本から南北米大陸に吹いていた風は止んで、逆風となり、エルニーニョは消滅するのが、例年であった。しかし、長引く異常気象のため、ブラジルでは日照りが続き、一年も雨が降らなかつたため、カピバビレ川は五カ月前から干上がってしまった、牛の餌だったサボテンさえも育たなくなつてしまった。

今回の報告は、日本近海に常駐する低気圧が、エルニーニョの発生原因と想定し、九七年の関東地方に降つた大雪に対する分析を元にして、他の異常気象についても、左翼ゲリラによるスカラー攻撃が原因なのだという事を左記で説明いたします。更に、日本近海の常駐する低気圧により、

夏の台風の発生ができづらくなる。また、発生したとしても、その進路が今までと違つた向きになることを追加しておきます。

一、九七年の大雪は日本上空の高気圧が原因

米国で生物学を研究されている〇様より、九七年の大雪に関する詳細な情報と、大雪の原因がスカラー波による重力異常が原因ではないかとの推論を教えてくださいました。また、九八年四月号の千乃先生の雑ノートで「海水はいつもより重いだろうと天上界で言われます」とのコメントがあり、更に〇様の推論が正しいものだと思つたので、左記にその概要を説明いたします。

例年の冬だと風の向きと強さが図1、2のようにほぼ等間隔で、日本上空に下弦の月のような緩いカーブを描き、平行に走っています。ところが、九七年の冬は、大陸の上では間隔の広い平行線が、ちょうど日本上空で収束するようになり大きく歪んでしまいました。このような大きな歪みは七十年間の観測史上初めてのことです。

東シナ海で発生した暖かい水分を大量に含んだ低気圧は、

例年では、平行線が日本まで伸びていないので、日本まで来ずに太平洋に消えてしまいます。しかし、昨年の日本上空での大きな歪みのために、歪んだ平行線に乗って東シナ海で発生した暖かい水分を大量に含んだ低気圧が、関東に到着したのです。同時に、例年なら大陸からの寒気は東北地方に吹くのですが、九七年は歪んだ平行線に沿って関東地方を吹き抜けました。このため、低気圧の大量の水分が、寒気によって冷やされ、大雪となって関東地方に降ったのでした。

この大雪の前後の天気図(図3、4)を見ると、近畿地方の上空に向き半円形の線が見えますが、これは高気圧が居座っている様子です。つまり、近畿及び日本にスカラー波が蓄積されると徐々に、近畿を中心に重力が大きくなる。そして、高気圧が顕著になり、日本の上空に大きな歪みが発生するということが推測できます。

以上により、ゲリラによるスカラー波攻撃が止まない限り日本は万年高気圧状態のため、季節により変動はありますが、日本から南北米大陸向きの風は吹き続け、エルニーニョは消滅しないこととなります。

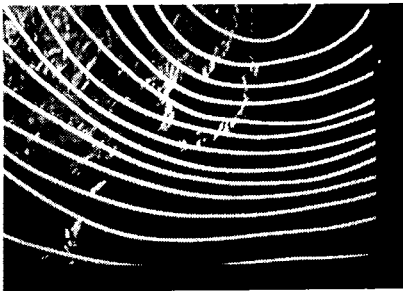


図 1

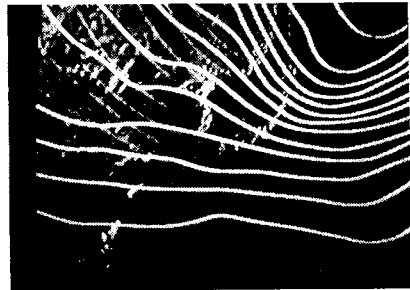


図 2



図 3

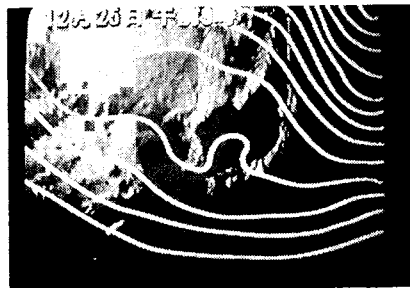


図 4 (すごいですねえー。千乃)

(補足)

九七年の冬は、天気の日が多く、乾燥しており風邪が流行しました。これは、例年よりも高気圧が強かったのだと考えられます。大雪以外にも、冬の雷などビククリするこ
とばかりでした。この冬の雷にしても、冬なのに暖かい空
気が一挙に日本上空に流れ込んだためで、原因は大雪と同
じなのだと思います。

二、高気圧と低気圧で、体調を整える地球

日本の高気圧は、地球を見下ろすような視線だと、風は時計回りに回転しながら、上空から大地に吹き付けます。この回転方向にスカラーが回転すると、磁場は上空から大地に向かつて発生するので、日本では地磁気が強まるように観測されます。さらに、時計回りのスカラーと発生した下向き磁場の組み合わせは、日本上空から地球内部にプラス電荷を注入することになります。つまり、地球は徐々にプラスに帯電され続けることを意味しています。

一方、ブラジルでは、地球を見下ろすような視線だと、風は時計回りに回転しながら、大地から上空に吹き上げて

います。この回転方向にスカラーが回転すると、磁場は上空から大地に向かつて発生するので、ブラジルでは地磁気が弱まるように観測されます。さらに、時計回りのスカラーと発生した下向き磁場の組み合わせは、日本でのスカラー攻撃により、人為的に蓄積されたプラス電荷を、地球内部からブラジルの上空へ放出していることとなります(地球の自浄作用)。自然発生的な高気圧と低気圧は、地球全体に対する電氣的、磁氣的なバランス及びスカラー的なバランスを調整していることが分かります。

従って、地球がプラスに帯電されてしまうと、地磁気全体が徐々に弱くなり、ひどくなれば地磁気の消滅、さらに地軸と共に回転が起こります。電子によって活かされている生命は、この時点で今以上に生命力が弱まってしまい、劇的な地球環境の変化に対応できないのではないかと思います(補足1参照)。

最後に、スカラーにより小規模から大規模に気象を操り、食糧危機や地球の環境危機を演出している左翼ゲリラの親玉がいて、それを知らない人々はそれに踊らされてしまっているのです。

(補足1)

日本では、地球に吸収されるスカラーと地磁気により反時計回りに電界が発生し、さらに酸素にはマイナスイオン電気を帯びやすい性質があつて、空気全体がマイナスに帯電すると、反時計回りの電界により、時計回りの空気の渦が発生しやすくなる。つまり、常に高気圧が発生しやすくなり、なりやすくなる。一方、日本と逆に、ブラジルでは地磁気が弱まっているため、磁気による高気圧と低気圧は発生しづらくなっているが、重力の弱まりから低気圧が常時発生し易くなっているのではないかと推測します。しかし、この低気圧、通常の物なら雨が降るのだが、地磁気と重力の衰弱が原因なので、この地域での酸素や水分子などの結合が弱まり、雨雲ができずに日照りに悩まされているのではないかと推測します。以上の補足の推論からも、異常気象及びエルニーニョは消滅しづらい事が分かります。

一方、九八年五月三十一日の産経新聞によれば「なぎさを守る釣り大会」が六月七日、兵庫県須磨海岸一帯で開かれるが、沖に向かつて広がっていたアマモやオゴウリ、ホンダワラなどの藻場が消え、わずかに褐藻類が着生するだけになっているとのこと。これに関しては、記事だけで判断

する限り「スカラー波が無くなれば海も川も蘇る」(丁巳九七年九月号)で説明されていた通りの不幸な事件になってしまいました。九八年五月号で「昔の日本人は貧しくとも心豊だった」と先生が指摘されましたが、現在の日本人には心の豊かさは感じられない。

それというのも、この現実を目の当たりにして、瀕死状態の自然の悲鳴を感じないのです。この大会は「この海の成り行きを見守るため」という理由で開催されるとの事。これで、海は死んだも同然。なぎさを守るのは、自分のためなのか、自分が楽しければ、他の生物が死滅してもよいのか。おそらく次回の釣り大会は、魚がいる他の場所で行われるかも知れない!!

(補足2)

週刊『現代』九八年三月十四日号には、エルニーニョ現象によるものだという事で、カリフォルニアの上空の雲に沢山のカルマン渦列が発生している様子が、スペースシャトルから撮影され、この写真が掲載されました。

このカルマン渦の配置は、例えば流れの速い川の真ん中に丸太の杭が打ち込んであるような場合、この丸太の下流

に発生する右と左巻きの対の渦が列状に複数並んだものなので、エルニーニョが原因の低気圧により発生するものとは思われません。例えば、大陸からの風が、日本上空に引き寄せられて、日本を過ぎたときに一挙に放射されるような時に発生すると思われます。また、ブラジル上空の重力が小さくなれば、そこに流れ込んでくる雲は一度膨らみ、そこを通り過ぎるときに再び合流するような時にも発生すると思われます。

カリフォルニアの上空のカルマン渦列を見て、エルニー

五、毒物だけではない、不審爆発がもたらす、大きな危険！

モジュラーコードからの発火による不審火事に続き、大阪市立大学及び東京大学で不審爆発がありました。私の方が化学関係に詳しくないため、〇様に調査分析していただいた内容を記事とともに記述していますので、詳しい内容はそちらの方を参考にして下さい。

ニョが原因だと発表したジャーナリストは、スカラーが原因なのを知りつつ故意に事実をねじ曲げて、環境問題にすり替えたのだと思います。同じ手法は、日本の左翼マスコミの常套手段で、スカラーによる自然破壊、ゴミ問題、ダイオキシン問題、教育の荒廃の問題他様々な問題の原因は自分たちにあるのに、偽の正義感と被害者意識をおおりに権問題や環境問題にすり替えて、良心的な保守派の人々を窮地に追いやって、楽しんでいるのです。

(傍線は千乃による。)

まとめると、どちらの場合でも危険物を取り扱う手順と設備で行えば、起こり得ないということです。また、記事から推測すると、二件とも通常良く行っている実験のように思われるので、当然ですが危険物を取り扱う手順と設備が整っていると考えられます。

〇様が「なぜエアコンの吸気口だけが燃えたのでしょうか。もしテトラヒドロフランがあつたとしても、吸気口に熱源があつたのでしょうか。」と疑問に思われておられますが、通常エアコンだと吸気を一度圧縮し、その時に発生する熱を室外に逃がしてやり、圧縮した空気を元に戻すことで冷却しているため、エアコンは発熱します。同じように、セシウムの酸素や水との反応で発熱するし、通常熱を持たないモジュラージャケットも発熱している。従つて、これらの三事件に共通して言えることは、通常では発火しないのだが、少しの熱が原因で大きな災害につながるということです。もし、スペースシャトルの爆発はスカラー波によるものだというペアデンの見解が正しいとして、ポケモン事件同様にスカラー波による爆発の実験を行っているか、たまたま実験室にスカラー波が蓄積され爆発が引き起こされたとも考えられます。今後とも、注意深い検討が必要です。

これから、寒くなるに従い換気が悪くなるのですが、右記のような火災を起こさないためには、冷蔵庫／エアコン等の側に、発火性の物を置かない、換気を良くしてスカラーを室内に溜めない、電気製品はこまめに電気を切るなど注意が必要だと思います。

（記事・大阪市立大理学部での爆発）

九八年八月十八日午後四時五十分頃、大阪市立大理学部棟一階の実験室（物質科学科）で、突然、室内のエアコン吸気口付近から発火して爆発、実験室のドアのガラスが吹き飛んだ。

大阪府警住吉署などの調べでは、事故当時有機溶剤のテトラヒドロフランをフラスコに入れて蒸留させ、それを冷却して純度を高める作業をしていた。蒸留に使っていたフラスコやヒーターなどは壊れておらず、エアコンの吸気口だけが燃えていたという。

同物質科学科の教授は「フラスコが無事なので直接この溶剤が爆発の原因になつたかどうかは分からない。エアコンが蒸留した溶剤を吸い込んで、何らかの原因で引火したのかもしれない」と話していた。

〇様にテトラヒドロフランについて調査分析していただいたところ、左記のようなことが分かりました。

テトラヒドロフランは各種樹脂の溶媒として用いられています。用途も広く、形状的には環状エーテルの性質をもっており、確かに、揮発性、引火性の物質で発火しやすいも

のですが、爆発については左記の三点から基本的には、蒸留の過程で漏れ出すということが一番考えにくいと思えます。また、部屋の構造にもよりますが、漏れていたとしてもなぜエアコンに集まったのか、いま一つ、想像しにくいです。

一、爆発が起こったのは化学系の研究室のようですが、テトラヒドロフランのように揮発性、引火性の性質の物質を蒸留するときには、ドラフトといって他の実験区とは離れた大きな換気扇があった場所で行います。

実験がどのような状態で行われたか判りませんが、もしドラフト内でやっているのなら、いくら漏れていてもエアコンが爆発するなど考えられません。

二、ドラフト内でやらないとしても、実験をまさかエアコンのすぐ真下でやっていたようには想像しにくい。もし、蒸留の過程で漏れ出したとしても、蒸留装置からかなり離れているはずですから、エアコンにたまるほど漏れる状態であったなら、蒸留で得られる液体のテトラヒドロフランが、相当減っているのではないでしょう。揮発性、引火性の物質を蒸留するにはそんな大きな装置を使わない（危

ないので）と思えますし、毎日新聞には「フラスコ」とありましたので、大きくても1リットルとかだと思えます。漏れていたなら、実験者が気付くように思います。

三、一番の疑問点は、エアコンだけが爆発したことです。実験中に爆発が起こったのですから、蒸留装置から漏れているなら、必ず蒸留装置内のテトラヒドロフランが燃えるはずです。

〈記事・東大原子力研究総合センターでの爆発〉

九八年八月十八日午後三時半頃、東大原子力研究総合センターの別館の二階の実験室で、実験装置をエタノールで洗浄していたところ、突然爆発して衣服に燃え移った。東京消防庁や本富士署の調べでは、三時頃から室内にある加速器（後方散乱分析装置）の洗浄をしていた。使用したエタノールは純度の高い物だが、わずかに水分が含まれていたらしく、これが装置内のセシウムと反応、爆発した可能性が高いという。

同センターは、別館は実験室や研究室が集まり、建物全体が放射線管理区域になっているが、放射能漏れなどの異常はないとしている。

〇様にセシウムについて調査分析していただいたところ、左記のようなことが分かりました。

セシウムは反応性の大きい物質で、水や酸素共に非常に激しく反応します。保存、使用するときには、水や酸素と触れないようにすることです。後方散乱装置のどのような部分で使うのか判らないのですが、辞典によると、セシウムの用途はそれほど多くなく、電子管内の残存酸素のゲッターに使用するとか、光電管の光陰極として使うとかとありました。どちらにしても、たぶんセシウムがむき出しにしてあったとは思えないのですが、今回だけ部品が壊れていて、洗浄の過程がかなりラフだったら、もしかしたら爆発するかもしれません。しかし、部品が故障していたとして、その状態で実験に無事だったのかどうかなど疑問点もあります。また、洗浄に用いるエタノールが水を含んでいたとしても今回だけとは思えませんし、エタノールに含まれていた少量の水と反応を起こし得るかどうかが判りません。洗浄は部品をビーカーにに入れてエタノールをかけたとありますので、その過程で水が混入した、たまたまむき出しになっていたセシウムにかかってしまい、その直後エタノールがビーカーに注がれた、という状況ならあり得

ることと思います。

追記一・・

今月の新聞記事で、日本近海の海水の温度が高くて、珊瑚礁の死滅や海流の異常による漁獲量の減少などが伝えられております。

更に、人間ドックでの異常の割合が約十年前に比べ倍増していることが発表されており、これらはS波による環境破壊及び生命体への悪影響ではないかと思われま

す。鹿兒島県、沖縄の南西諸島を中心に珊瑚礁の白化現象が広がっている。種子島漁協によると、沿岸約八キロで三カ所を水深十メートルまで調査したが、浅い地域の珊瑚はすべて、深い所でも平均七割が白化していた。琉球大熱帯生物圏研究センターでは「今年は大風が接近せず海水がかくはんされなかったため、水温の高い状態が続いたのが主な原因ではないか」と言っている。

オーストラリア沿岸の世界最大の珊瑚礁地域など世界各地で、白化が確認されており、米国海洋大気局は四月、今世紀最大規模のエルニーニョの影響と発表している。

(一九八・九・四 産経夕刊)

サンマが昨年に比べ二割程度の、十五年間なかった大不漁。原因はサンマの群れが集まる寒流である親潮が南下してこないため。

四万十川の鮎が不漁。西日本科学技術研究所によれば、原因は孵化した鮎が育つ水域の海水温度が二〜四度上昇しているためとの調査報告を行った。

(九八・九・七 産経)

全国の間ドックで異常なし16%。全国の異常なしは、北海道・27%、関東・16%、東海北陸近畿・18%、九

六、人工スカラー波が 地球に蔓延すれば、 地球は窒息死する

九八年九月二十一日の産経新聞及び十月八日号の週刊女性セブンに、病名ブルーリ・アルサーなる皮膚病の記事が掲載されており、左記のようにこれらの記事の概要をまとめて紹介します。

未だに、病原菌も特定されておらず、しかも報告者が生

州・14% (昭和五十九年・30%、平成八年・17%)。

追記二・

最後に、月の両極に六十億トンもの水が存在する証拠を見つけたとNASAが九月三日に発表しており、四万人が百年間生活できる量だとのこと。宇宙基地に利用する水を溜めているのではないかと推測されます。

(傍線は千乃による。)

物には素人なのにもかかわらず、簡単に分析をいたしました。誤り等あれば、ご指摘して頂ければと思います。

日本で〇―157による感染が大量発生しましたが、日本では医療事情が良かったため、拡大がくい止められています。しかし、〇―157がブルーリ・アルサーの大量発生し

ている非衛生な中央アフリカ／東南アジア／西大西洋諸島／南アメリカ諸国で発生したとした場合、同じように蔓延したと思われれます。

〈記事概要〉

一九四〇年代末、中央アフリカのビクトリア湖が決壊し、未曾有の大洪水を引き起こした。そのあふれた水は、ウガンダのブルリー地区まで達した。そして洪水の引いた後の湿地帯でこの病気が多発し、そのためこの病名（アルサーは潰瘍）が付けられたという。

この悲惨な細菌感染の皮膚病は、熱帯を中心に二四カ国に広がり、さらに蔓延する気配を見せている。WHOの調査によると、新患者は毎年、一万五人ずつ増えており、後遺症で苦しむ患者は、現在一五万〜二〇万人といわれている。

皮膚組織が破壊され、衰弱から死亡するケースもあるが、本格的な研究はされておらず、ワクチンも未開発。そして、発病するのは十五才未満の子供が圧倒的に多く、手足からの感染が多い。患部を切除して皮膚移植すれば、一応治療するが、発展途上国では医療施設が不十分で、消毒などの初期治療さえできない。

発病は流れの穏やかな河川や淀んだ水辺で多発しており、専門家はこうした地域に細菌が生息、土壌を伝わって、傷口などから感染するとみている。また、空気感染の可能性は低いといわれている。

〈この記事の分析〉

四〇年代の大洪水により、ビクトリア湖の湖底の泥と一緒に、酸素の少ない湖底に生息していた細菌が周囲の地域にばらまかれた。ばらまかれた地域が湿地帯で、なかなか水が引かなかつたため低酸素状態が続き、この細菌が大量に発生したため、本潰瘍が多発したと推測されます。だとすれば、湖底の酸素の少ない場所を好む細菌であり、通常は酸素の多い所だと生息できないと思われれます。

一方、現在この病気が多発している場所が、流れの穏やかな河川や淀んだ水辺であるとのこと、右記の推測とも一致します。だとすれば、人工S波の蓄積による日本で発生している河川の死滅／〇―157／保守派の不自然死、英国での狂牛病、カナダの湖水での酸素不足による水鳥の大量死、AIDS等との関連が強く予想されます。つまり、何らかの原因で、日本に蓄積された人工S波が赤道地域に蓄積されたのではないのでしょうか。そこで、左記のように

推測しました。

日本の人工S波が、まずは海流に乗って東南アジアに蓄積され始め、世界的な異常気象も手伝って放電できなくなりつつあるため、更に蓄積が加速された。日本の人工S波が、海流に乗り、加えて地球を周回する波動に乗ってカナダや英国に影響したように、赤道を中心とした地域（東南アジア／中央アフリカ／西大西洋諸島／南アメリカ諸国）に蓄積した。

そのために、流れの穏やかな河川や淀んだ水辺では、酸素の少ない場所を好む細菌が繁殖し易くなり、免疫機構が

七、諸悪の根源は、

人工スカラー波による地球規模の汚染！

九八年九月号のラファエル様からのメッセージの中に、人工スカラー粒子が、磁性を持つこと、それと電磁場の強いところに集まる性質を元にして、人体への悪影響（神経や臓器、酸素不足による自然界の死）について詳しい説明

完成していないのに、子供は水辺で遊ぶことが多く、傷があつても気にしないため発病しやすくなる。しかも、非衛生的なために蔓延したとも考えられます。

もし、この推測が正しければ、すでに人工S波は地球全体を蝕んでおり、日本での生命の死滅が更に進み、エルニニョとラニーニャの混合した地球規模の異常気象が継続し、しかも地球の酸素の供給源である赤道直下地域の環境破壊が進んでいるとすれば、酸欠から地球の窒息死／突然死へと確実に向かうのだと思います。

（傍線は千乃による。）

が記述されております。この説明から、人工スカラー波を浴びた場合、人体の温度分布／人体の電気分布／脳波／心拍数／血液検査などにより、人体への影響を直接測定できるのではないかと思います。

更に、三番目の基本性質として、人工スカラー粒子が原子波として、電子／陽子／中性子に影響し、不活性化する性質を前提として、左記のように地球規模の異変の原因を考察しましたので報告いたします。

三番目の基本性質は、「何故、二酸化炭素ばかり増えて、酸素分子が減少するのか、オゾンホールが拡大するのか。有毒成分については水素原子（分子）の不活性化が原因」について、天上界と先生により、左記のような仮説を立てられ、検討しておられます。この神の知恵を前提にしたものです。人工スカラー粒子により酸素が炭素に変えられてしまうメカニズムについては、次項別途報告いたします。

「工場や車などの燃焼による酸素の減少と二酸化炭素の増加も一因だが、人工スカラー粒子が原子波として、酸素原子の電子2個、陽子2個くらいと結合して、酸素原子を中性化するため、酸素原子や酸素分子が不活性化する。（注：酸素原子の陽子の数は8個ですが、その内の2個が不活性化してしまうとすれば、陽子の数が6個になるので、酸素原子は陽子の数が6個の炭素原子に変化してしまう。

……追加説明①(参照)

例えば、人工スカラー粒子が、オゾンを構成している三個の酸素原子の内の一つの酸素原子を、炭素原子に変換してしまうと、オゾンが二酸化炭素に変わってしまう。

大気や海は広範囲なので、比較すれば人工スカラー粒子の量は現在あまり多くないが、酸素原子や酸素分子やオゾンを変えてしまうため、オゾンや酸素が減少し、二酸化炭素が増加している。これが原因として存在しているため、人工スカラー波の垂れ流しを止めない限り、二酸化炭素の増加を止められないし、減少しない。

原始大気も重力波が多く、原始植物の発生繁茂により、二酸化炭素の消費と光合成による酸素の生成が大量に可能となるまでは、大気、土、水の成分は二酸化炭素の含有量が圧倒的であった。……追加説明①②(参照)

追加説明①…

人工スカラー粒子は、磁気が集まる性質があるため、酸素や鉄のような磁性体に多く集まることになる。このため、人工スカラー粒子により大きな影響を受けるのは、酸素、鉄（地球の磁石部分）のような物質だと考えられます。

尚、原子は、陽子、電子、中性子から構成されており、電磁気的な性質は、中性子に比べて、陽子と電子が大きい。ため、今回はおもに陽子の非活性化について左記のように考察しました。

人工スカラー粒子により酸素原子（陽子数8、中性子数8）が、陽子の一つ少ない窒素原子や、陽子の二つ少ない炭素原子に変換された場合、酸素分子は一酸化炭素、一酸化窒素、窒素分子へ、オゾンは二酸化窒素、二酸化炭素等へ変えられると想定できません。

また、変換された一酸化窒素は、オゾンの酸素を一個横取りして、二酸化窒素に変化し、オゾンは破壊されてしまいます。従って、人工スカラー粒子により酸素原子が、窒素原子や炭素原子に変換されてしまうと、右記のようにオゾンは確実に少なくなります。また、原始地球の大气、土、海には、二酸化炭素が多かった事が理解できます。二酸化窒素は、更に又、現在原因視されている酸性雨の原因でもあります。

ポプラや竹のような古い世代の植物は、二酸化窒素や一酸化窒素のような窒素酸化物を浄化する能力が優れており、これはこのような植物が繁茂した頃の地球には、現在と比

べて自然のスカラー粒子が多かったからだといえないでしょうか。このため、植物は体内に溜まりやすいスカラー粒子を、勢い良く吐き出すことで体内のスカラー粒子密度を薄くし、体内の電磁気的な活動を停滞させずに生き、進化してきたのだと推測します。

ここで、もう少し深く考察してみましよう。酸素原子核は、陽子8個と中性子8個からできています。人工スカラー粒子により1個の陽子が、不活性化した場合、スカラー密度の濃い陽子7個と中性子8個の窒素原子核となります。地球上の安定な窒素原子は、陽子7個と中性子7個のものが99・6%で、残りの0・4%が陽子7個と中性子8個の窒素なのです。同じように、酸素原子の2個の陽子が、不活性化した場合、陽子6個で、中性子8個の炭素に変換してしまいます。ところが、この炭素は陽子と中性子の数を加えると14で、炭素14と呼ばれており、地球上では安定に存在できずに、原子核から中性子を1個放出して陽子6個と中性子7個の炭素に変化してしまいます。この放出された中性子はすぐに、陽子と電子とニュートリノに分解され、同時に放射線を放出します。

このように人工スカラー粒子が、陽子を無力化してしまふとすれば、二酸化炭素が増える以外に、窒素酸化物、陽子7個と中性子8個の窒素、炭素14が増えることになりません。

追加説明②・・

追加説明①の説明のように窒素分子が増加したとしても、現実的には窒素分子は空気の重量の約75・5%を占めており、且つ化学的に非常に安定した物質な為、スカラー粒子を呼び込む事が少ないと考えられます。しかし、窒素を含む物質としては、二酸化窒素が雨と結合して生成される硝酸やアンモニアなどの化学反応力の強い物質が、土中に蓄積されたスカラー粒子と結合して土中を汚染する可能性があります。

追加説明①のように、スカラー粒子が多くなると陽子の多い重たい元素が軽い元素に変化すると考えた場合、これ以上スカラー波が地球に蓄積されれば、電磁氣的に活発な鉄元素が軽い元素に変換されてしまい、その磁氣的な性質を失ってしまう。地球の中心は巨大な鉄の塊があり、地磁気の発生元だとすれば、地磁気がどんどん小さくなる。更

に、重力が小さくなって、自転が不安定になる。これに加えて、これまで地球が宇宙から吸収していたスカラー粒子は、地磁気に吸い寄せられていたでしょうから、その分のスカラー粒子が吸収できなくなってしまうので、地球のマントル活動が停滞し、地球の熱量が小さくなり、地球が冷えていくことになります。

(補足・・この考え方は、ビッグバン当初から始まる光子の生成、軽い粒子から徐々に重たい粒子が生成されていく過程や地球の進化に、逆行するものとして捉え得るのではないかと思います。

スカラー粒子による宇宙生成への逆説的な論証として、即ち、現在迄の地球の誕生と成長、微生物、生物の発生、進化の学説を立証し得る新たな可能性、更に核融合や原子変換への道が開かれています。)

一、異常気象

日本で大量に発生している人工スカラー粒子が、大気に乗り、磁力の強いところに集まるので、南極と北極に集まって追加説明①のように、オゾンを減少させ、二酸化炭素を増加させている。

一方、地球の中心の鉄の塊が影響を受けると、追加説明②のように、地球が冷え、地磁気が弱くなり、地球自転がおかしくなってしまう。つまり、人工スカラー粒子の蓄積により、自然状態ではありえないような、日本のように高温の部分と、地球の冷えによる低温の部分が形成されつつある。このため、現在海洋に異常な対流と温度差が発生し、エルニーニョ（海水の異常高温地帯）とラニーニャ（海水の異常低温地帯）が力比べをしている状態になっていると推測されます。

従って、異常気象や地球の温暖化は、各地域の電磁気的な強さや、人工スカラー粒子の蓄積度合いによる元素の活性化や変換にも問題があり、すべてが二酸化炭素による温暖化が原因だという単純な発想では、地球文明から宇宙文明への発展はあり得ないのではないのでしょうか。

二、暴走する原子力発電は危険！

日本原子力文化振興財団によれば、地球の温暖化は二酸化炭素が原因、石炭や石油を燃やすような発電では二酸化炭素を削減できないので、原子力発電を進めていくと新聞紙上で発表されてきました。この見解は、人工スカラー粒

子による二酸化炭素の増加の観点からは、無意味です。

一方、人工スカラー粒子により非常に重たい元素の陽子が非活性化された場合、原子核が分裂し易くなったり、放射線の強い物質に変えられてしまうようなことが推測されます。従って、原子力発電では、今までよりも小さな衝撃で核分裂が一举に大きくなったりして、暴走する可能性もあり、大きな危険をはらんでいます。モジュラージャックからの発火やエアコンからの発火などもありますから、十分な注意が必要と思います。

他にも、放射性物質が増えると、遺伝子や免疫系への影響も懸念されます。

三、地球異変は太陽活動に現れる

スカラー粒子が電磁場の強いところに集まるとすれば、太陽系レベルだと、太陽、地球、木星のような生きて活動している星に集まりやすいということが分かります。

ここで、太陽はスカラー粒子を放出していると、地球や木星にはたくさんのスカラー粒子が集まることになります。しかし、地球がたくさんのスカラー粒子を宇宙に放出した場合、この地球発のスカラー粒子は太陽に集まる

と考えられます。地球発のスカラー粒子は、太陽磁場の強い黒点に吸収されると考えると、黒点の動きと地球のスカラー的な動きは密に連動している可能性があります。つまり、太陽の黒点も含めた磁気変動は、地球のスカラー的な変動としても現れ、地球のスカラー粒子による磁気変動は太陽の黒点にも変化を与えることが、推測されます。

左記のような黒点関連の記事が掲載されており、今後とも黒点の動きに注意が必要です。

〔一九八十年十月二十日『産経』夕刊〕

NASAは十九日、地球に磁気嵐などの悪影響を及ぼす太陽の活動（活動の強度は黒点活動に現れ、黒点数が強度の指標として用いられる）が、来年後半から二千年前半にピークに向かって活発化していると発表。

一九九六年九月にはほぼ零だった黒点数が、今年にはいつて急速に上昇。十九日現在で百三十になった。NASAはピーク時には百七十前後に上昇するとみている。

太陽活動はほぼ十一年周期で極大を繰り返している。太陽活動が活発になると、太陽表面で起きるフレアと呼ばれる爆発にもなって地球に頻繁に磁気嵐が発生。通信障害を招く他、電線に作用して巨大な電流を発生し電力供給に

も悪影響を及ぼす。

前回の極大だった八十九年には米国北部で大型変圧器が焼けて広域で停電が起きた。

また、地球の大気上層部が温められて大気圏が膨張するため、人工衛星の軌道にも影響が出ると予測している。

補足1..

水素は酸素と比べると約1/50の磁性で小さいようですが、水の約7倍もあるため、スカラー粒子により不活性化された場合、酸素の不活性化も加えて様々な化学結合が抑制されてしまう。つまり、化学物質の合成や分解が遅くなったりするため、一度毒物が生成されると化学反応により無害化されにくくなる。

補足2..

ペアデンが言うように、カルシウムが陽子の一つ少ないカリウムに変化するとすれば、体内では心臓発作の原因にもなります。

補足3..

海には、酸素や二酸化炭素が溶け込んでいる以外にも、炭素／酸素／水素／鉄やカルシウムなどを利用した生命活動により、有機物や酸化鉄や貝殻のようなものを構成する成分として取り込まれています。

一方、海水に非常に沢山含まれる塩の成分であるナトリウムと塩素は、磁気的な力は小さく（スカラー粒子を取り込み酸素原子に変化する事はないと思われます）、生命を維持するための化学物質として使われていますが、炭素／酸素／水素／鉄やカルシウムに比べると重要度が下がります。しかし、ナトリウムイオンは、神経細胞を流れる電流の主要因ですから、化学結合的なものよりも、イオンによる電流や磁気的な面で人工スカラー粒子を集めやすく、この流れが不活性化すれば神経細胞への悪影響が懸念されます。さらに、生命が自然のスカラー粒子を体外から体内に取り込み、体内の電磁気的な活動を活性化させ、体内で酸素や二酸化炭素や他の有機物との化学反応を正常に行っている。そして、使用済みのスカラー粒子を体外へ放出している。この自然のスカラー粒子の取り込みから放出までの過程で、海水中の流れによる流動電流の役割が大きい。このため、人工スカラー粒子により流動電流が不活性化すれば、丁度

地球の異常気象のように、スカラーのバランスが壊れるとともに、海中生物の体内の電磁気的なバランスが狂ってしまう。（これがクジラやイルカの海中中の移動に影響を与え、諸国の港や海岸などに迷い込む原因ともなったのでしようね！！（脳内の磁石に影響を与える原因）更に陸上では大気中及び自然界の静電気の変動により、渡り鳥の脳内磁石に影響を与え、各地への渡りの時期の遅れなどの原因となった——。千乃）

陸上生物においては、地磁気の流れ、酸素の流れ、自然の静電気の変動などが、海水中の流動電流の代わりをしていると思われるので、やはり人工スカラー粒子による異常気象により、体内の電磁気的なバランスが狂わされてしまいます。

補足 4 ..

NHK衛星第二で放映され、産経新聞の広告に掲載された「20世紀生きもの黙示録Ⅱ ビデオ20巻セット」の広告内容を読むと、たくさん可愛らしい生物が絶滅したり、その寸前である事を訴えているが、ビデオを売りたい売ればそれでいいという魂胆が見え見えなのと、左翼が

製作したのか絶滅の危機はすべて人間の欲望が原因で乱獲したのが原因のように記述されている。これは、現在日本で起こっている人工スカラー波による全生物の生命の危機を、ダイオキシン問題や二酸化炭素による温暖化の問題や毒物混入事件のように大騒ぎして、一般大衆の目から逸らさせようとするものだと思います。つまり、この広告を読むと、読んだ人に絶滅しかけている生物に対する負い目を負わせ、日本や世界中で起こっている不自然死の眞の原因である、人工スカラー波から目を逸らさせてしまい、産業廃棄物とか乱獲への反対気運を煽られ、左翼のマイノ・コントロールに操られて扇動されてしまう。

〈教えて頂きたい事〉

原子核、陽子、中性子、電子の形状及び性質に付いての物理的なイメージ、更にスカラー粒子が取り込まれる様子や核子を非活性化する物理的なメカニズムが不明確です。

そこで、今回はスカラー粒子が酸素原子核に取り込まれ、陽子を非活性化してしまう、つまり電気磁気的に中性な状態（運動の無い漂うだけの密度の濃い集中したスカラーポテンシャル）として考えましたが（天上界はそれで良いと

言われます。千乃）、この状態と中性子との違いや、他にも電子の非活性化については、まだ考察していません（これについては、身近な所で、キャラバンで使用する懐中電灯（筒型、蛍光管三本内蔵）が、S波攻撃が強いと、十五分位で電子が不活性化し、消えてしまう。つまり各素粒子の持つ磁性とスカラー粒子の磁性が結合して化学反応をストップしてしまふ。原子や分子がそのまま大気や水、土、生体などに滞留し、外に排出しにくくなる。排出する時は、ガスのように溢れ出る状態です。そこに方向性のある通信波などを通過させると、忽ちそのガスが飛び付き周囲に充滿するか、何かの対象物に飛び付き、もぐり込むことになるのです!! 千乃）。

また、陽子が非活性化すると、もしかしたら原子核内の中性子も非活性化してしまい炭素14のような放射性的物質は生成されないのかもしれませんが（やはりこれが正しいかも判りません。千乃）が、今回は陽子だけが非活性化されると考えました。

一方、原子核の中には、非活性化された陽子が存在しているが、電気的な性質及び**磁気的な性質**はほとんど無いとしても、質量的には残っていると仮定すると、陽子数と中

中性子数が同じ炭素であっても、(S波粒子が多く含まれるものと、そうでないもののように) 質量の異なった物が存在することに なります(磁気的な性質のみが活性化していません。千乃)。

更に、非活性化した炭素から、何らかの原因でスカラー粒子が追い出され活性化した場合、元の酸素に戻るようなメカニズムを今後考察する必要があります。(それは可能です! 一番効果があるのはスカラー粒子を減らして、磁気結合を減らすことです。現在スカラー粒子の磁気によって化学変化を起こしているのですから——。大岡先生や座場さんが今迄やってこられた、S波を取り除く作業——これで良いのです。だからキヤラバン・メンバーは一般社会人のようにO—157などに罹らず、持病の悪化が少ないのです。千乃)

他の考え方としては、陽子と電子にスカラー粒子が結合した時に、中性子に変わってしまうと考えた場合、通常中性子は、電子と陽子とニュートリノと電磁波に分解されてしまうので、スカラー粒子はニュートリノと電磁波から構成されることとなります。確かに、中性子は電気的な性質

は非常に弱く磁性のみを持っていませんし、ニュートリノは中性で何でも貫通してしまう性質があり、どことなくスカラー波の性質に似ています。これを前提とすると、酸素は通常の炭素に比べ中性子が4個多い放射性物質に変わってしまうため、このような原子核の変換が多くなればなるほど、放射能が増えることとなります。(いえ、そのようではなく、DNAの異常で、突然変異が虫の世界に起きているのは、S波そのものがDNAを一部非活性化し、元のDNA情報を次の世代に総て伝達が出来ない。そういった形のDNA異変かも知れません。そうであろうと天上界が言われます! 千乃)

そこで、原子核、陽子、中性子、電子の形状及び性質についての物理的なイメージ、更にスカラー粒子が取り込まれる様子や核子を非活性化する物理的なイメージやメカニズムについて(これは大岡先生にお願いします。細かい図形は苦手なので——。千乃)、先生と天上界にて仮説を立てられた時の考察過程を教えてください。

(十月二十二日に頂いたメモの中で、塩の塩素とナトリウムの総陽子数と、二酸化炭素の総陽子数を比較され、塩と二酸化炭素の間のスカラー粒子による変換を考察されておら

れました。この考え方を延長すると、例えば、二酸化炭素は酸素原子2個と炭素原子1個が、相互に電子を仲介して、これらの原子核を原子核の大きさの一千倍以上の広い空間を隔てて結合しています。一方、二酸化炭素の総陽子数は24個で、陽子の数が24個からできて1個の重たい原子核を想定すると、この1個の重たい原子と二酸化炭素の違いは、スカラー粒子の結合具合が違ふからだという事のように解釈しましたが、いかがでしょうか。〔いえ、そうではなくて（二酸化炭素と等価の原子ではなく）、何かの別の原子が、例えば二〜三種類あつて、それらが電子のやり

八、「諸悪の根源は、

人工スカラー波による地球規模の汚染！」の補足

酸素原子の二個の陽子が、人工S粒子により不活性化した場合、原子変換が起こり、炭素原子に変換してしまう事もあり得えます。梁瀬光世著『超常識のサイエンス』（学研 MU BOOKS）に、生体の内部において、原子核が融合して原子変換が起きている例が何件か確認されてい

取りで（スカラー粒子による化学反応）一個のCO₂と別の何かの原子とに分かれるということですよ!! 勿論これは電子の数の増減のみで、陽子の数そのものは同じで不活性化しているだけです。S波による結合から解放されると、不活性化している各素粒子（電子が一番変化し易い）が元に戻り、活動し始める。炭素が酸素に戻るといふ事が起ります。一時的に不活性化するのですから、水分子のクラスタ―化と考えれば、判り易いのではないのでしょうか。以上天上来に検証して頂きながら説明致しました。千乃）

（傍線は千乃による。）

るので、ご紹介します（一条様から資料提供がありました）。化学式内の陽と中はそれぞれ陽子と中性子の数を表します。

左記の生体内での原子転換（核融合）においては、反応後に生成される物質はいずれも安定しており、C14のよう

な放射能を伴う強いエネルギーを放射するようなものではない。このことは、生体内での原子転換は、生体を破壊するような原子転換は行われないうに制限されているのだと思われます。また、原子変換後の物質が安定な元素の場合、変換前後の原子核の立体構造が似ているので、生体内でも案外簡単に原子核変換ができるのだと思われます。

自然のスカラー粒子が大量に存在していた太古の地球に発生した生命（地球と同じように、自然のスカラー粒子の貯蔵庫であり代謝を行う）は、生体内への自然のスカラー粒子の蓄積を排除すると共に、地球環境に希少だが、生存に不可欠な物質については、生体内に蓄積された自然のスカラー粒子を利用して、原子核変換を行っていたのだと推測します。この能力により、不安定な太古の地球環境でも生命は生き抜くことができたのだと思ひます。

現在の地球では、地球環境が安定しており、且つ生きるために必要な物質については、生態系の中で他の生命体が生成してくれるため、ほとんど必要がなくなっている。原子核変換の能力は非活性化した反面、生態系が創造され活性化した。これは、地球の進化の過程で、自然のスカラー粒子から軽い物質ができ、原子核変換により徐々に重たい

物質が生成されるとともに、地球大気や地殻成分も進化し、生命の進化が可能になった。しかし、人間の加齢と共に体内の成分が変化し、行動や思考や食生活まで変わってしまったことから類推すると、地球の加齢と共に、地球に必要な物質に過不足ができたとき、生命は核変換を開始するかもしれない（!! 千乃）。

次に、自然のスカラー粒子の取り込みによる原子核変換のイメージを説明します。

例一..ツクシ

ツクシは、成長するためには大量のカルシウムを必要とするが、ケイ素ばかりの砂地に生えているツクシは、ケイ素と空気中の二酸化炭素から抽出した炭素を体内で結合して、カルシウムに転換する。

ケイ素（陽14、中14）＋炭素（陽6、中6）

↓カルシウム（陽20、中20）

例二..ニワトリ

ニワトリがカルシウム不足になると、産まれる卵の殻が柔らかくなる。そこで餌に雲母を与えると、初めて見るに

も関わらずガツガツと食べる。雲母にはカルシウムは含まれないが、代わりに含まれるカリウムをニワトリは吸収し、体内で水素と結合してカルシウムを作る。翌日には殻の硬い卵を産む。

カリウム (陽 19、中 20) + 水素 (陽 1、中 0)

↓ カルシウム (陽 20、中 20)

例三…人間

ある油田の労働者の食事内容と排泄物を調査した結果、ナトリウムが体内で酸素と結合してカリウムに転換していることが突きとめられた。

ナトリウム (陽 12、中 12) + 酸素 (陽 8、中 8)

↓ カリウム (陽 20、中 20)

例四…アンコール・ワットの微生物

アンコール・ワットの遺跡では、鉄分を含む岩が微生物の影響によって黒ずむことがある。黒い物質の正体はマンガンで、研究の結果、この微生物は鉄を水素とマンガンに分解したり、逆にマンガンと水素を結合させて鉄に転換したりできることが明らかになった。

水素が少ないアルカリ性の環境で…

鉄 (陽 26、中 30)

↓ マンガン (陽 25、中 30) + 水素 (陽 1、中 0)

水素が多い酸性の環境で…

マンガン (陽 25、中 30) + 水素 (陽 1、中 0)

↓ 鉄 (陽 26、中 30)

追記一…

珊瑚礁は、クラゲの仲間の腔腸動物で、体内に褐虫藻が光合成を行う時に、二酸化炭素を吸収する。この吸収力は、熱帯雨林並だという実験結果があり、地球にはなくてはならない存在だということが明らかになっています。この珊瑚礁が世界的に死滅しており、九八年十一月六日のNHKの放映では、珊瑚の白化は、エルニーニョの余波で海水温度が一度〜二度高かった海域で発生した。結論としては、二酸化炭素による温暖化が問題ということでした。本当にそうなのだろうか？ 珊瑚について詳しく調べていないの

ですが、『サンゴ礁』（古今書院、高橋著）によれば、珊瑚には褐虫藻が寄生しており、珊瑚は、褐虫藻が珊瑚の吐き出す二酸化炭素を光合成により生産する酸素により呼吸し、海中のプランクトンや褐虫藻を食べて生きている。更に、褐虫藻は光合成ができなくなると、その便毛を使い珊瑚から出て行きます。すると珊瑚は死んでしまい、珊瑚の元々の色である白色になってしまう。従って、珊瑚は褐虫藻が光合成を行う事のできる水深十〜百メートルくらいまでしか棲息できない。また、珊瑚の棲息可能海水温度は、十八度〜二十度以上だという。このことから、海水温度が一度や二度高くても問題ないと素人ながら思うのです。

では、原因を推測してみると、何らかの原因で珊瑚が死んで褐虫藻が逃げてしまったのか、褐虫藻が光合成をできなくなったので逃げてしまい珊瑚が死んだのかだと思ってしまうが、エルニーニョで海水温度が高い分だけ高気圧が発生し天候が悪くなったので、光合成が少なくなり、酸素濃度が低くなった。加えて、海水のかくはんが起こりにくく酸素の供給が減ってしまったために、弱ってしまった。更に、日本発の人工スカラー満載の海流がエルニーニョの原因で、海水のクラスタが大きくなくなったり、酸素や電子が

非活性化した海水温度が一度〜二度高い海域では、褐虫藻が逃げ出してしまったのではないだろうか。それが、原因で珊瑚が死滅したとも考えられるのではないだろうか。ただし、褐虫藻は逃げ出したのではないのなら、真珠貝のように死滅したのかもしれない（恐らくこのケースです！と天上界からのコメントです。千乃）。

九八年九月四日 産経夕刊

鹿児島県、沖縄の南西諸島を中心に珊瑚礁の白化現象が広がっている。種子島漁協によると、沿岸約八キロで三カ所を水深十メートルまで調査したが、浅い地域の珊瑚はすべて、深い所でも平均七割が白化していた。（何も知らないので!! 千乃）琉球大熱帯生物圏研究センターでは「今年のは台風が接近せず海水がかくはんされなかったため、水温の高い状態が続いたのが主な原因ではないか」と言っている。

オーストラリア沿岸の世界最大の珊瑚礁地域など世界各地で、白化が確認されており、（何も知らない！ 千乃）米国海洋大気局は四月、今世紀最大規模のエルニーニョの影響と発表している。

九八年十一月二日 産経夕刊

珊瑚礁学会第一回大会（九八年十一月一日）

沖繩や鹿児島で進んでいる珊瑚の白化に関する緊急報告会。白化がこれまでにない規模であり、生態系にも影響を与えている。熊本県西岸から沖繩県の西部の瀬底島では、水深二メートルの深さまで珊瑚の形成に重要なミドリイシサンゴ類の珊瑚が九五%以上死滅。

沖繩県石垣島の調査でも、コモンサンゴやミドリイシサンゴの仲間では七五年から一〇〇%に白化が確認されている。

追記二・九八年十一月一日産経夕刊

デイスカバリーの植物実験で、真つ暗闇で重力の無い宇宙でも、地球上で事前に少し根だした植物の根の両側に6Vの電流を流したところすべてプラスの方向に曲がった。実験にはトウモロコシ、モヤシマメを使用した。

←
このことから、地球上でも、根や葉の成長箇所に電圧や電流が活発に流れていることが推測され、そこにSが集まり、細胞分裂の過程にも影響すると考えられます。

一方、遺伝子が螺旋の軸方向に振動した場合、圧電効果が起こるのではないかと思うのですが、他にも、コラーゲン、セルロース、水晶、骨などは、圧電物質で、機械的情報や気圧の変化のような圧力変化を電気情報に、電気情報を機械的な情報や気圧情報に変換します。従つて、これらの物質にSが集まると、電氣的に不活性化されてしまう。特に遺伝子だと、遺伝子のほどだけが不完全となり、コピーミスにつながるように考えられます。

もし、電流が原因ではなく、電圧だとすれば、圧電効果というのがあつて、地球上では重力により引つ張られるので、圧電効果により下側がマイナス、上側がプラスになるために、その方向に伸びるのではないかとも思われます。

追記三・

神奈川大学工学部教授により、酸性霧による立ち枯れについて説明があり、左記に概要を記述しました。

「霧の方が雨よりも酸性度がPH3よりも強く、この酸性化の主な原因は、関東平野で発生したNO_xから生じた硝酸によるものであり、山間部はこのNO_xを吸収し、夜になると毎夜のように霧に覆われる。この霧が酸性のために、

新芽が枯れて成長が停止し、立ち枯れの原因であることを実験で確かめた。」

この教授は、(S波についての自覚がなく!! 千乃)悪意があつて報告されたのではなく、地球環境を危惧されて報告されたものだと思いますが、只、このZOXの発生が人工スカラーによる酸素の原子核変換によるものである可能性があり、キャラバンから送られてくる写真によれば道路際の、しかも道路標識などの金属物が設置されている部分の草が重点的に枯れていることから、立ち枯れの真の原因は人工スカラーの充満によるものだと思います。

追記四…巨大建築物

広島や倉敷の国際港に、大型のクレーンが配置されようとしています。これまで、人工スカラーの少ない外国製品さえも、人工スカラーで汚染されてしまう可能性があり、外国製の食品にもご注意あれ!

・広島県の福山港(H8年から、韓国、中国、上海を結ぶ定期コンテナ港路を開設)に、県内初の車輪式大型クレーン車。同型のものが、鳥取の境港、高松の高松港で使用されている。

倉敷市にも、国際物流拠点を目指し、大型クレーンを設置。

他にも、世界文化遺産の姫路城をバックに、「シャディオ」という球形や円錐系の巨大建築物から、豪華な光と音を吐き出す様々なイベントを四年間も行なうとのこと、これもまた大型クレーン同様、人工スカラーの溜まり場となり、遺産ではなく、四年後には遺跡になってしまういかねない!

更に危険なことに、関西電力は都会の真下の地下七〇mの所に、送電線を施設すること、通常の電柱での送電と同じ三相交流で送電すれば、必ず人工スカラーが発生する。都会で発生した人工スカラーがこの地下施設に集まり、更に発生した人工スカラーと共に、直接地球内部に影響を与える。しかも、風や波がないので、固定化されてしまう

と、地球自身の生命を短くしてしまうことになるかもしれない!!!

追記五…九八年十月二十五日産経

自民党が、一校二十五台、全国の小中高一五〇〇校を結

ぶインターネット情報網を構築する方針を打ち出す。この情報網は、光ケーブルでつながれるため、非常に安全だと思えます。現在、電柱にぶら下がっている有線放送やケーブルテレビなどは、電線の中を電流が流れ、しかも左巻きのコイルで縛られている。この左巻きコイルは、その上を走る三相送電線から発生する人工スカラーを左回転にし、昇圧器により更に人工スカラーを強めるという凶悪犯人なのです。しかし、これを光ファイバーにすれば、中を流れるのは小さな光の粒であり人工スカラーを発生しない。更に、大量の情報量を流せるので、左巻きコイルに抱え込まれている複数の電線が不要となるため、左巻きコイルも必要ない。是非進めて欲しいと思います。ただし、関西で発生したNTT故障による混乱や、光ファイバーに直接人工スカラーを乗せると到着地点まで確実に運ばれてしまうおそれがあり、インターネットを見ている子供に直接影響を与えることも可能になるため、悪用される可能性も十分に

ある。
また、インターネットを支えている通信衛星を増加させずに、光ファイバーでの通信を強化して欲しいものだ。

追記六・関西のT様より情報提供

十月九日（木）に、「生体電磁環境研究推進委員会」のタートルで、左記の内容が掲載されました。今後の動向を期待したいものです。

郵政省では、「生体電磁環境研究推進委員会」を開催し、電波による人体への影響に関しての国民の不安を解消し安全で安心な電波利用社会の構築に資するため、電波の生体安全性評価に関する研究・検討を行うこととしました。

背景としては、電波利用の増大・多様化に伴い、人体に対する電磁波の安全対策等の必要性が高まり、電気通信技術審議会が平成二年（一九九〇年）に「電波利用における人体の防護指針」を答申しました。その後、近年の携帯・自動車電話を始めとした移動体通信分野の著しい普及に伴い、こうした機器や基地局からの電波に対する不安や疑問も出されています。

このような状況の中で、本年（一九九七年）四月、電気通信技術審議会から「電波利用における人体防護の在り方」に関し、「遺伝子・がん・免疫系・神経系への影響等」に関する研究を推進する必要がある」などの答申が出されました。

このため、電波の生体安全性評価に関する研究を産学官が連携して推進することとし、そのための研究計画の検討、研究成果の評価等を行うとともに、国際的な動向について調査・検討することとしています（この研究成果はどうなったのですか？ 今は一九九八年十一月なのに——？？千乃）。

追記七・

米国民が民主党を支持し、実質的にクリントン氏の弾劾ができなくなりました。こんな非常識な事は、まったく考えられない。まるで、大統領も又汚い人間であり、神との誓約も米国民への忠誠も必要の無い非神聖な職業であり、つまりは米国民主義は神につながるものではないと宣言してしまったようなものだ。マインドコントロールとは実に恐ろしいものだと思った。脳には有随神経が集まっている、この有随神経には絶縁体が巻き付き磁化されると考えられ、ただでさえスカラー粒子が集まり易くなっ

ている。しかも、この磁界により捻られたスカラー粒子は、体細胞よりも更に強い細胞膜間電界により、このスカラー粒子が神経軸に沿って流れてしまう。つまり、脳神経には、本人の自覚によらず、アクション電流が流れなくても、常にスカラー粒子が神経軸に沿って流れており、シナプスに蓄積、もしくは放電が発生している。これは無意識の意識とでも呼べるものだ。そこで、クリントン支持の音声や脳波をスカラー波に変換し、テレビや電話や衛星通信網を通じて、米国中に放射したのに違いない。そうして、ポケモン事件のように、スカラー波は脳にスカラー粒子として取り付き、その気もないのにその気にさせてしまったのだ。従って、一次的に極端に増加したため、米国中の病院や心不全なる突然死が多発した可能性もあり、調査結果があればつきりします。

（傍線は千乃による。）

スカラー電磁気と気象コントロール

池岡克致

以下は、インターネットに掲載されていた、ベアデンが文通者へ宛てた手紙の翻訳です。ベアデンは、この手紙をホームページの製作者へ最新情報として提供したようです。左記の◆部分は、そのホームページの製作者からのコメントとなります。

スカラー電磁気と気象コントロール

◆左記は、ベアデンのスカラー電磁理論の応用について興味を持っている方々（文通者）へ宛てた手紙の一例です。

主題…世界中で起きている異常気象

日付…一九九八年五月二六日

文通者へ…

世界中で起きている異常気象は偶然ではない。一九〇四年のE.T.

Whittaker による論文で創始された、スーパーポテンシアル理論で

は、遠距離から電磁力場と力場エネルギーを生成することが可能であることが論じられています。すべての電磁場と電磁波は二つのスカラーポテンシアル作用を分解することで可能になることがWhittaker 1904で明らかにされたのです。それは、二つのスカラーポテンシアル作用を結集することによってビーム化（光線化）し、そのポテンシアル・ビームを、ある離れた場所で交差させることによつて「スカラーポテンシアル干渉計」を作成することができ、その干渉区域には、普通の横波電磁場と電磁エネルギーが出現するのです（キヤラバンで受けているS波攻撃状況です。千乃）。

一九〇三年のE.T. Whittakerによる論文に記されたように、スカラーポテンシアルは双方向性縦波電磁波ベアの倍音結集で、それはスカラーポテンシアルの縦波内部構成を望むように「組み立てる」ことによつて、整列された縦波を必要に応じて生成することが可能になるといふことなのです。

従つて、縦波電磁波 (LW) を利用することによつて、ポテンシャル、ク場、そしてク波を作り出す事ができるのです。

又、演繹的に縦波電磁波は横に振れることが不可能なので、三次空間的なエネルギー密度を変へることはできません。代わりに、時間の分域で変化しなければならなくなり、それは、縦波電磁波を作ることによつて、(重力波による。千乃) 時空の歪曲の振動を引き起こすことになるのです。

縦波電磁波を適切に配置することによつて、時空クラスタの歪曲を巧みに作りだすことが可能となり、それは強化された一般相対性理論で、強い電磁力が時空を歪曲させる動因となるのです。この特殊な一般相対性電磁理論は教科書に載っていませんが、一九五〇年以来、兵器開発のため内密にロシア KGB は利用してきたのです。では、気象エンジニアリングは通常どのようにすれば可能になるのでしょうか。

はじめに、光線干渉計を作るために、ベースライン上にそつて必要な距離に離れた二つのスカラポテンシャル光線の送信器を準備し、そのスカラポテンシャル光線のある離れた場所で干渉させる。この干渉区域 (N) は、真空ポテンシャル (時空ポテンシャル、もしくは時空のストレス) でみだされているので、もし、干渉送信器の電気回路が干渉区域周辺のポテンシャルより高い偏倚電圧 (バ

イアス) で接地された場合、干渉区域に拡散型の電磁エネルギー (高温化) が現れ、この操作を発熱モードと呼びます。また、干渉計の電気回路が干渉区域のポテンシャルより低い負の偏倚電圧で接地された場合、干渉区域に収束型の電磁エネルギー (低温化) が現れます。この操作は吸熱モードとなります。

スカラポテンシャル干渉計の偏倚電圧をどのようににセットするかによつて、遠方の干渉区域を暖めたり、冷やしたりすることが可能になるのです。もし単に「放射」すれば、遠距離を徐々に冷やしたり暖めたりすることができますが、干渉計を鋭いパルスにすると遠距離で熱爆発や冷爆発を引き起こすことが出来ます。

勿論、遠方に様々な形状のエネルギーを発生させる事もでき、特にその中でも、球のエネルギーシエル (殻) や半球のエネルギーシエルなどは、その良い例です。世界中で数百にもわたるエネルギーシエルが実際に観察されており、それらはロシアの KGB による兵器テストであることがわかつています。

その他の特性についても知っておく必要があります。それは純粋な縦波電磁波は無限の速さと無限の速度をもつているということ (ロスアラモス国立実験室のウェブサイトにある、Rodrigues et al による要約論文を参照)。実際に、擬似縦波を作った場合、そのエネルギーと速さは有限かもしれませんが、その速度は $\ll V$ にな

るでしょう。

実は、「スカラー」ポテンシャルは全くスカラーではなく、それは Whittaker 1903でもわかるように、双方向性の縦波束なのです。

物質の内部構造は、互いから距離のある微粒子があちこちに散らばっており、実際はポテンシャルとフィールド（場）でみたされた空々のスペースで構成されています。このように小規模的な観点から見ると、「質量」は巨大な太陽系、もしくは宇宙を外部から見たものに似ており、その大半が場とポテンシャルからなる空間なのです。

言ってみれば、場やポテンシャルは縦波電磁波であり（W-1903と1904）、空間のポテンシャル応力は縦波電磁波の空間高速道路なのです。

これが意味することは、「上質」な縦波電磁波（即ち、クリーンな擬似縦波電磁波）は、比較的少ない減衰と少ない相互作用で、地球と大洋を通過することが出来るということなのです。

これで気象エンジニアリングを詳しく説明する準備が整いました。

干渉区域（IN）の焦点を、地球の裏側の気圏内に定め（光線は地球と大洋を通過する）、送信器の偏倚電圧を正に設定します。すると干渉区域の大気中の空気が加熱され、空気が膨張し、「低」気

圧地帯ができます。今度はもう一つの干渉計を使い、その偏倚電圧を負に設定し、焦点を希望される干渉区域に定めます。すると今度は干渉区域の空気が冷やされ濃縮するため、「高」気圧地帯ができます。

今度はジェット気流付近に高気圧と低気圧の干渉区域をいくつか作ります。するとジェット気流は高気圧から低気圧へと流れて行きます。

送信したエネルギーと干渉区域の位置を調整する（ゆっくり移動させる）事によって、ジェット気流が誘導され、その結果、気象を効果的にコントロールすることが可能になります。

もし、竜巻を引き起こしたい場合、ジェット気流に鋭い湾曲をいくつか作った上、速度も少し上げます。一固まりの空気に与えられた付加的角運動量は、小さい回転（竜巻）を引き起こします。

長期にわたって海中に干渉区域を集中させると、その領域の海水を暖めたり、冷やしたりすることが出来ます。それは、エルニーニョを更に悪化させたり、和らげたりすることができるといふことです（エルニーニョとラニーニャの同時発生などの謎の解明！ 干乃）。

このようにKGBは適切な誘導と調整によって、地球上のあらゆる地域で干魃、又は豪雨、嵐や竜巻、そして強化されたエルニーニ

ヨ等を引き起こすことが出来るのです。

又、大衆を大混乱に陥れたい場合、比較的に大きい断層地域に干渉区域の焦点をあわせませます……例えばカリフォルニアのサン・アンドレアス (San Andreas) 断層に。そして干渉モードを発熱型にセットする。すると、エネルギーがゆつくりとその断層地域に蓄積され、ストレスが増加していきます。その結局、プレートがシフトして地震が発生するのです。もし、巨大な地震がほしければ、岩が通常ずれる値をこえる「過剰なポテンシャル」もしくは「過剰な圧力」が蓄積されるように、エネルギーを徐々に加えて行く。すると、そのエネルギーが解放されたとき、巨大な地震が発生するのです。

もし、眠っている火山で、このような火遊びをした場合、何が起ころかはおわかりでしょう。

KGBは、一九七六年七月四日から大規模な、そして持続的な気象操作を北アメリカ全域で開始しました。それは現在も続いています。

その一例として、一九九七年十一月十九日に私はアラバマ州のハントヴィルからケンタッキー州のルイヴィルまで、二十日に開かれる卒業生へのセミナーに向うため、車を運転して行きました。私が州間高速道路でナシユヴィルを通過した時、私の左上空に「巨

大なラジアル雲」を発見しました。巨大なラジアル雲とは、その半径の中心から長い指 (スポーク) を伸ばしており、その長さは数マイル (一マイル＝1.609km) におよびます。これは人工気象エンジンアリングのしるしなのです。私は州間高速道路65を、平均65mph (時速105km/h) で走っていました。そして、その巨大なラジアル雲も私と共に州間高速道路65の左側沿いを同じスピードで移動していったのです。即ち、遠方に居るオペレーター達は、州間高速道路65が載った地図をトレース・ガイドラインとして使い、干渉区域の干渉計配列を移動させていたのです。あの雲は、私と共に合計170kmを、時速105km/hで移動していったのです。そして、遠方のオペレーターがパワーをカットした時、雲は徐々に衰えていきました。その時、パワーが事前にカットされたもう一つの「双」雲が私の右側にもありました。これは即ち、私が八〇年代によく写真を写した悪名高い「双子の巨大ラジアル雲」だったのです。

もし、双子の巨大ラジアル雲が州間高速道路65をまたぎながら時速105km/hで、しかも二時間近く移動するようなことが自然に起きるのならば、それを私に見せるよう、全科学者に挑戦します！それは、ばかばかしい段階にまで統計的可能性を押ししているのです。また、勿論、こういっただ事は世界中で何度も何度も起こっているのです。

要するに、皆さんが心配している異常気象は、これからも異常気象として起り続けるでしょう。現実的には、今後いつそう悪化していくと思われまます。

現在、全面戦争が繰り広げられているのです。

驚かれるかも知れませんが、現在の電磁気学では、質量が存在しない空間での電磁性について全くふれていないのです。それは、マクスウェルが物質エーテルを仮定し、すべての電磁的作用は質量を含有している、ということ的前提にしていたからです。力場については、質量の存在を厳密に定義しており、それは時空の乱れと荷電粒子の相互作用によるものとされているのです。空間の物質的媒体は、マクスウェルが亡くなられた後の一八八〇年代に行われたマイケルソン／モーリーの実験で論破されたにも関わらず、マクスウェルの電磁気学では物質エーテルを未だに含んでいるのです。マクスウェルの方程式は何一つ修正されていないのです！

マクスウェルの電磁気学は、物質から物質への変換を基準としていますが、実は、「変換」される時、内部に織り込まれた二段階の変換が行われており、それは…(1)送信機から「信号」が送り出された時に起こる、物質から時空への変換なのです。これは、信号が送信機から発信された時、「時空歪曲の振動」(重力波の移動を立証するものです。千乃)が発信されるという意味で、決して力場の

振動ではないのです。なぜなら、質量が存在しない空間で、力場の振動はあり得ないからです(ファインマン、ウィーラー、アハラノフ、ボーム、Lindsay、Margenau 他)。その後、(2)時空の摂動は空間を伝わって、受信アンテナ(通常物質によるアンテナも同様。千乃)にたどり着き、そこで、ドルーデ電子と相互作用し、一般に知られている横波電磁振動が形成されるのです。ドルーデ電子が、自転しながらワイヤーを下っていく時、縦に強制されているため、ジャイロの様に振舞います。要するに、我々が計器で測定しているのは、横に摂動している電子で、それは、電荷のジャイロ摂動なのです。

私たちが習っている物質から物質への電磁気的変換内には、抱擁された一般相対性(物質から時空への変換、そして時空から物質への順次変換)が隠されているのです(十二月号で一条さんに解説を? 千乃)。

これこそが、人々が捜していた「魔法のような」統一場理論なのです。私たちが教えている電気力学是一片の駄作に過ぎず、それをロシア人は五〇年代に密かに修正していたのです。そして彼らはこの統一場理論を、度肝を抜かれる程兵器化したのです。

現在、ロシアKGB以外の悪漢グループで、最低でも三ヶ国がスカラ-ポテンシャル干渉計兵器を所持しています。そして、気象工

ンジニアリングは、その兵器が持ついくつかの能力の内、初期段階のものなのです。この世で最も強力な兵器は核ではありません。その本質は、量子ポテンシャルで、デビッド・ボームの隠された可変的理論を満たす為に修正されたWhitaker電磁気学を利用しているのです。

私たちの電気物理学者は、我々に古く、そして恐ろしいほど欠点だらけの電気力学を教え、私たちを完全に失望させてしまいました。これからも、気象が冷淡にコントロールされ、また時折地震をも引き起こされるのを、我々は見届けていかなければならないのです。

とにかく、本当にこういったことが気象上起こっているのです。勿論、すべての竜巻が人工的に発生しているわけではありません！しかし、想像以上に多くの竜巻が人工的に形成されているのです。そしてジェット気流を「誘導」することによって、地球全体の気象をも操作することができるのです。

貴方がこのような事に興味を持っているかはわかりませんが、とにかくそれらを暴露しようと思いました。物理学教科書の重要な部分が間違っている、という概念に対し、ほとんどの科学者は不快感を感じています。しかし、これは事実なのです。私たちが基礎を徹底的に修正するまでは、水準が遥かに低い科学を教え、それを使い続けることになるのです。そして私たちは次から次へと異常気象

を見続けることになるでしょう。

ついでながら、KGBの兵器専門学者は電気力学内の内部に織り込まれた縦波電磁波(時空の歪曲)を、場の情報容積と呼んでいます。私たちの学者はそれをただのスペクトル解析と思っているようです。ロシア人はその科学を全体的に「energetics」と呼んでいます。Rodriguesの初期論文を物理学の基礎27(3)、1997、p. 435-508で見ることが出来ます。Whitakerの論文は：(1)「二つのスカラーポテンシャル作用と電子から導く電磁場方程式」Proc. Lond. Math. Soc.; シリーズ2, Vol. 1, 1904, p. 367-372; (2)「数学物理学の偏微分方程式」Math. Ann., Vol. 57, 1903, p. 333-355を参照。Melba Philipsのスーパーポテンシャル理論「古典的電気力学」、電気力学と相対性の原理Vol. IV S. Flugge, Springer-Verlag, Berlinによる編集, 1962, p. 1-108。その他にDebye, Nisbet, Bronnwich, McCreaがスーパーポテンシャル理論の基礎構築に貢献しました。目を見張らせるような、とても素晴らしい論文はPatrick Cornilleの「不均質波とマクスウェルの方程式」、電磁気の理論の形式上アスペクトに関するエッセイのChap. 4, フールドサイエンス、シンガポール、1992, p. 6-86です。特に推薦するのがT.W. Barrett & D.M. Grimes, Eds. 電磁気学上級・基礎、理論、と応用、ワールドサイエンス、ニュージャー

ジ、1995。スーパーウエポンのテストについては、Walker et al.「一九八四年四月九日のKaioku Seamountとミステリー雲」、サイエンス、Vol. 227, Feb. 8, 1985, p. 607-611を参照。またDaniel L. McKennaとDaniel Walkerの「ミステリー雲：補足的観察」サイエンス、Vol. 234, Oct. 24, 1986, p. 412-413を参照して下さい。

あの一九八四年四月九日に起きた、日本海岸外れのクリル（千島列島）付近で、大規模なテストが行われました。それは（一）海面上に冷爆発を引き起こさせ、その時、空気が急激に濃縮し、周囲の空気がいつせいに流れ込み、その合流地点で霧と密な雲となった多くの水が一挙に空へ上昇していきました。その後、二番目のテストが実行されました。それは光り輝く球が冷爆発からできたキノコ雲（この大きさが判れば、既刊号記述のテスラによるツングースカ上空のキノコ雲と火球の爆発が、UFO爆発を含むものではないとの立証も可能です。同様に二度のテストで冷爆発であったか、単に一

度の火球の爆発がキノコ雲を生じたか——。千乃）の頂上で輝いたのです。この輝く球は、直径およそ三八〇マイル（611km）に到達するまで拡大し続けました。その時点で、球の中央は、高度およそ二〇〇マイル（322km）に達していました。この事件は、尊敬すべき雑誌「サイエンス」で、とても素晴らしい内容の記事として、一回掲載されました。

この事件こそ、KGBが干渉計兵器（飛鳥昭雄氏著述のプラズマ兵器、プラズマ球と思われれます！千乃）を駆使した戦略の規模をしめすものなのです。そして、これまで数回にわたる同様の事件が起きているのです。

いずれにせよ、これまでに起きてきた気象現象の最新情報を私に送って頂き感謝しています。こういった情報は時折助かりますから。

敬具

ベアデン

（傍線は千乃による。）

反ダイオキシン・環境ホルモン運動が招く危機

——反ダイオキシン・環境ホルモン運動は、人工的スカラー波及び電磁波被曝犯罪からの自隠し——

萩本 祐子

ここ数年急激に、ダイオキシン、または環境ホルモン（内分泌攪乱化学物質）の危険性が声高に叫ばれるようになりました。この異常な過熱ぶりは日本だけの現象のようです。果たして、この「反ダイオキシン・環境ホルモン運動」がいかなるものなのか、現在行われている最新の実験データも参照しながら批判したく思います。真と偽の情報が入り乱れているようです。

本文の前にダイオキシンおよび環境ホルモンとは何か、また引用文献中、及び図表に出てくる化学物質について簡単に紹介します。ダイオキシンとはPCDD（ポリ塩化ジベンゾーP—ジオキシン）、PCDF（ポリ塩化ジベンゾフラン）のことで塩素の付く位置、数により毒性の異なる二一〇種類があります。構造式で2と3と7と8の位置に塩素が付いたもの（2,3,7,8-TCDD）がダイオキシンの仲間の中で最も毒性が強いとされています。TEQ濃度というのは、

毒性を評価するときに2,3,7,8-TCDDの毒性を1として、他の種類のダイオキシンの毒性の強さを換算して評価した値です。PCB（ポリ塩化ビフェニル）、コプラナーPCB（Co-PCB）もダイオキシン類とよく似た構造をしており毒性が高い物質とされています。

また、環境ホルモンとは、農薬、医薬品、製造原料や添加物として使用されている化学物質の中に、あたかも生体内に生体ホルモンの様な顔をして存在する化学物質の総称です。例えば、PBBはポリ臭素化ビフェニル（難燃剤）、DDTは有機塩素系殺虫剤（現在は農薬としては使用されていません）、DDEはDDTの代謝物、DES（ジエチルスチルベストロール）は合成女性ホルモン、タモキシフェンは合成ステロイドホルモンです。

一、最初に、現在みられる偏った「反ダイオキシン・環境ホルモ

ン運動」の代表的な主張を述べながらそれらに対する主な疑問点を挙げたく思います。人間に対する影響については二の項目で述べたく思います。

〈疑問点1〉

反ダイオキシシン・環境ホルモン運動は症例の有無などを確認できないまま、危機感だけをあおっている。マスコミでは、ダイオキシシンの汚染度は詳細に報道されるが、病症との関連性については皆無である。

〈疑問点2〉

日々の報道では、ダイオキシシン類の汚染度についてのみがクロアズアップされている。ダイオキシシンおよび環境ホルモンにより、人体にどんな影響があるのかはさておき、汚染度、さらに汚染状況を隠蔽したかなどに問題がすり替えられていることが多い。

例1. 一九九五年～一九九七年。テレビ朝日「SCOPP」四回連続番組。ダイオキシシンの特集。ベトナム戦争で使用された枯れ葉剤にダイオキシシンが混入していたとして、その後枯れ葉剤により被害を受けたベトナムの奇形児多発は、すべてダイオキシシンが原因とし

て、日本のごみ処理場などのダイオキシシン汚染が危険であると報道を始める。日本のダイオキシシン規制基準が欧米に比べ甘いことを根拠に自治体企業を相手に論争を開始する。

この番組を機に反ダイオキシシン運動が高まったと考えられます。確かに日本のダイオキシシン規制基準は甘かったものの、日本政府の基準が欧米に比べ緩いことはダイオキシシンに限ったことではないでしょう。環境汚染と叫ぶからには、様々な有害物質について目を向けるべきではないでしょうか。そして日本でもっとも深刻な問題はS波による深刻な被害、電力会社による違法工事、様々な土地開発の名を借りた環境劣化や悪化問題、そして傍観を続ける一般市民なのです。これは日本だけでなくすでに地球規模にまでおよんでいるのです。ベトナム戦争で使用された枯れ葉剤については、混入されていた主成分は、除草剤であるNDPおよびDDEという化学物質です。NDPはそれ自体がラット、マウスなどに奇形発生を起すことが実験されています(一九六九年)ので、ベトナムの奇形児多発は、複合的なものと考えられますし、兵器として用いられたものですから散布の程度、規模なども比較できないものと思います。米国のベトナム兵士に癌が多いことは、この枯れ葉剤の散布任務にあたった兵士については関係づけられないデータもあるそうです。こ

のテレビ朝日の番組には、岩波書店「戦場の枯葉剤」の著者中村梧郎氏が制作にかかわったとされています。これ以来、反ダイオキシン・環境ホルモン運動にかかわるマスコミ報道ではたいがいこのベトナムの枯れ葉剤が引用されるようになりましたが、これはまず見ているものにダイオキシンに対し恐怖心を与えることが目的と思われま

例2. カップ麵騒動。一九九八年六月三十日産経新聞朝刊より。

「ポリエチレン製のカップめん容器中に含まれ、環境庁などが環境ホルモンの疑いがあると指摘されたスチレントリマーが、熱湯を注ぐことでめんやスープに混入するとの実験結果を、河村葉子・国立医薬品食品衛生研究所室長らがまとめ、二十九日、東京の国連大で開かれた環境ホルモン問題の国際シンポジウムで発表した。

—— 中略 ——

実験に使ったのは、市販されている四種類の中華めん、うどん、そば各一種類ずつ熱湯を注いで三十分放置した後、めんとスープに含まれるスチレントリマーと、同様に環境ホルモンの疑いが指摘されているスチレンダイマーを分析した。ダイマーは検出されなかったが、トリマーは中華めんの四種中三種類に62—65ppb (1ppbは1億分の一)、うどんに46ppb、そばに12ppb含まれていた。

一方、日本即席食品工業協会は二十九日、カップめんの容器中に含まれるスチレンダイマーとスチレントリマーという物質には、環境ホルモンの作用がなかったとする実験結果を発表した。実験は、日清食品の中央研究所（滋賀県草津市）で、放射性同位元素で印を付けたスチレンダイマーとトリマー計六種類を使って実施した。これらの物質が、女性ホルモンや男性ホルモンの受容体に結合して、本来のホルモンの働きを妨げるかどうか調べた結果、六種類にはホルモンの受容体と結び付く力は確認されなかった。ヒトの乳がん細胞を増殖させる作用の有無や、ラットに皮下注射して子宮の重さが変化するかどうかを調べる実験でも、ホルモンのかく乱作用は認められなかったという。」

この報道の後半部にあるホルモン様作用がなかったという実験結果については、ほとんど一般に知られていないようです。

例3. 毒物としてのダイオキシンの毒性は非常に高いとされています。急性毒性に基づく半致死量はラット、マウスで10-6g/kg体重。しかしハムスターはその五〇〇〇〇倍の量と生物種によりばらつきがあります。発がん性に関しては半致死量の1/10から1/1000/kg体重/一日(数週間とか継続して与える。数値は動物種、がんの種

類によって異なる、以上は最も毒性の強い2,3,7,8-TCDDについての値。環境ホルモンとしての数値も発がん性と同じ様なレベル)。以上の毒性は、異なる作用機構をもっています。しかしながら、反ダイオキシシン・環境ホルモン運動家による報道では、まず猛毒であるという点を強調し、受け手には毒物であることと、環境ホルモンであるということとを混乱してとらえられているように思われます。またダイオキシシンが人間に対し環境ホルモンであるという研究データは現在のところ非常に乏しいのです(後述)。猛毒である点をはじめに強調する(「サリンよりこわい」などがキャッチフレーズのように使われる)ことで、過度に恐怖心をあおろうとしているのではと考えられます。

〈疑問点3〉

非常に非科学的に、日本で起こっているすべての問題をダイオキシシン及び環境ホルモンが原因とする論調が多い。

例4. 神戸少年殺害事件など、少年に凶悪事件が増加していることについて、環境ホルモンが影響ではと報道するマスコミが多い。また、日本の少子化問題についても環境ホルモンと関連づけて問題提起する。さらには、近代社会が女性的であるとか、女性が強い時代

だとかそういった考えも環境ホルモンが原因であるという。

例5. フジサンケイグループ、ニュース番組(報道年月日が不明)。藻に奇形の見られた汚染した河川について、スズなどの非常に有害な重金属なども検出しているにもかかわらず、ダイオキシシンの検出により、奇形の原因をダイオキシシンであると決定されてしまった。関連性を注意深く検証すべきではないだろうか。

〈疑問点4〉

ほとんどの反ダイオキシシン・環境ホルモン運動のダイオキシシン対策について、自治体、企業が論争の相手であり、自分たちの問題として積極的に解決しようという姿勢がみられない。自分たちの出来ることは日常のごみを減らすことなど(つまり、それ以上のことは自治体任せ、企業任せ)。非常に低レベルではないか。これを機にダイオキシシンだけでなく日本の環境がいかに破壊されているのか真剣に見直すのが本当ではないのか。

二、環境ホルモンが人間の健康に与える影響についての研究状況を、厚生省生活衛生局食品化学課主催の「第二回内分泌攪乱化学物質の健康影響に関する検討会(九八・五・二八)」議事録、及び配布資料から数件引用、要約しました。以下は、外国の論文など様々

な情報を引用してあります。これらから、マスコミや書籍で感じるほど、人間に与える影響について優位的な研究結果はほとんどないことがわかります。

以下抜粋、要約――

「1. 内分泌かく乱化学物質と各種がんとの関連――疫学的知見

――国立がんセンター 津金昌一郎

〈精巣がんについて〉

環境ホルモンの関連（抜粋）

a、時間的分析

・米国の一九七〇年～一九九〇年にかけての男性についての罹患率上昇は、一九一〇年生まれから一九四〇年生まれにかけての初産年齢の低下と連動。また、一九四〇年生まれより初産年齢が再び高齢化し始めたのと、近年の罹患率の低下傾向が連動している。

b、症例対照研究

・精巣がんの症例対照研究

精巣がんと母親のホルモン剤使用が関連している。

c、無作為比較試験

・DES投与妊婦の男児とブラセボ（有効成分のない偽薬、対象試験）

投与妊婦の男児各二五〇名の長期追跡研究…精巣がん罹患症例は少ない。

（今回の報告ではがんの発症について環境ホルモンとは関係ないと結論できた研究例がほとんどでした――筆者）

〈乳がん（四〇歳代後半と六〇歳代の二峰性のピークを持つ。）〉

乳がんのリスク要因…

初産年齢遅い、初潮年齢早い、閉経年齢遅い、出産経験無し、エネルギーの過剰摂取、野菜摂取量少ない、アルコール摂取、肥満、外因性エストロゲン摂取、乳がんの家族歴有り等が要因として挙げられる。

環境ホルモンの関連…

a、空間的分析

・米国四地域でのエコロジカル研究…一九八七年乳がん死亡率率と同年の国民健康調査で得られた乳がんのリスク要因やマンモグラフィー使用との関連を検討――乳がんの地域差はこれらの要因の地域差で説明可能。

・米国サンフランシスコと他の地域でのエコロジカル研究…サンフランシスコの乳がんの高罹患率は、知られているリスク要因の保有状況により説明可能。

(以上の例では、環境ホルモンとの関係はみられません——筆者)

b、症例対照研究

・米国女性一・五万人のコホートでの保存血清を用いた症例対照研究・五八名の乳がん患者(血清保存後一・六ヶ月後に診断)と一七一名の対照者間で、交絡因子を補正して血清 DDE と PCB 類濃度との関連を検討した。——血清 DDE 濃度の高さは有意に乳がん発症と関連、血清 PCB 類濃度は関連なし。

・米国女性五・七万人のコホートでの保存血清を用いた症例対照研究・一五〇名(白人、黒人、アジア人各五〇)の乳がん患者と一五〇名の対照間で、交絡因子を補正して血清 DDE と PCB 類濃度との関連を検討した。——血清 DDE 濃度と PCB 類濃度は、乳がん発症と関連なし。

・米国ミシガンの事故で PBB 類が混入した餌で飼育された家畜を食した女性二千人のコホートでの保存血清を用いた症例対照研究・二〇名の乳がん患者と二九〇名の対照間で、交絡因子を補正して血清 PBB 類濃度との関連を検討。——血清 PBB 類濃度の高さは、乳がん発症と関連(少数例で有意差なし)。

(反ダイオキシシン・環境ホルモン運動家は、最後の例のみを取り上げて、その他の関連が見られなかったものについての報道は見られ

ません。——筆者)

c、コホート研究

PCB 類に職業的に暴露した女性労働者のコホート研究・乳がん死亡の増加を認めず。

d、断面研究

乳がん患者の診断後の脂肪組織や血清の DDT、DDE、PCB 類量を対照と比較した複数の研究・結果は一致しない。

e、無作為比較試験

乳がんの高危険群米国人一・三万人を無作為に二群に分けタモキシフェンかプラセボを四年間投与した結果、タモキシフェン投与により六九例の乳がん発症を予防したが、十九例の子宮体がんが余分に発症。

(以上、ガンについては環境ホルモンと関係があるとは現在のところ言い難いというのが実情であり、これまでのリスク要因のほうがいい現象を説明しやすいと厚生省生活衛生局議事録にもコメントがありました。——筆者)

(WHO(世界保健機構)の国際がん研究機関(IARC)では、動物実験や人への影響の評価をもとに化学物質の人への発がん性の

強さを分類していますが、平成九年二月、ダイオキシンの中でも最も毒性が強い異性体2,3,7,8-TCDDは、人に対する発がん性があるという評価を行なっています。発がん性を起因と促進に分類するとダイオキシンは促進物質であるとされています。ただし、IARCの分類ではこのほかに700の発がん物質があり、その中でダイオキシンは定量的にはまだ評価できない物質とされています。にもかかわらず、発ガンとの関連を非常に大げさに取り上げるのは、非常識だと思う。』（違法工事によるS波漏電を意図的にそらす為のマスコミの陰謀です!! いつの間にかS波問題が左翼系列の全共闘にすり替わっているのです!!! 千乃）

三、ダイオキシンと子宮内膜症

東京大学医学部教授 武合雄二

a、子宮内膜症は過去二〇、三〇年の間に増加の一途にあるといわれるが、子宮内膜症とダイオキシンとの関連が突然話題に上ったのはReisらの仕事である。彼女らは赤毛サルを用いて四年間ダイオキシンを投与、その後十年間経過を観察したところ無投与群、連日5ppb（1兆分の1グラム／1グラム）投与群、25ppb投与群で子宮内膜症の発生率は各々2／6匹（33%）、3／7（43%）、5／7（71%）と確認した。なお25ppb群では実験の途中で三匹が子宮内膜

症で死んでいる。

しかしながらダイオキシンと同じ受容体を介して作用するとされているPCBを赤毛サルに投与（六年間）したArnoldらの研究ではむしろ無処置群（6／16（37%）の方が投与群（16／64（25%）より子宮内膜症の発生率が高い傾向にあり、しかも投与量と内膜症の進行度との関連も見られなかった。なおこの研究で用いたサルは八匹であり2匹の四倍である。

b、サルの子宮内膜症が先ず自然に発生する頻度は約25〜35%であり少なくとも一般にヒトでの発生率（多く推定して5〜10%）と比較し、かなり高い頻度である。またサル（生殖年齢期間は三才〜二五才）では十一才過ぎより子宮内膜症が発生され年令と共にその頻度が高くなるということはヒト（三〇〜三四才がピーク）と大きく異なる。また子宮内膜症の症状、発生部位などにも両者で相違点が多い。サルで自然発症した子宮内膜症の約30%がその進行の結果死亡する（ヒトでは例外的に致命的なこともある程度）。サルでは妊娠・分娩の経験のないことが子宮内膜症のリスクとなるので仮にダイオキシンが子宮内膜症の発生に関わっていたにしても（Reisらの実験aの前半部について——筆者注）、生殖能の低下を介した間接的機序も否定できない。また、ヒトにおいてはダイオキシンと子宮内膜症との関係を取り扱った論文は極めて乏しい。

(議事録より武谷雄二教授のコメント——筆者注)

「この実験 (Ratらの実験 a の前半部——筆者注) は期間も長いわけでありまして、これは論文にも書いてありますけど偶然これを発見したものであり予め子宮内膜症の発生を見ようとしてこのスタディを行ったわけではないということでありまして、この飼育方法の詳細は非常に不詳でありまして、この辺が明らかにされないといこの研究の意義は十分にはオーソライズすることができないのではないかと思われます。」

(a の前半部の実験が、ダイオキシシンが人間の子宮内膜症に影響を与える証明だとしきりにマスコミで報道されますが、後半部の実験については全く知られていません。しかも例えば b で示したことのような、実験者が想定しなくてはならない影響が省かれているという事です。実験としては、ダイオキシシンが関係ないとわかる後半部の方が評価できるのではないのでしょうか。——筆者)

以上、ヒト及び動物実験を通じダイオキシシンと子宮内膜症との因果関係を論ずるには余りにデータが希少でしかも一貫性に欠けているといわざるを得ない。少なくともヒトにおける子宮内膜症の発生リスクは月経、妊娠、分娩歴、女性のライフスタイルなどで説明しうる部分が大きく、ダイオキシシン類がその発生を規定する強力な因子とはいえない。

以上の文献は、ダイオキシシン・環境ホルモンの人間に与える影響については引き続き研究が必要として締めくくられています(研究会も引き続き行われる予定)。研究者も否定しようとしてデータを集めたようにも見られず、必死にダイオキシシン・環境ホルモン問題を解決しようとしたデータを見ると、マスコミで言われているのは全く違ったものだったというのが本音のようです。

四、私見では、高度経済成長の始まりから80年代初期にかけてのほうが公害、環境問題にかなり無頓着で、この時期にかなりのダイオキシシン類が発生したと思います。また、この時代は、様々な種類の公害病が発生した時期でもあります。過去のデータとの関連はどうなっているのか疑問に思い立つたところ、二つの興味深い資料を発見しました。

例1. 母乳に含まれるダイオキシシン濃度も減少傾向にある

〔九八・四・七〕平成九年度厚生科学研究所「母乳中のダイオキシシン類に関する調査」中間報告』から引用、要約

* 保存母乳調査(大阪府)

大阪府公衆衛生研究所において凍結保存している母乳(一九七三年～一九九六年)の脂肪中のダイオキシシン類の濃度を測定し、大阪

府における過去の母乳中のダイオキシン類の平均濃度の年次推移をみる。測定に用いた検体数は合計649。

母乳中のダイオキシン類濃度は一九七三年から一九九六年にかけてほぼ半分近くに減少しており、TEQ濃度の減少率はPCDDに比べPCDFの方が大きかった(図1)。また、コプラナーPCBはPCDD・PCDFよりも大きく減少していた(図2)。また、廃棄物処理施設からの距離と、1回目の母乳に含まれる脂肪1g中のダイオキシン類濃度及び母乳100g中のダイオキシン類濃度との間には相関はみられないという観測結果も得られている。」

以上の結果は、やはり高度経済成長期に高く最近は減少傾向にあり、なぜ現在急に反ダイオキシン・環境ホルモン運動が異常に高まったのかという疑問を支持します。また、母乳に含まれるといつてかなり問題提起されていますが、赤ちゃんをもつ母親に過度に恐怖心を与え、運動の高まりを期待したやり方だと考えられます。

また上記の資料を見つけたあとに、海外の一般論として次のような記事を見つけた(情報季刊誌『REBORN』一九九七年)。

「海外の母乳汚染研究——本郷寛子さん(ラクテーション・コンサルタント)に聞く……ドイツでは、同国の科学省が八四年から十年間にわたり「母体の汚染レベルによって、生後4ヵ月以降は粉ミルク

図1 ダイオキシンの推移

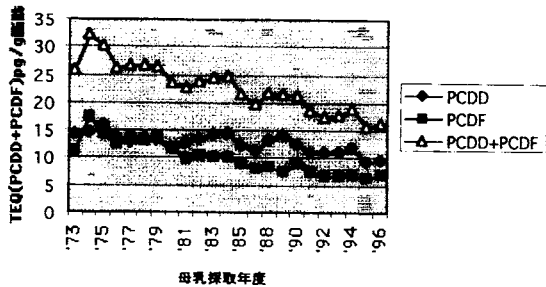
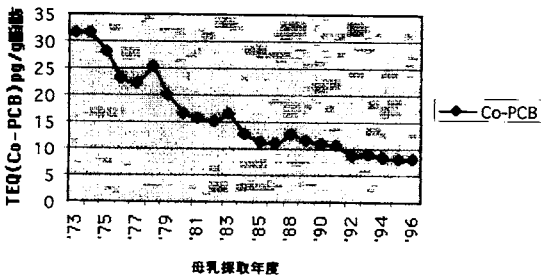


図2 Co-PCBの推移



に切り替えた方がいい』という指導をしてきました。しかし、その後の研究により、九五年には『母乳育児に危険はない』とそれまでの指導が誤りであったことを認めました。地球レベルでダイオキシンの汚染レベルも下がっていることは、WHOの報告でも明らかですが、九五年に出版された環境汚染の専門誌によれば、全体のPCBレベルはあまり変わらないのに、母乳のダイオキシン・フランの平均有毒レベルは、37%減ってきているそうです。(『Tox Envir Hlth 1995;46:133-48』) 何よりも、断乳という指導によって、母親たちに精神的な動揺を与えたことをドイツでは反省しています。マスコミは恐怖心をおおるような表現を使ってセンセーショナルに騒ぎがちですが、すでに『母乳の利点は、汚染物質の危険性をはるかに上回る』ことを裏つける研究は数え切れないほど多くなされています。たとえば、Pediatrics 1996;97(5):700-06によれば、PCBとダイオキシンにさらされた母乳で育てられた赤ちゃんでも、人工乳育児の赤ちゃんに比べて、精神的にも運動発達の面でも優れていることが明らかです。また、母乳育児の期間が長ければ長いほど、運動面でも心理面でも発達がいいこともわかりました。」

反ダイオキシン・環境ホルモン運動家はドイツが反ダイオキシン運動の先進国としてしきりに取り上げますが、ドイツでもいきすぎたマスコミ報道が存在していたということです。また、母乳に含ま

れるダイオキシンの濃度が減少していることは地球規模でも同様のことであることがわかりました。母乳にダイオキシンが混入しているも赤ちゃんが元気に育つという文献については、マスコミでは全く報道されていません。

例2. 大気中に含まれるダイオキシンの濃度(全国の平均値)に一九九四年度までと、一九九六年度に大きな違いがある(表1:環境庁からの資料)。

例1と異なる視点ですが、九四年度以前と九六年度以降にダイオキシンの濃度に歴然と差が見られるのです。

このことは千乃先生がJ-I九七年十二月号(P7-10)にて分析された「S波が滞留することにより大気中の酸素が欠乏し、そのため汚染物質が自然に化学反応により分解されず多く残存する」ということを示しているのではないかと思いました。「このようなことでは、日本の左翼勢力の謀略で、大気と水質汚染が続き、地磁気の逆転を待たず、自然界と人類の大半が三年以内に死亡するという悲劇が起こると天上界が言われます」(J-I九七年十一月号P11)。そして、反ダイオキシン・環境ホルモン運動家に姿を借りた左翼勢力は、実際は自分たちのS波攻撃によるものであるのに、ダイオキシンや環境ホルモンが原因として、日本人からS波被爆犯罪を多い隠

そうととして、それが明白となりました。

さらに土壌中でもS波汚染とダイオキシンは関係づけられます。日本において、ダイオキシン類の蓄積度について地域によってデータのばらつきが大きいのは、S波による環境破壊により生態系が崩れ、自然にダイオキシンを代謝できなくなっていることによるのではと考えられます。ダイオキシン類であるPCBを代謝できる細菌も土壌から採取され、現在研究されています。その他のダイオキシン類を代謝できる菌類も最近次々と発見されています（九州大学と愛媛大学の別々のグループ）。高濃度のダイオキシン類が蓄積している場所は、S波により細菌類（以上のような絶環境で存在できる菌類をふくめ）の生態系におけるバランスが、かなり狂ってきており、ダイオキシンを分解できる細菌類が少なくなっているのではないのでしょうか。O-157など近年に特徴的な病原菌もS波による細菌類の生態系の破壊のため、何らかの影響で存在しやすくなっており、そこにS波による人間の免疫力の絶大な低下から、被害の拡大が生じているのではないのでしょうか。日本において、ダイオキシン類が高濃度で存在する特定の場所で、ある種の病気が見られた場合には、その場所に蓄積しているS波により人間が免疫力の低下を引き起こされ、そこに高濃度のダイオキシン類が作用した複合的な場合、または、直接にS波による病症ではないかと思われれます。

我が国における大気中の（PCDD+PCDF）濃度 (pg-TEQ/m3)

地 域	90年度	92年度	94年度	96年度
工業地帯近傍住宅地	0.11-1.12 (0.57)	0.12-1.03 (0.63)	0.10-1.33 (0.63)	0.38-1.67 (1.00)
大 都 市	0.02-2.73 (0.67)	0.04-1.37 (0.60)	0.03-1.10 (0.37)	0.30-1.65 (1.02)
中都市地域	0.01-1.16 (0.71)	0.01-1.36 (0.36)	0.01-0.60 (0.20)	0.05-1.56 (0.82)
バックグラウンド地域	0.01-0.46 (0.19)	0.00-0.02 (0.01)	0.01-0.04 (0.02)	0.05-0.10 (0.07)

備考：（ ）内の数値は平均値、環境庁調査より

諸外国における大気中の（PCDD+PCDF）濃度

国名	地域	年	濃度 (pg-TEQ/m3)
アメリカ	都市域	1989	0.08-0.18
アメリカ	農村域	1989	0.05
ドイツ	工業地域	1993	0.15
ドイツ	都市域	1994	0.07-0.35
ドイツ	農村域	1994	0.03-0.07
イギリス	都市域	1993	0.04-0.10
スエーデン	都市域	1991	0.024
スエーデン	郊外域	1991	0.013

新ガイドライン添付資料より

例3. 産経新聞一九九八年六月二日——ダイオキシン検出解明ならず 能勢町焼却施設——厚生省が聴取結果公表

「大阪府能勢町のごみ焼却施設「豊能郡美化センター」の周辺土壌で高濃度のダイオキシンが検出された問題で、厚生省は汚染の原因や焼却灰の処理方法などについて、施設組合、施設管理会社、施設メーカーの三者から事情聴取した結果を公表した。

土壤汚染の原因について、排出ガスの拡散モデルと実際に明らかになっているダイオキシンの排出データが合わず、高濃度のダイオキシンが「排出ガスのみ起因するとは考えにくい」と指摘。焼却灰については、運搬車両への積み込みや倉庫への搬入などの際、シートで覆うなどの対策により「飛散はなかったと考えられる」とし、いずれも原因究明に結び付く回答はなし。厚生省は「高い数値が出ている以上、説明が事実なら別の原因があると思わざるを得ない」（環境整備課）として排ガスの拡散予測など科学的な解明に力を入れる方針だが、汚染が表面化してから一カ月半経過しても原因がつかみ切れていない。」

以上のケースは、ダイオキシンの土壌中の蓄積とごみ焼却施設原因が解明できない。これは千乃先生がJ-I九七年十二月号P11にて分析されたようにS波蓄積とダイオキシンの土壌中の蓄積が関連していることを示していると思います。

五、ダイオキシン問題の解決策について

以上のことより、ダイオキシン・環境ホルモン問題について解決するためにやるべきことは、まず、S波の攻撃、蓄積を解除することです。自然破壊をやめることです。違法の送配電線工事、土地開発をなくし、緑を増やし美しい従来の日本の環境に戻すことなのです。

また、ダイオキシンと関連づけられるごみ問題については、ごみ焼却の効率化を率先すればよいと思います。高温で効率よく完全燃焼できればダイオキシン類は発生しません（かえってごみが少ないと、炉が冷えてしまいダイオキシンが発生するそうです）。複数の自治体で、最新の高温焼却炉を共有するようにすれば、省コスト省エネにもつながりよいと思います。

六、ダイオキシン以外にも非常に有害な化学物質は多く、すべての有害物質に対し監視するということは、欧米先進諸国ではあたりまえのことで、日本のダイオキシンだけに過敏に反応する現状は非常におかしい。

自治体、企業、科学者などは、どちらかといえば、マスコミを恐れ、ダイオキシン・環境ホルモンに非常に注目するため、それ以外の環境汚染物を軽視する傾向も生まれます。あるいは、すべて解決

できない問題、病状などをヒステリックにダイオキシンの環境ホルモンのせいと考えるようになる（それが、S波によるものであっても）。以上のように、日本国民はS波被曝を問題視しないように仕組まれているのです。また、欧米諸国では、日本の環境ホルモンの同じように電磁波被曝汚染も盛んに論じられているのに、日本では電磁波被曝汚染の問題は非常に奇妙に完全に抜け落ちている。全く、電送関係、および左傾自治体、左傾環境保護団体により、仕組まれているとしか言えません。

また、参考までにわが国の環境美化の範となるべき環境庁出版の

『環境白書』でさえも、もつとも重要な資料となるべきなのに、日本の環境、生態系の破壊に対して全く危機感がありません。自然と親しもうという程度で自然と親しむこと「レジャー」という考え方が今だ主流のようです。さらに日本の環境保護活動というものはほとんどが左翼系運動団体（自治体、特定企業）たきを目的としている（が中心であり、環境破壊者、環境保護運動家両者共に巧妙に日本そして地球破壊のため働き合っている現状なのです）。

（書き込み、傍線は千乃による。）

— 絶賛発売中！ —

迫り来る地球の危機

未知の兵器による生態系の破壊に警鐘を鳴らす

各国自由主義陣営要人を狙う

スカラー波の正体とは？

科学時代の啓蒙書

J1 第20巻 特別増刊号

定価（本体980円＋税）

